

平成26年度入学生用

履 修 要 項

(syllabus)

生活科学科

生活科学専攻

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学

Kagoshima Women's College

《 目 次 》

学修の手引き	P1 ～ P4
--------	---------

平成26年度入学生 教育課程	P5 ～ P16
----------------	----------

[一般教養科目] (共通)	P17 ～ P50
---------------	-----------

生活科学専攻 [専門科目]

1年次用(平成26年度)	P51 ～ P77
--------------	-----------

2年次用(平成27年度)	P78 ～ P109
--------------	------------

生活福祉専攻 [専門科目]

1年次用(平成26年度)	P111 ～ P136
--------------	-------------

2年次用(平成27年度)	P139 ～ P164
--------------	-------------

食物栄養学専攻 [専門科目]

1年次用(平成26年度)	P165 ～ P193
--------------	-------------

2年次用(平成27年度)	P194 ～ P227
--------------	-------------

《 巻 末 》

※「修得単位記入一覧表」

[注 記]

※平成27年度(2年次)の履修科目について、
一部「担当者・履修内容等」の変更があります。
なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

1
年
前
期

1
年
後
期

2
年
前
期

2
年
後
期

修
得
単
位
記
入
表

学 修 の 手 引

この冊子は、本学での学修の手引きとして作成したものです。

はじめに、生活科学科、生活科学専攻・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の教育課程を掲載しました。これは平成26年度入学生の皆さんに対して開設される授業科目を示したものです。

つぎは、講義要項で、教育課程に示された各授業科目について、担当教員が授業の概要・授業の項目等を解説したものです。受講に際して大いに活用してください。

1. 履修計画および単位修得

大学における履修計画および単位修得は、皆さん一人ひとりの問題であり、自分自身の責任においてなされるべきものです。したがって、自ら本学を志した初心に立ち、もう一度将来の進路を見極め、その目標に沿って確実な履修計画を立てて単位を修得していくよう努めなければなりません。

履修上の疑問点については、学級指導教員（ホーム担任）の指導・助言をしっかり受け、また教務課に問い合わせるなどして、問題を残さないようにしてください。卒業の時期になって単位不足や単位の取り違いなどにより、卒業あるいは、めざす免許・資格の取得ができないなどのことがおこらないよう十分注意してほしいと思います。

2. 教育課程と履修

本学における教育課程には、まず、一般教養科目の他に、専攻ごとに専門科目がおかれています。その中に卒業要件としての課程のほかに、免許・資格を取得するために必要な課程が体系的に編成されています。以下、教育課程のことについて説明します。

(1) 授業科目の **区分** について

- ① 一般教養科目
- ② 専門科目
- ③ 教職科目
- ④ 医療秘書実務士関係科目（生活科学専攻）
- ⑤ 第一種衛生管理者免許関係科目（生活科学専攻）
- ⑥ レクリエーション・インストラクター養成科目（生活福祉専攻）
- ⑦ 介護福祉士養成科目（生活福祉専攻）
- ⑧ フードスペシャリスト養成科目（食物栄養学専攻）
- ⑨ 栄養士養成科目（食物栄養学専攻）
- ⑩ ピアヘルパー認定試験受験資格必修科目（専攻によって異なる）

(2) 授業科目の **履修方法** について

大学の授業は、講義・演習・実験・実習・実技など、その形態はさまざまですが、学生の主

への参加によって、高度な知識・技能を修得し、あわせて学問的研究のあり方についても十分身につけるようにしてもらいたいと思います。

(3) 授業科目の **単位数** について

大学の授業科目には、それぞれ単位数が定められています。これは、授業の形態と授業時間数に応じて決められているものです。したがって、皆さんは授業科目を履修して単位を修得

し、その単位数で課程の終了が認定されることになります。そこで、開講されている授業科目の中から、所要の科目を履修し、それらの単位を修得して、卒業や免許・資格の取得に必要な要件を充足しなければなりません。

(4) 授業科目の **必修・選択** の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

- ① 必修科目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ③ 選択科目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

(5) 授業科目の **開講学期** について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまり当該授業科目が開講される学期は、その授業科目の単位数が記入されているところとなります。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

(6) **履修届** について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な科目とその単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

(1) 卒業の要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各専攻ともに62単位以上を修得した者を卒業と認めることになっています。

卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

専攻	一般教養科目			専門科目		一般教養科目 又は専門科目 の中から	計
	必修	選択必修	選択	必修	選択		
生活科学専攻	3	4	7	16	30	2	62
生活福祉専攻	3	4	7	46		2	62
食物栄養学専攻	3	4	7	22	24	2	62

卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、14単位以上を修得すること。

○ 必修科目 … 「キャリアガイダンス」を2単位、「WE LOVE 鹿児島！」を1単位修得すること。

○ 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれかの同じ科目のⅠ・Ⅱを4単位修得すること。

○ 選択科目 … 上記以外の一般教養科目の中から、7単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。

この場合、各専攻によって必修科目・選択科目が決められているので十分配慮すること。

ウ. アとイで60単位になります。残りの2単位は、一般教養科目又は、専門科目の中から2単位以上を修得すること。

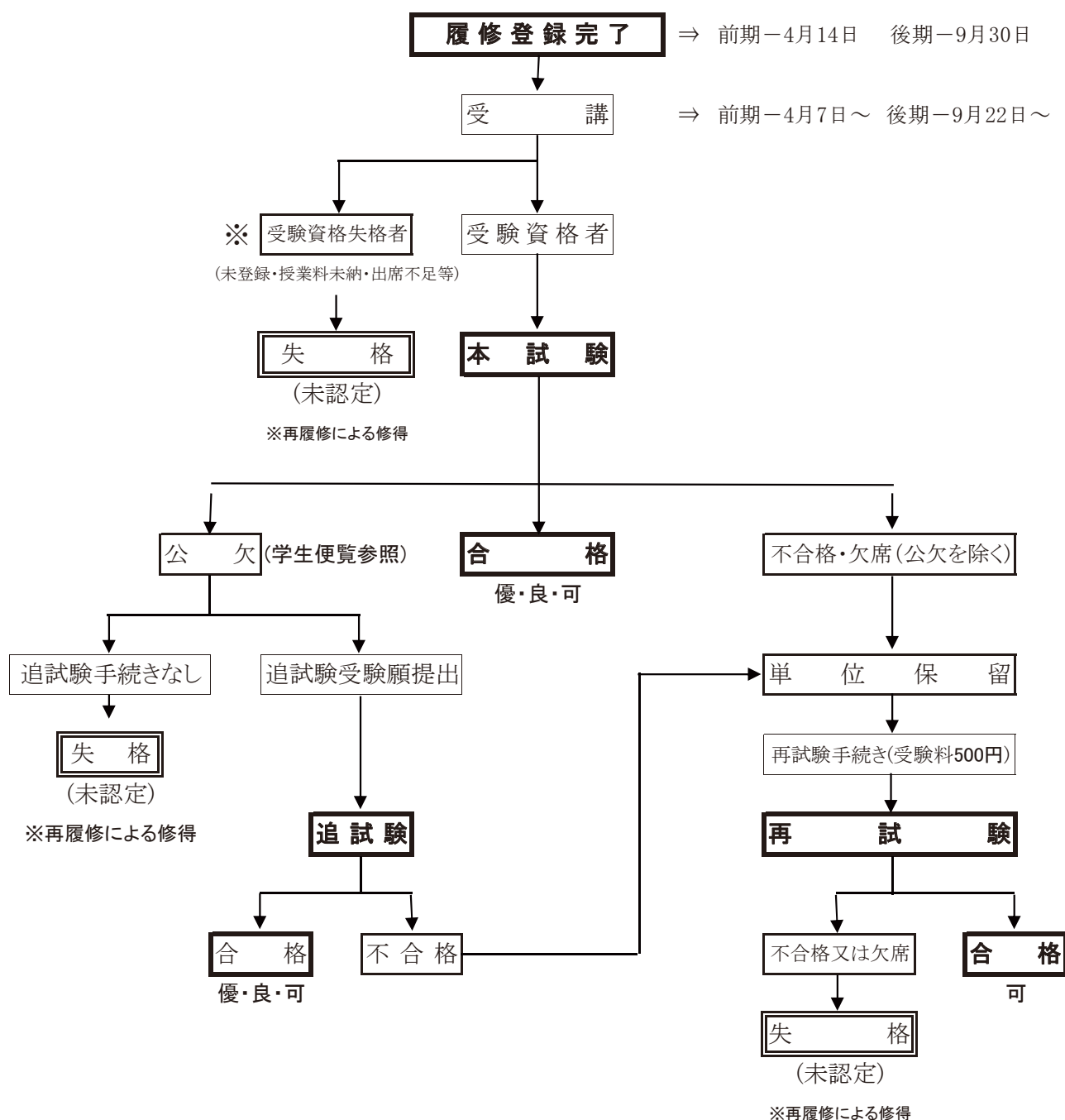
なお、「免許・資格関連科目」は、「専門科目」に含まれるものを除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

(2) 免許または資格

生活科学科・各専攻において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

学 科	専 攻	取得できる免許状・資格
生活科学科	生活科学専攻	養護教諭二種免許状 中学校教諭二種免許状(保健) 医療秘書実務士認定証 第一種衛生管理者免許 ピアヘルパー受験資格
	生活福祉専攻	介護福祉士登録証 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格
	食物栄養学専攻	栄養士免許証 栄養教諭二種免許状 フードスペシャリスト受験資格 日本茶アドバイザー受験資格 ピアヘルパー受験資格

「履修登録」から「単位認定」までの流れ



I. 「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「成績発表用学生番号」によって
掲示します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

II. 「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「成績発表用学生番号」によって掲示します。

※ 「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

一般教養科目

生活科学専攻

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

科目番号	1	授業科目	日本語表現の基礎 (Fundamentals of Japanese Expressions)				担当者	瀬戸口 修
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 日本語の表現(書くこと・話すこと)について、基礎的な表現力(就中、書く力)を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることを、めざす。							
	2. 到達目標 (1)原稿用紙のつかい方を身につける。 (2)文字・表記・用語に習熟する。 (3)文章表現力を身につける。							
	3. 事前事後学習 新聞やテレビなどで、種々の情報を収集し、自分の考え・意見を表明・開陳する場を多くもつ。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 自己紹介(話す・書く)							
	② 原稿用紙のつかい方の演練……定着・実践							
	③ 文字(字形、楷書、鉛筆書き、五十音図、いろは歌) について							
	④ 表記法(文体→常体＝デアル・ダ・タ体。ひらがな書きなど) について							
	⑤ 課題作文の提示……① レベルⅠ							
	⑥ 一文の短さ・簡潔さの模範→奨励→実践							
	⑦ 話しことばと書きことばの差異の具体的理解(演練) →→課題作文に活かす。							
	⑧ 課題作文の提示……② レベルⅡ							
	⑨ 文のつづけ方(＝接続のしかた) の理解→演練→実践							
	⑩ 課題作文のチェックとフィードバック							
	⑪ 課題作文の提示……③ レベルⅢ							
	⑫ 段落設定とその工夫……文章構成の理解→実践							
	⑬ 一語作文・一文作文の理解・演練→実践							
	⑭ 文章の推敲について……演練							
	⑮ 課題作文の提示……④ (最終作文) レベルⅣ							
成績 評価	各種レポート(20%)と最終作文(80%)							
	参 考 文 献 等							
備 考	テ キ ス ト : 米田明美 蔵中さやか 山上登志美 著 『大学生のための日本語表現 実践ノート』 風間書房							
	オフィスアワー		火7・8限					

科目番号	2	授業科目	倫 理 学 (Ethics)				担当者	村若 修
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について考える学問です。道徳とか倫理とかいうものは、実はすでに皆さんがすでに身につけているものです。倫理学は、その身につけているものを反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題について考えていきます。まずアメリカ流の「生命倫理」の成立史や基本思想を明らかにし、その後、主として医療倫理の諸問題にテーマを絞って解説します。さまざまなテーマについて、ビデオなどを用いて身近な問題として関心を持ってもらい、倫理学的な思考の訓練をします。							
	2. 到達目標 1. さまざまな道徳的ジレンマを学びつつ、原則に基づいて自ら考えることができる。 2. 生命尊厳の理念のもとで、自己と他者を人格として理解することができる。 3. 現実に生じている生命倫理の問題に関心を持ち、自ら判断することができる。							
	3. 事前事後学習 講義前に講義で扱うテキストの部分を読んでおくこと。 講義後、復習や視聴覚教材の感想文を課することがある。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 倫理学と「生命倫理」							
	② 生命倫理の成立(1)患者の権利							
	③ 生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史							
	④ 生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則							
	⑤ 尊厳死(1)							
	⑥ 尊厳死(2)							
	⑦ 安楽死(1)							
	⑧ 安楽死(2)							
	⑨ 人工妊娠中絶							
	⑩ 不妊治療技術の利用(1)							
	⑪ 不妊治療技術の利用(2)							
	⑫ 出生前診断(1)							
	⑬ 出生前診断(2)							
	⑭ 脳死と臓器移植(1)							
⑮ 脳死と臓器移植(2)								
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 提出物(感想文等)(20点)							
参考文献等	テキスト:中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂 使用視聴覚機器:VHSビデオデッキ、DVDプレーヤー							
備 考								
	オフィスアワー		火曜日					

科目番号	3-①	授業科目	文学 (Literature)				担当者	瀬戸口 修
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年 ・ 前期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 日本文学の代表的古典である、「万葉集」について、テーマ別に説明を加え、理解を深める。							
	2. 到達目標 万葉集の和歌の鑑賞ができる。古代人の考え・想いを理解する。自分の考え・意見を確認する。							
	3. 事前事後学習 日本の名所・旧跡や歴史および和歌・文字に興味をもち、伝統的な文化についていろいろな機会を通して、ふれる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 『万葉集』の概説・・・構成・成立年代・編者・名義の由来など。							
	② 万葉の自然Ⅰ・・・花（もみじetc.）・花鳥							
	③ 万葉の自然Ⅱ・・・動物							
	④ 万葉の結婚							
	⑤ 万葉の夫婦							
	⑥ 万葉の親子							
	⑦ 万葉の兄弟							
	⑧ 万葉の友							
	⑨ 万葉の旅							
	⑩ 万葉の社会生活							
	⑪ 万葉の恋Ⅰ							
	⑫ 万葉の恋Ⅱ							
	⑬ 万葉の恋Ⅲ							
	⑭ 万葉の恋Ⅳ							
	⑮ 総まとめ・プレテスト							
	成績 評価	各種レポート(20%)と筆記試験(80%)						
参考 文 献 等	テキスト: 中西進著『万葉集全訳原文付』(vol.1～4巻) 講談社文庫 参考文献: 斎藤茂吉著『萬葉秀歌(上・下巻) 岩波新書							
備 考								
	オフィスアワー	金7・8限						

科目番号	3-②	授業科目	文学 (Literature)			担当者	吉村 圭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 文学作品の深い理解のためには、歴史的背景の理解が不可欠である。そこでこの講義では、代表的なイギリス文学の作家・作品を、イギリスの歴史をたどる形で学習する。英文学史のおおまかな流れを把握しながら、各時代の文学作品への理解を深める。この講義では文学というものを広義にとらえ、ポピュラーミュージック等にも言及する。講義では作品の原文をはじめ、映画等を用いて作家の人生、作品のあらすじをたどる。						
	2. 到達目標 1. 各講義を聞き自分の意見を述べることができる。 2. 文学作品や歌詞について自ら調査し、自分の意見を述べることができる。 3. イギリスの文学、文化、歴史に興味を持ち、進んで学習することができる。						
	3. 事前事後学習 特にレポート作成時には、文学作品が書かれた時代、及びその作者について調査すること。その際、情報はインターネットのみではなく、図書館を利用し文献から収集すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	7～15世紀： イギリス文学の黎明期					
	②	16世紀： 英国国教会の成立					
	③	ウィリアム・シェイクスピアとエリザベス朝演劇の流行					
	④	シェイクスピア 『ハムレット』鑑賞					
	⑤	『ハムレット』に見られる女性の姿					
	⑥	17世紀： 清教徒革命から王政復古へ					
	⑦	ジョン・ミルトン 『失楽園』					
	⑧	18世紀： 名誉革命とイギリス小説の誕生					
	⑨	ジョナサン・スウィフト 『ガリヴァー旅行記』					
	⑩	19世紀： 産業革命の時代とロマン派詩人					
	⑪	チャールズ・ディケンズと産業革命の影					
	⑫	ディケンズ 『クリスマス・カロール』鑑賞					
	⑬	20世紀前半： 世界大戦の時代					
	⑭	T. S. エリオットとA. A. ミルン					
	⑮	20世紀後半： ヴェトナム戦争とロックンロールの隆盛					
成績評価	授業参加・毎回の感想カード(60%)、小テスト・レポート(授業時、学期末、計40%)による総合評価。						
参考文献等	必要に応じて適宜配布する。						
備考							
	オフィスアワー	金曜 12:55～14:25					

科目番号	4	授業科目	心理学 (Psychology)			担当者	園田 美保
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 この講義の第一の目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つけて欲しい。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。						
	2. 到達目標 (1) 人間の心理と行動との関係を理解する。 (2) 自己理解を深める。 (3) 他者理解を広げる。						
	3. 事前事後学習 ・各回の授業内容から、自分でキーワードになる言葉や概念を5～10語程ピックアップする。 ・上記のキーワードを自分で説明できる程度に理解を深める。授業中で理解しきれなかった場合は図書館等を利用して調べる。 ・各回で扱った内容に関連しそうな、自分にとって身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション（講義形式、授業計画、心理学イントロ「心理学とは？」）					
	②	心理学の歴史と方法（心理学の始まり、心理学の方法論と私たちが人間を見るまなざし）					
	③	動機づけ（領域各種動機づけ説、動機の高エラルキー、動機づけを高める方法）					
	④	情動（情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害）					
	⑤	認知（私たちは環境をどのように知るのか？ 感覚、知覚、認知の特性）					
	⑥	学習（人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習）					
	⑦	中間振り返り ＜普段の「わたし」の行動を、これまでの心理学で解説してみる＞					
	⑧	知能（知能の構造、知能の発達、遺伝か環境か？、今からできる創造性を発揮する思考法）					
	⑨	パーソナリティ（人の特徴の捉え方:類型論と特性論、人格のつくられる、性格の測り方）					
	⑩	適応（人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制）					
	⑪	社会と人間1（集団とは、集団から個人への影響）					
	⑫	社会と人間2（個人や少数者が集団に与える影響:少数意見が通る条件／リーダーシップ論）					
	⑬	臨床の心理学1（心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解）					
	⑭	臨床の心理学2（心理療法のアプローチ四者四様;精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法）					
		⑮ 総括・補足・全体ふり返り					
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度(65%)・中間レポート(10%)・最終レポート(25%)						
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材:プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト						
備考							
	オフィスアワー	火16:20～					

科目番号	5	授業科目	社 会 学 (Introduction of Sociology)				担当者	倉重 加代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 自分から離れて世の中を見る視点を身につけ、日常生活や社会の仕組みを理解する。							
	2. 到達目標 1.社会学の基本的視点を身につける。 2.社会の多様性、可能性について理解する。 3.情報評価能力を身につける。							
	3. 事前事後学習 事前学習…教科書を読んでおくこと。 事後学習…授業で取り上げた事例に対して、自分自身の意見をまとめること。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 社会学とは							
	② 意味と相互主観性							
	③ アイデンティティ(1) 自分探し							
	④ アイデンティティ(2) アイデンティティと社会との関わり							
	⑤ アイデンティティ(3) 自分探しと現代社会							
	⑥ 正常と異常(1) 正常と異常の境界							
	⑦ 正常と異常(2) レッテルを貼る／貼られること							
	⑧ 正常と異常(3) 水俣病に学ぶこと							
	⑨ 予言の自己成就(1) イメージと現実							
	⑩ 予言の自己成就(2) 意図せざる結果							
	⑪ 共同体(1) 家族の現実							
	⑫ 共同体(2) 地域社会の変容							
	⑬ 共同体(3) 新たな関係性							
	⑭ 国家と市民社会(1) 国家とは何か							
	⑮ 国家と市民社会(2) 国家と市場と市民 総括							
	⑯ 筆記試験							
成績 評価	筆記試験(90%)※筆記試験は90分で実施 受講態度(10%)							
参考 文 献 等	使用テキスト 友枝敏雄ほか編『社会学のエッセンス[新版]』有斐閣 2007年 参考文献 フロム, E. 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社 1951年 アリエス, P. 杉山光信・杉山恵美子訳『〈子供〉の誕生』みすず書房 1980年 ほか 一部視聴覚機器(DVD)使用							
備 考	オフィスアワー 火曜日9・10限目(研究室)							

科目番号	6	授業科目	国際化と経済 (Internationalization & Economics)			担当者	大重 康雄
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 産業と経済・金融の基本的なしくみ、国際経済の現状を学ぶ。 ・国際社会の現状を理解し日本・地域経済の課題について考える。						
	2. 到達目標 1.基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる。 2.グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきか主体的に判断できる。”						
	3. 事前事後学習 ・各授業のテーマの中から自分の最も関心のある事柄(経済分野)についてサマリーを作成。 ・サマリーに基づきグループで討議し、問題点をまとめる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について						
	② GDPで考える物価と経済成長						
	③ 金融のしくみと経済						
	④ 貿易取引と決済のしくみ						
	⑤ 国際通貨制度の現状と問題点						
	⑥ 企業のグローバル化(多国籍化の現状)						
	⑦ 地域経済統合(FTA/EPA)の歩み						
	⑧ グローバル・イシュー I (開発と貧困)						
	⑨ グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)						
	⑩ 各国・地域事情ーグローバル化と日本						
	⑪ 各国・地域事情ーアジア・ASEAN						
	⑫ 各国・地域事情ーアメリカ						
	⑬ 各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア						
	⑭ 鹿児島県経済とグローバル化						
	⑮ 講義の総括						
成績評価	・学期末に実施する筆記試験(90分で実施)の成績及び、授業への取組姿勢等によって評価する。 (授業での発言・取組姿勢10%・定期試験90%)						
参考文献等	○テキスト・・・「私たちの国際経済ー見つめよう、考えよう、世界のこと」 東京経済大学国際経済グループ 著 有斐閣ブックス ○参考文献・・・「グローバルエコノミー」 岩本武和ほか著 有斐閣アルマ ※ 講師作成レジュメ(毎回配布予定)						
備考							
	オフィスアワー	午後4時30分～5時30分(大重研究室)・要事前連絡					

科目番号	7	授業科目	日本国憲法 (Constitution of Japan)				担当者	池田 哲之
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択	中二保免・養教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 日本国憲法の定める重要事項の意義を、凡例解説も織りまぜ「立憲主義」の観点から明らかにする。 ありうべき憲法改正たいして、的確な判断を下しうるための基本的知識を培うことも本授業の目的である。							
	2. 到達目標 (1)「人権」の歴史的由来と今日的意義を理解する。 (2)統治機構と人権保障の関係について理解する。 (3)日本国憲法制度過程の問題点を知る。							
	3. 事前事後学習 事前学習:あらかじめ日本国憲法の条文を二読三読してほしい。 事後学習:教員の与えた課題・ワークを所定の期限内にやり終えること。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 憲法の誕生							
	② 近代立憲主義と憲法典の性格							
	③ 人権の種類							
	④ 人権の享有主体(1)－法人・外国人－							
	⑤ 人権の享有主体(2)－在監者・公務員－							
	⑥ 憲法の私人間効力、包括的基本権(憲法13条)							
	⑦ 信教の自由/内心の自由							
	⑧ 表現の自由/学問の自由							
	⑨ 人身の自由と適正手続							
	⑩ 経済的自由権と社会権							
	⑪ 統治機構と三権分立							
	⑫ 国会(立法府)の機能							
	⑬ 裁判所(司法府)の機能							
	⑭ 内閣(行政府)の機能							
	⑮ 総括－日本国憲法の制定過程と憲法改正問題も視野に－							
	⑯ 筆記試験・受講状況							
成績評価	学期末試験(90点)※筆記試験は60分で実施。 受講状況(10点) ※出席状況も勘案する。							
参考文献等	教員作成のレジュメ 長尾一紘著『はじめて学ぶ やさしい憲法』実務教育出版 憲法条文資料							
備考								
考	オフィスアワー	火曜日16:30～17:30						

科目番号	8	授業科目	歴史学 (History)			担当者	松崎 康弘
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 民俗学や地理学など他学問との連携も視野に入れながら、生活に密接なかかわりをもつ題材から、何を目的としどのような方法で研究がなされているかという歴史学の在り方を学ぶ。						
	2. 到達目標 ①民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する。 ②過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす。 ③歴史学の成果を参照しながら社会の在り方を考える。						
	3. 事前事後学習 事前学習として、高校までの歴史学習を振り返る。事後学習として、授業時に提示されたテーマについて、自分の住む地域等に即して調べ学習を行う。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①	イントロダクション					
	②	地名と歴史研究 (1) —難読地名の研究—					
	③	地名と歴史研究 (2) —鹿児島・南九州・沖縄の地名研究—					
	④	地名と歴史研究 (3) —地名研究の意義—					
	⑤	歌をとおしての地域性研究					
	⑥	お化けの研究 (1) —「怪談」を研究する視点—					
	⑦	お化けの研究 (2) —お化けの不易と流行—					
	⑧	お化けの研究 (3) —柳田國男の研究と町おこし—					
	⑨	お化けの研究 (4) —お化け研究の意義—					
	⑩	人生儀礼の研究 (1) —死の文化と歴史—					
	⑪	人生儀礼の研究 (2) —恋愛と結婚の歴史的研究—					
	⑫	人生儀礼の研究 (3) —祭り・芸能の研究—					
	⑬	人生儀礼の研究 (4) —人生儀礼研究の意義—					
	⑭	食文化の歴史					
	⑮	鹿児島近現代史					
成績評価	筆記試験(60分で実施)にて評価する。(100%)						
参考文献等	○参考文献は講義中に適宜指示する。 ○ビデオ(DVD)を使用する場合がある						
備考							
	オフィスアワー	月曜日 18:00～19:00					

科目番号	9	授業科目	インターンシップ （“Internship” in Companies）			担当者	大重 康雄	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ・本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を垣間見る機会を与え、これまで得てきた理論や技術が社会といかなる関連をもっているかを、体験を通して考えることである。							
	2. 到達目標 1.社会体験を大学での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立てる。 2.職業に関する興味、関心、適性が、どこにあるかを自ら考える機会とする。 3.実社会の厳しさを体験することによって、社会人となる自覚を持ち、自己啓発に努める。							
	3. 事前事後学習 ・関心のある企業について企業研究をしっかり行い企業選択を行う。 ・インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるようにまとめる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	ガイダンス・インターンシップとは何か					（ 大重 ）	
	②	研修先企業概要・エントリーシート登録方法説明					（ 大重 ）	
	③	エントリーシート・自己PRの書き方					（ 大重 ）	
	④	一次マッチング説明・仕事の基本的心得					（ 大重 ）	
	⑤	外部講師講演（1）					（ 外部講師 ）	
	⑥	研修企業の研修内容説明					（ 大重 ）	
	⑦	来客対応の基本・二次マッチング参加登録					（ 大重 ）	
	⑧	職場の人間関係・二次マッチング調整					（ 大重 ）	
	⑨	職場のマナー研修					（ 学内講師 ）	
	⑩	企業のしくみとコンプライアンス					（ 大重 ）	
	⑪	研修企業の業界研究					（ 大重 ）	
	⑫	外部講師講演（2）					（ 外部講師 ）	
	⑬	本学講師指導：お礼状の書き方					（ 学内講師 ）	
	⑭	研修日誌・研修のレポート提出					（ 大重 ）	
	⑮	インターンシップ参加報告発表会					（ 大重 ）	
成績 評価	※講義終了後 企業団体へのインターンシップ参加（実習） ・研修報告書、研修日誌、研修総括レポート、事前・事後研修（指導）等で総合的に評価する。 ・受講態度（20％） レポート等提出状況（30％） 参加報告プレゼンテーション内容（50％）							
	○講義の都度紹介する							
参 考 文 献 等								
備 考								
	オフィスアワー	午後4時30分～5時30分（大重研究室）・要事前連絡						

科目番号	10－①	授業科目	キャリアガイダンス（Ⅰ） （Career Guidance Ⅰ）				担当者	一年指導教員
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	演習	1	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 有意義な短大生活を過ごすために、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考えさせる。							
	2. 到達目標 1. 自己理解を深める。 2. 自分の生き方を考える。							
	3. 事前事後学習 授業の前に、内容を把握する。授業後にレポート等にまとめる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① キャリアデザインの基礎理解							
	② 短大生活の送り方							
	③ 働く意味と職業観							
	④ 多彩な職種や業種と適職							
	⑤ キャリアガイダンス							
	⑥ キャリアガイダンス							
	⑦ 組織の仕組みと自分の立場							
	⑧ キャリアデザインの構築							
	⑨ レポート等の提出							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績 評価	受講態度(60点) レポート等の提出状況(40点)						
(※ 必要に応じ、適宜紹介する。)								
参考 文 献 等								
備 考								
	オフィスアワー	木 7, 8限						

科目番号	10ー②	授業科目	キャリアガイダンス（Ⅱ） （Career GuidanceⅡ）			担当者	二年指導教員
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	2年・前後期	生活科学 全専攻	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 1年次のキャリアガイダンスを基に、働くことの社会的及び個人的な意義を考えさせる。また、それを通して、自分のあり方を考えさせる。						
	2. 到達目標 1. 働くことの意義を考える。 2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する。						
	3. 事前事後学習 授業の前に内容を把握する。授業後にレポート等にまとめる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 到達目標の設定と自己啓発						
	② キャリアデザインの構築						
	③ キャリアガイダンス						
	④ 職場の基本ルール						
	⑤ キャリアデザインに応じた働き方の理解						
	⑥ キャリアガイダンス						
	⑦ キャリアガイダンス						
	⑧ キャリアデザインの将来設計と仕事の取り組み方						
	⑨ レポート等の提出						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績 評価	受講態度(60点) レポート等の提出状況(40点)					
(※ 必要に応じ、適宜紹介する。)							
参考 文 献 等							
備 考							
	オフィスアワー	木 7, 8限					

科目番号	11―①	授業科目	英語演習Ⅰ (EnglishⅠ)			担当者	高島 まり子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英語の総合力「聴く・話す・読む・書く」を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。						
	2. 到達目標 1.基礎的文法力を固める。 2.「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる。 3.リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く。						
	3. 事前事後学習 予習・復習・課題の提出						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	<Unit 1>					
	②	同					
	③	<Unit 2>					
	④	同					
	⑤	<Unit 3>					
	⑥	同					
	⑦	<Unit 4>					
	⑧	同					
	⑨	<Unit 5>					
	⑩	同					
	⑪	<Unit 6>					
	⑫	同					
	⑬	<Unit 1,2>総括					
	⑭	<Unit 3,4>総括					
	⑮	<Unit 5,6>総括					
	⑯	筆記試験					
成績評価	受講態度(40%)、期末試験(60%)の総合評価						
参考文献等	○Communication Builder (吉富 昇 著、南雲堂 2014年) をテキストとして使用予定だが、変更の可能性あり。 ○視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン) 使用						
備考							
	オフィスアワー	水曜日 12:00～14:00					

科目番号	11-②	授業科目	英語演習Ⅰ (EnglishⅠ)			担当者	吉村 圭
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる。 2. 英語及び異文化に興味を持ち、進んで学習することができる。 3. 積極的に問題に取り組み、英語の理解を深めることができる。						
	3. 事前事後学習 各文法事項を授業時に理解したうえで、テキストの問題を復習しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション(授業説明、テキスト・マンガの紹介、文法導入)						
	② Unit 1 be動詞(現在形)						
	③ Unit 2 一般動詞(現在形)						
	④ Unit 3 be動詞(過去形)						
	⑤ Unit 4 一般動詞(過去形、規則変化)						
	⑥ Unit 5 一般動詞(過去形、不規則変化)						
	⑦ Unit 6 命令文、There is[are]～、itの特別用法						
	⑧ Unit 7 注意すべき疑問文						
	⑨ Unit 8 進行形						
	⑩ Unit 9 未来形						
	⑪ Unit 10 助動詞(1)						
	⑫ Unit 11 助動詞(2)						
	⑬ Unit 12 名詞・冠詞 基本事項						
	⑭ Unit 12 名詞・冠詞 応用						
	⑮ 総括						
	成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。					
参考文献等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。						
備考							
考	オフィスアワー	金曜 12:55～14:25					

科目番号	11－③	授業科目	英語演習Ⅰ (EnglishⅠ)			担当者	後藤 廣文
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけること。						
	2. 到達目標 ①英語のリズムに慣れること ②英語の語彙を増やし、会話表現を知ること ③TOEIC400点レベルのリスニング問題で正答率60%を取ること もちろん英語を聞き取る力を養うには努力が必要で、ただ座って聞いているだけでは向上しません。						
	3. 事前事後学習 単語を調べて覚えるという予習と復習として特にCDを繰り返し聞いて確認することが大切。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 授業方針の説明及びListening (Face等)						
	② How much is the bus ticket? 1, Picture Questions PartⅠ Drill 1, Question-Response PartⅡ Drill 11						
	③ How much is the bus ticket? 2, Picture Questions Part 1 Drill 2, Short Conversations PartⅢ Drill 21						
	④ May I use your phone? 1, Question-Response PartⅡ Drill 12						
	⑤ May I use your phone? 2, Picture Questions Part 1 Drill 3, Short Talks PartⅣ Drill 31						
	⑥ Turn right onto Bush Street. 1, Short Conversation PartⅢ Drill 22						
	⑦ Turn right onto Bush Street. 2, Picture Questions PartⅠ Drill 4, A song						
	⑧ I'd like to confirm my flight.(Departures), Short Conversations PartⅢ Drill 23						
	⑨ Welcome abroad, Question-Response PartⅡ Drill 13						
	⑩ Test(確認テスト)						
	⑪ I'd like to book a room., Picture Questions PartⅠ Drill 5, Short Talks PartⅣ Drill 32						
	⑫ I'm starving. (Bill A・B), Short Conversations PartⅢ Drill 24						
	⑬ These disks are on special. 1, Short Talks PartⅣ Drill33						
	⑭ Where did I leave my umbrella?(the Lost and Found Office), Short Conversations PartⅢ Drill 25						
	⑮ 総括						
成績 評価	受講態度(出席状況を含む)・確認テスト(20%)、学期末試験の成績(80%) 筆記試験は90分で実施						
参考 文 献 等	教科書 David E. Bramley、河合忠仁、桐村 亮 著 “Score Goals in TOEIC Test Listening 400” 松柏社						
備 考							
	オフィスアワー	非常勤講師控室 月曜日 8時40分～10時35分					

科目番号	12	授業科目	ドイツ語演習 I (Elementary German I)			担当者	武田 輝章
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目 標 及 び 内 容	1. 授業の目的 ドイツ語を使って大きな声であいさつをしましょう。ドイツ語で自分のことを紹介してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざします。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界は同じでしょうか、違うのでしょうか。自分の眼で見てください。						
	2. 到達目標 ドイツ語で自己紹介ができるようになる。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざす。						
	3. 事前事後学習 授業に臨む前にあらかじめ単語の発音と意味を調べる。基本的な表現を繰り返して音読し、次の時間までに暗唱してくる。						
授 業 計 画 <							

科目番号	13	授業科目	中国語演習Ⅰ (Chinese practiceⅠ)			担当者	谷口 明夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 初めて中国語を学ぶ人、または中国語を基礎から確実に学びたい人のための科目です。中国語の基礎的な発音と文法。日常の挨拶ことばを学び、簡単な日常会話の力、初歩的な作文力、短い文章を読解する力を養成することを目標とします。						
	2. 到達目標 ①中国語の音節構造、声調、有気と無気の違いを理解し、ほぼ正確に発音できる。 ②簡体字・繁体字・常用漢字の違いを理解し、書くことができる。 ③1～10の数字を正確に言うことができる。 ④自分の名前を紹介することができる。 ⑤「～したい」「～がある」「～がいる」「～をもっている」の表現とその否定表現を理解し、使うことができる。						
	3. 事前事後学習 復習が最も大切です。①学んだ中国語の単語と文、特に教科書の本文を、毎日5分以上声に出して読んで暗記すること。1週間に合計35分すればいいというわけではありません。毎日練習することが大切です。②簡体字と発音の綴り(ローマ字ピンイン)は必ず書いて覚えること。眺めているだけでは、学習が停滞します。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 発音Ⅰ:声調とは何か。四つの声調と軽声。単母音。挨拶のことばⅠ。数字の1・2・5						
	② 〃Ⅱ:声調の反復練習。複母音。挨拶のことばⅡ。数字の8と7						
	③ 〃Ⅲ:声調の反復練習。複母音(続)。簡単な単語と単文。数字の6と9						
	④ 〃Ⅳ:声母とは何か。有気音と無気音の違いは?						
	⑤ 〃Ⅴ:日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10						
	⑥ 〃Ⅵ:日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3						
	⑦ 〃Ⅶ:3声か2声に変化すること。不(bu)と一(yi)が変化すること。声調パターンの練習。						
	⑧ 第1課:人称代詞「あなた・わたし・かれ」の言い方。名前の言い方:自己紹介の仕方。						
	⑨ 〃						
	⑩ 第2課:“是”“～である”の用法。“嗎”を使った疑問文。疑問詞疑問文。						
	⑪ 〃						
	⑫ 第3課:動詞述語文:中国語の語順は日本語と違う。「こそあど」の言葉。「～の…」						
	⑬ 〃						
	⑭ 第4課:「想」(～したい)と形容詞述語文。						
	⑮ 第5課:所有を表す”有”と”没有”。数詞と量詞。家族の呼称。						
成績評価	学期末筆記試験 80点 平常の発音 20点 筆記試験は90分で実施。						
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・対外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館						
備考	声調を含む発音は、1音節語が発音できるようになれば、それでマスターできたというものではありません。複音節語の各音節の声調が流暢に発音できるようになるまでが第一段階です。声に出して読み、紙に書き、CDを聞く努力が大切です。毎日10分以上勉強すれば、学習は格段に進みます。						
	オフィスアワー	授業終了後					

科目番号	14	授業科目	韓国語演習Ⅰ (KoreanⅠ)			担当者	金孝珍
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 韓国語の学習を通して、隣国の韓国への理解を深めるとともに国際感覚を身につけ韓国人との交流だけではなく世界の人々との交流に役立てる素質を培う。						
	2. 到達目標 (1)韓国語の文字と発音を正確に習得 (2)自己紹介ができる (3)身の回りの物や人について表現できる (4)予定や習慣について表現できるようになること						
	3. 事前事後学習 (1)教科書を事前に読んでおくこと。 (2)授業終了時に出される課題は、次回の授業時に確認するので復習しておくこと。 (3)各課に出てくる文法や単語を暗記すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 韓国語の文字と発音(子音・母音)						
	② 韓国語の文字と発音(子音・パッチム)						
	③ 韓国語の文字と発音(単語)、韓国語の挨拶						
	④ 日本人の名前のハングル表記・自己紹介						
	⑤ 職業・国籍について話す						
	⑥ 身の回りの物の名称を韓国語で表現する						
	⑦ 身の回りの物の持ち主について表現する						
	⑧ 相手の名前を尋ねる						
	⑨ 自分の持ち物について話す						
	⑩ 家族について話す						
	⑪ 家や学校がどこにあるかについて話す						
	⑫ 物や人の位置関係を話す						
	⑬ 予定について話す						
	⑭ 習慣について話す						
	⑮ 総括						
成績 評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参 考 文 献 等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備 考	1. メールでの質問は⇒miripnagi@me.comまで。 2. 小テストは学期中に3～5回実施する。 3. テキストの対話文は、繰り返し音読練習をして、暗記すること。						
	オフィスアワー						

科目番号	15	授業科目	数学基礎 (Basic Mathematics)				担当者	内田 豊海
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 数学の面白さを知り、日常に適用する態度を育む							
	2. 到達目標 (1) 数学的活動の面白さを実感する (2) 数学の有用性を認識する (3) 獲得した技能を日常に応用する技量を備える							
	3. 事前事後学習 適宜、授業内で指示する							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① ガイダンス:本講義の概要や目標等について							
	② 数の誕生と発展							
	③ 数にまつわる不思議なパターン							
	④ グラフを読み解く:鹿児島県の人口変動とその背景							
	⑤ 数値を読み解く:オリンピック選手を選んでみよう							
	⑥ 順列・組合せ							
	⑦ 確率							
	⑧ 図形:タングラムで様々な形を作ろう							
	⑨ 図形:迷路の解き方・作り方							
	⑩ 図形:様々な図形の角度と面積							
	⑪ 関数:関数とは？							
	⑫ 関数:関数の表現一式、表、グラフ							
	⑬ 不思議な数:フィボナッチ数と黄金比							
	⑭ 微分と積分							
	⑮ 総括							
成績 評価	下記項目を総合して評価する。 ○学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は90分で実施 ○受講態度(15%) ○講義での発表や提出物(15%)							
参考 文 献 等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する							
備 考								
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時 (西館412号室)						

科目番号	16	授業科目	理科基礎 (Science)				担当者	内田 豊海
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 広範な分野の知に触れることを通し、科学の楽しさを味わい、科学的探究心を育む							
	2. 到達目標 (1)理科の面白さを実感し、科学的事象に興味関心を持つ (2)科学的思考能力や探究心を培う (3)実験・観察能力を習得する							
	3. 事前事後学習 適宜、授業内で指示する							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① ガイダンス:科学的な考え方って何だろう							
	② 最先端の科学:科学でわかっていることとわかっていないこと							
	③ ものの見方:五感を使った観察1;触覚と視覚							
	④ ものの見方:五感を使った観察2;味覚、嗅覚と聴覚							
	⑤ 宇宙の誕生と進化							
	⑥ 地球:その多彩な環境							
	⑦ 生物の進化と多様性							
	⑧ 遺伝するもの、しないもの							
	⑨ 病気:病は気から?							
	⑩ エネルギーの作り方							
	⑪ 疑似科学:科学っぽいけど科学じゃないもの							
	⑫ 化学変化:身の回りの出来事を、化学式で表してみよう							
	⑬ 炎色反応:花火を作ってみよう							
	⑭ 社会と科学							
	⑮ 総括							
	成績 評価	学期末試験の成績(50%) ※筆記試験は90分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)						
参考 文 献 等	テキストは特に使用しないが、必要に応じて参考文献等を授業中に紹介する							
備 考								
	オフィスアワー	月・水・金13時～18時 (西館412号室)						

科目番号	17	授業科目	分子からみた生物 (Molecular biology)				担当者	横峯 孝昭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年 ・ 前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 見えないところでどのような生命現象が起こっているのか、遺伝学の観点から最近のトピックスを交えつついろいろな観点から物事をとらえられる教養を身につける。							
	2. 到達目標 (1)生物について基礎的な知識を習得する。 (2)最近の生物における知見を学ぶ。							
	3. 事前事後学習 最近の生物の出来事について新聞等で興味を持っておく。1時間ごとに単元として授業を行うので、前回の講義内容について、作成したノートをもとに見直しておく。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 生物と細胞							
	② 生き物のからだをつくっているもの①							
	③ 生き物のからだをつくっているもの②							
	④ 細胞の増え方							
	⑤ 精子と卵のでき方							
	⑥ メンデルの遺伝							
	⑦ 血液型で遺伝を知ろう							
	⑧ 遺伝疾患の分類							
	⑨ 男の子、女の子の生まれる可能性							
	⑩ 羊のドリー クローン動物							
	⑪ 遺伝子改変植物の是非							
	⑫ 臓器移植と家畜							
	⑬ ご先祖様と人類(1)							
	⑭ ご先祖様と人類(2)							
	⑮ 総括							
	⑯ 試験							
成績 評価	受講態度(30%)および試験(70%)							
参考 文 献 等	テキストは特に指定しない							
備 考								
	オフィスアワー	火・木・金の講義の無い時間						

科目番号	18	授業科目	人間と環境 (Human beings and the Environment)			担当者	江崎 一郎
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年 前後期	生活科学 全専攻	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞り、人間と環境とのあるべき関係を考えると同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察することを授業の目的とする。						
	2. 到達目標 1,環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 2,環境問題に対する理解を踏まえ、他者との関わりを思考できる。 3,環境問題に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。						
	3. 事前事後学習 授業開始前には、事前の下調べをする。 授業終了後には、学習した内容をノートにまとめ、必要な情報を収集する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション						
	② 環境問題とは						
	③ 地球温暖化						
	④ オゾン層の破壊						
	⑤ 熱帯林の伐採						
	⑥ 砂漠化						
	⑦ 酸性雨						
	⑧ 公害問題						
	⑨ 京都議定書						
	⑩ 気候変動に関する国際連合枠組み条約						
	⑪ 化学物質過敏症						
	⑫ 環境ホルモン						
	⑬ 環境基本法						
	⑭ 新しい人権としての環境権						
	⑮ 総括						
	成績 評価	平常点30%、レポート70%。 教科書・ノート忘れ・無断欠席などは、減点。					
教科書:竹下 賢編 『第4版・入門法学』晃洋書房							
備 考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方など)を行うので必ず出席すること。 受講生は、事前に教科書を購入し、ルーズリーフを準備しておくこと。						
	オフィスアワー	非常勤講師控室 金曜日 授業終了後30分					

科目番号	19	授業科目	海外事情 (Foreign Culture Experience)				担当者	大村一光
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ①異文化に接し、異文化への理解を深める。 ②体験的に国際感覚を養う。 ③自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める。							
	2. 到達目標 (1) 異文化への理解 (2) 国際感覚を養う (3) 専門分野について国際比較できるようにする							
	3. 事前事後学習 事前指導として、渡航先の概要、旅行へ向けての諸準備等の説明を旅行会社と協力して行う。また、渡航先の簡単な会話練習等を本学教員を中心に行う。 事後指導として帰国後に体験発表、レポート作成等を課す。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①「国外研修旅行」参加者の募集とその届出の提出。							
	②「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導。							
	③「国外研修旅行」の実施。							
	④「国外研修旅行」に関する体験発表とレポート提出。							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績 評価	(1) 1年生のみ2単位と成績が与えられる。 (2) 成績と単位は、事前・事後指導の参加(20%)、研修旅行の参加とレポート提出(80%)によって与えられる。							
参 考 文 献 等								
備 考	① 参加希望者数、国内外の治安等の事由で国外研修旅行が行われず、 よって「海外事情」を開講しないこともある。							
	② 履修届けをする際、この科目の単位(2)を卒業の取得必修単位の内に 加算しないこと。							
	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00						

科目番号	20－①	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)				担当者	高島　まり子
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英語の総合力「聴く・話す・読む・書く」を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて 更なる応用につなげることを目指す。							
	2. 到達目標 1.基礎的文法力を固める。 2.「聴く・話す・読む・書く」力の土台を固める。 3.リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く。							
	3. 事前事後学習 予習・復習・課題の提出							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	<Unit 7>						
	②	同						
	③	同						
	④	<Unit 8>						
	⑤	同						
	⑥	同						
	⑦	<Unit 9>						
	⑧	同						
	⑨	同						
	⑩	<Unit 10>						
	⑪	同						
	⑫	同						
	⑬	<Unit 11>						
	⑭	同						
	⑮	同						
	⑯	筆記試験						
成績 評価	受講態度(40%)、期末試験(60%)の総合評価							
参考 文 献 等	○ <i>Communication Builder</i> （吉富　昇　著、南雲堂　2014年）をテキストとして使用予定だが、変更の 可能性あり。 ○ 視聴覚機器(CD・CDデッキ・DVD・プロジェクター・スクリーン)　使用							
備								
考	オフィスアワー	水曜日　12:00～14:00						

科目番号	20-②	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)				担当者	吉村 圭	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修				
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 この授業では基礎的な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。								
	2. 到達目標 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる。 2. 英語及び異文化に興味を持ち、進んで学習することができる。 3. 積極的に問題に取り組み、英語の理解を深めることができる。								
	3. 事前事後学習 各文法事項を授業時に理解したうえで、テキストの問題を復習しておくこと。								
授 業 計 画	4. 各回の授業内容								
	①	オリエンテーション(前期の復習)							
	②	Unit 13 代名詞							
	③	Unit 14 前置詞							
	④	Unit 15 形容詞							
	⑤	Unit 16 副詞							
	⑥	Unit 17 比較(1)							
	⑦	Unit 18 比較(2)							
	⑧	Unit 19 接続詞 基本事項							
	⑨	Unit 19 接続詞 応用							
	⑩	Unit 20 受け身(受動態)							
	⑪	Unit 21 不定詞							
	⑫	Unit 22 動名詞							
	⑬	Unit 23 分詞							
	⑭	Unit 24 現在完了							
	⑮	総括							
成績評価	期末試験・小テスト・提出物(70%)、授業貢献度(30%)による総合評価。								
参考文献等	テキスト :Everyday English Grammar 南雲堂 その他毎回の授業で適宜配布する。								
備考									
考	オフィスアワー	金曜 12:55～14:25							

科目番号	20－③	授業科目	英語演習Ⅱ (EnglishⅡ)			担当者	後藤 廣文
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけること。						
	2. 到達目標 ビジネスで使われる英語の会話表現に慣れながら、前期より長いTOEICの会話文・説明文の内容把握を中心にして英語コミュニケーション能力を養います。 ①英語の早さになれること②長い文の要旨がつかめること。 ③長文を含めTOEIC400レベルのリスニング問題で正答率60%以上取ること。						
	3. 事前事後学習 単語を調べ覚えるという予習と復習として特にCDを繰り返し聞いて確認することが大切。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	My Job, Question-Response Part II Drill 15					
	②	My Company 1, Short Talks Part IV Drill 33					
	③	My Company 2, Picture Questions Part I Drill 6 Short Talks Part IV Drill 34					
	④	Marketing 1, Question-Response Part II Drill 16					
	⑤	Marketing 2, Picture Questions Part I Drill 7 Short Talks Part IV Drill 35					
	⑥	Business Cards 1, Picture Questions Part I Drill 8 Short Conversation Part III Drill 26					
	⑦	Business Cards 2, Picture Questions Part I Drill 9 Short Talks Part IV Drill 36					
	⑧	Stocks and Shares 1・2, Question-Response Part II Drill 17					
	⑨	Small Business 1, Question-Response Part III Drill 18					
	⑩	Test (確認テスト) Short Conversation Part III Drill 27					
	⑪	Small Business 2, Question-Response Part II Drill 19 Short Conversation Part IV Drill 28					
	⑫	Catering Business 1, Christmas Songs 1					
	⑬	Catering Business 2, Christmas Songs 2					
	⑭	Self-employed 1, Picture Questions Part I Drill 10 Question-Response Part II Drill 20					
	⑮	総 括					
	成績評価	受講態度(出席状況を含む)・確認テスト(20%)、学期末試験の成績(80%) 筆記試験は90分で実施					
参考文献等	教科書 David E. Bramley、河合忠仁、桐村 亮 著 “Score Goals in TOEIC Test Listening 400” 松柏社						
備考							
	オフィスアワー	非常勤控室 金曜日 12時40分～14時40分					

科目番号	21	授業科目	ドイツ語演習Ⅱ (Elementary GermanⅡ)				担当者	武田 輝章
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 ドイツ語を使って自分のことを紹介してみましょう。さらに、身のまわりのことや日本のことを簡単に説明してみましょう。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることが目標です。いつの日かドイツ語圏を旅行して、新しい世界を自分の体で感じてみてください。また、ことばを学ぶだけではなく、ドイツ・オーストリア・スイスなどの豊かな歴史や文化にも触れます。日本から見た世界とヨーロッパから見た世界の違いを自分の眼で確かめてみましょう。							
	2. 到達目標 ドイツ語で自己紹介ができるようになる。最終的には、簡単なドイツ語会話ができるようになることをめざす。							
	3. 事前事後学習 授業に臨む前にあらかじめ単語の発音と意味を調べる。基本的な表現を繰り返して音読し、次の時間までに暗唱してくる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 授業方針・授業改善の説明							
	② 前期の復習「忘れたら思い出そう」							
	③ 発信(1)「ドイツ語で自己紹介」							
	④ 発信(2)「ドイツ語で自己紹介」							
	⑤ 情報収集(1)「分からないことは聞いてみよう」							
	⑥ 発信(3)「ドイツ語で他己紹介」							
	⑦ 発信(4)「ドイツ語で他己紹介」							
	⑧ 情報収集(2)「未知の世界を覗いてみよう」							
	⑨ 読む(1)「辞書を引くのは楽じゃない」							
	⑩ 書く(1)「辞書を使うのも楽じゃない」							
	⑪ 読む(2)「辞書が引ければ一人前」							
	⑫ 書く(2)「辞書が使えれば二人前」							
	⑬ 文化(1)「ヨーロッパの歴史と風土」							
	⑭ 文化(2)「ヨーロッパの視点で見る」							
	⑮ 総合「後期のまとめ」							
	⑯ 筆記試験(60分で実施)							
成績評価	筆記試験(70%)・レポート提出(10%)・受講態度(20%)							
参考文献等	1 テキストについては授業で指示 2 新アポロン独和辞典(同学社) 3 参考文献:大岩新太郎著『ドイツ語の最初歩』(三修社) 4 ビデオ・DVD・CDなどを使用							
備考								
考	オフィスアワー	木曜日12:30～13:30(研究室)						

科目番号	22	授業科目	中国語演習Ⅱ (Chinese practiceⅡ)				担当者	谷口 明夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 中国語の基礎的な発音、特に声調と母音・子音及び簡単な単語、挨拶ことば、初歩的な文法を学んだことのある人のための科目です。中国語演習Iで学んだ発音と文法の知識を基礎として学習を進め、基本的な読み、書き、話し、聞く力を伸ばすことを目標とします。							
	2. 到達目標 ①人数・金額・年月日・曜日・時間(～時～分)など、数字を使った表現を理解し、使うことができる。 ②「～は～より～だ」等の比較の表現、「いつ、どこで～する」等の表現を理解し、使うことができる。 ③完了と経験の表現、「～するのが好きだ」等の表現を理解し、使うことができるようになる。 ④上記の文型を理解し、文例を記憶することにより、簡単な日記を書くことができるようになる。							
	3. 事前事後学習 ①学んだ単語と文、特に教科書の本文を、毎日声に出して読んで覚えて下さい。特に発音がよくなります。 ②学んだ単語と文型だけを使って、簡単な日記を書いて下さい。まだ複雑な考えなどを書くことは不用です。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 第6課:「～するのが好き」 助動詞「要」							
	② //							
	③ //							
	④ 第7課:曜日の言い方。「あさ・ひる・ばん」などの時間詞。数量を表わす方法。							
	⑤ // V :日本語にない発音そり舌音。同じiでも異なる音3種。数字の4と10							
	⑥ // VI :日本語では区別しないが、中国語では区別する発音:anとang.数字の3							
	⑦ 第8課:時刻の言い方。ここ・そこ・あそこ。所在を表す文。「～から～まで」の表現。							
	⑧ //							
	⑨ //							
	⑩ 第9課:完了の表現。「とても・非常に～」の表現。「～しているところだ」							
	⑪ //							
	⑫ //							
	⑬ 第10課:助動詞”会”と”能””できる」の表現。様態補語「～得～」							
	⑭ //							
	⑮ //							
成績評価	学期末試験の成績 80点 発音 10点 日記等の課題 10点 筆記試験は90分で実施。							
参考文献等	教科書:相原茂、陳淑梅、飯田敦子著「日中いぶこみ広場」朝日出版社 2011年 参考図書:北京・对外経済貿易大学等編集『日中辞典』第2版 小学館							
備考								
考	オフィスアワー		授業終了後					

科目番号	23	授業科目	韓国語演習Ⅱ (KoreanⅡ)			担当者	金 孝珍
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年後期	生活科学 全専攻	演習	2	選択必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 韓国語の学習を通して、隣国の韓国への理解を深めるとともに国際感覚を身につけ韓国人との交流だけではなく世界の人々との交流に役立てる素質を培う。						
	2. 到達目標 (1)趣味・日付・電話番号・時間・個数・値段が表現できる (2)予定や習慣について表現できる (3)人や物の姿や性質、自分の感じていることが表現できる (4)店や食堂で買い物をしたり、注文したりできるようになること						
	3. 事前事後学習 (1)教科書を事前に読んでおくこと。 (2)授業終了時に出される課題は、次回の授業時に確認するので復習しておくこと。 (3)各課に出てくる文法や単語を暗記すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 趣味や職業について話す						
	② 月日を表現する						
	③ 自分の持ち物や家族について話す						
	④ 電話番号を表現する						
	⑤ 数を数える、時間を表現する						
	⑥ 予定や習慣について話す						
	⑦ //						
	⑧ 授業時間・営業時間等を表現する						
	⑨ 人や物の姿や性質を表現する						
	⑩ 自分の感じていることを表現する						
	⑪ 移動の手段・所要時間を表現する						
	⑫ 値段を尋ねる・値段を言う						
	⑬ 個数を言って注文する						
	⑭ 食堂での会話						
	⑮ 総括						
成績評価	授業での積極性(10点)、小テスト(30点)、期末試験(60点)で評価します。 ※期末試験は60分で実施。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。						
参考 文献 等	1. 使用教材 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年 2. 参考文献 CASIO電子辞書(韓国語対応モデル) ※韓国語を長く勉強しようと思っている人にはお勧めします。						
備 考							
	オフィスアワー						

科目番号	24-①	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)			担当者	黒原 貴仁
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学・生活福祉	実技	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 現代社会において、スポーツは豊かなQOL(生活の質)の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本授業は体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとおして積極的にスポーツに参加できるような基礎的な知識、技術、態度を習得し、健康・安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。						
	2. 到達目標 1.健康的な心と体をつくるための知識を高める 2.スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高める 3.充実した生活を送るための体力を高める						
	3. 事前事後学習 事前;実技に耐えうる体力を高める 事後;各種目の動きについてフィードバックを行う						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション、前半の種目選択と実践					
	②	ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	③						
	④	前半活動期間					
	⑤	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する]					
	⑥	各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑦						
	⑧						
	⑨	後半の種目選択、ルール解説、ドリルゲーム、タスクゲーム					
	⑩						
	⑪	後半活動期間					
	⑫	[バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球を開講し選択する]					
	⑬	各種目ごとにルール解説、基本練習、ゲームなどを行い、基本技術の習得を目指す					
	⑭						
	⑮						
成績評価	参加態度(70%)、ゲーム結果(30%)等を総合して評価する。						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	月曜日 5・6限					

科目番号	24-②	授業科目	体育実技 (Lifetime Sports Activity)				担当者	大村一光
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実技	1	選択	栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加（関わり）し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。							
	2. 到達目標 1. スポーツ活動の楽しさを理解する 2. 積極的に健康管理に関われるようにする							
	3. 事前事後学習 日常生活における運動やスポーツに関わる頻度等について調査する							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション、前半活動種目の決定						
	②	** 前半、後半でそれぞれ1種目ずつ、2種目を履修することを基本とする						
	③	前半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球から選択する] 各種目毎にルール解説、基礎練習、ゲームなどを行い、 基礎技能の向上を目指す						
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧	後半活動期間 [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球から選択する] 各種目毎にルール解説、基礎練習、ゲームなどを行い、 基礎技能の向上を目指す						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績評価	受講態度(60%)、試合結果等(40%)を総合して評価する							
参考文献等								
備考								
	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00						

科目番号	25－①	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise)				担当者	黒原 貴仁
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学・生活福祉	講義	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 近年、生活習慣病の増加や個人の価値観を尊重する傾向が強くなっていることにともない、健康とスポーツに対するかつてない関心と欲求を生み出している。本講義では現代生活における健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できるような基礎的理解を深めることを目的とする。							
	2. 到達目標 1.健康についての基礎的理解を深める 2.スポーツについての基礎的理解を深める 3.健康とスポーツの相互関係の理解を深める							
	3. 事前事後学習 事前;スポーツについての情報収集を行うこと 事後;授業でのポイントを整理すること							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション(健康とは?運動とは?)							
	② オリンピックについて							
	③ 現代社会におけるスポーツの社会的意義							
	④ 生涯スポーツとは?							
	⑤ ダイエットと運動効果							
	⑥ 生活習慣病とその予防							
	⑦ ヘルスプロモーションの意義							
	⑧ まとめ(45分) 筆記試験(45分)							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績評価	筆記試験(40%)及び受講態度(20%)・レポート(20%)による						
参考文献等								
備考								
	オフィスアワー	月曜日5・6限						

科目番号	25－②	授業科目	体育講義 (Science of Sports and Exercise)				担当者	大村 一光
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加(関わり)し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。							
	2. 到達目標 1. スポーツ活動の楽しさを理解する 2. 積極的に健康管理に関われるようにする							
	3. 事前事後学習 日常生活における運動やスポーツに関わる頻度等について調査する							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	① オリエンテーション、前半活動種目の決定							
	② ** 前半、後半でそれぞれ1種目ずつ、2種目を履修することを基本とする							
	③							
	④ 前半活動期間							
	⑤ [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球から選択する]							
	⑥ 各種目毎にルール解説、基礎練習、ゲームなどを行い、							
	⑦ 基礎技能の向上を目指す							
	⑧							
	⑨							
	⑩							
	⑪ 後半活動期間							
	⑫ [バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球から選択する]							
	⑬ 各種目毎にルール解説、基礎練習、ゲームなどを行い、							
	⑭ 基礎技能の向上を目指す							
	⑮							
成績評価	受講態度(60%)、試合結果等(40%)を総合して評価する							
参考文献等								
備考								
考	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00						

科目番号	26	授業科目	「WE LOVE 鹿児島！」 (Seminar for Local Identity Education)				担当者	高島 まり子他
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 全専攻	演習	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 受講者が、地域の中で自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」を「生きる力」とし、「地域活性化の担い手」となることをめざす。ここでは、防災をテーマに地域貢献できる能力を身につける。							
	2. 到達目標 鹿児島の自然災害への備え(防災)について問題点を知る。そして、自ら出来ることを提案して実行できる能力を身につける。							
	3. 事前事後学習 講義の前に、防災に関する書物を調べる。 講義後は、レポートを提出する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 鹿児島の自然災害について知る						(外部講師)	
	② 鹿児島の防災計画を学ぶ						(外部講師)	
	③ まちの安全点検をする						(外部講師)	
	④ まちの社会関係を確認する						(外部講師)	
	⑤ 避難弱者への対応を考える						(外部講師)	
	⑥ 災害時の食事と衛生管理を学ぶ						(外部講師)	
	⑦ 防災訓練を実施する						(外部講師)	
	⑧ 防災訓練の反省と総括						(外部講師)	
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
⑮								
成績 評価	学期末の最終レポート(75%), 受講態度と提出物(25%)							
参 考 文 献 等								
備 考	講義内容の詳細は、開講前に資料を配布して解説する							
	オフィスアワー	水曜日12:00～14:00						

専門科目

生活科学専攻

科目番号	201	授業科目	食生活論 (Study of Food Life)				担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 時代・社会構造の変化にともなって変化する食生活と文化的な価値をもつ変わらない食生活について学び、人生80年の食生活について考察する。							
	2. 到達目標 1.食生活とは何かを自覚できる。 2.日本の食の現状を理解することができる。 3.人生80年の食生活を考察することができる。							
	3. 事前事後学習 事前学習:次回の項目を予習しておく。 事後学習:授業で学んだことをまとめておく。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	食生活の概念						
	②	食生活と健康＜摂食行動＞						
	③	食生活と健康＜生活習慣病、幼児期からの食教育＞						
	④	世界の食文化と食習慣＜ヒトは何をどのようにして食べてきたのか？＞						
	⑤	世界の食文化と食習慣＜味覚とおいしさ、文化と食習慣＞						
	⑥	日本の食生活史＜米、お茶＞						
	⑦	日本の食生活史＜日常食＞						
	⑧	これからの食教育・健康教育＜社会構造の変化＞						
	⑨	これからの食教育・健康教育＜健康づくり＞						
	⑩	人生各期における健康生活と栄養						
	⑪	食生活と安全						
	⑫	日本人の食事摂取基準						
	⑬	食事バランスガイド						
	⑭	臨床における食事						
	⑮	健全な食生活の展望						
	⑯	筆記試験およびレポート提出						
成績 評価	学期末試験の成績(50%)※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)※出席点を含む							
参考 文 献 等	NEXT食生活論(講談社サイエンティフィク:山本茂 他) 国民健康・栄養調査結果の概要							
備 考								
	オフィスアワー	火曜日 13時～16時						

科目番号	202	授業科目	住生活論 (Theory of Living Arrangements)			担当者	古川 恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年 ・ 前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 住まいは、いのちを育み人間性を培う生活の基盤となる場所である。家族生活を営みながら文化を創造・継承し、また、子どもや高齢者が安心して生活できる場所でもある。超高齢社会に向けての視点に基づき、生活空間としての住まいと地域社会はどうあるべきかを考え、管理する能力を養い、防災に関する住まい、まちづくりの視点も持つことを目標とする。						
	2. 到達目標 1.自然環境、社会環境に応じた住宅計画の理解 2.超高齢社会における住宅・住環境の理解 3.‘生活’を主体として住まいをとらえる視点を持つ						
	3. 事前事後学習 テキストで予習復習し、わからないことは質問等で解決すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 住生活論の概要と意義						
	② 「陰翳礼讃」にみる日本の住文化						
	③ 住居の歴史						
	④ 〃						
	⑤ 住宅の材料と構造						
	⑥ 気候と暮らし、住まいと環境						
	⑦ 住まいの維持管理						
	⑧ 住生活のための人間工学						
	⑨ 高齢者と住まいー心身機能と特性						
	⑩ 高齢者の家庭内事故と予防						
	⑪ 高齢者の住まいの多様性						
	⑫ 住まいの安全と管理						
	⑬ 地域と防災						
	⑭ 住居計画の法的基準、規定						
	⑮ バリアフリー、UD						
成績 評価	・筆記試験(70%)・レポート(30%)の総合評価による。※筆記試験は60分で実施。						
参考 文 献 等	・テキスト:中根芳一編著／私たちの住居学／理工学社 ・参考文献:外山義／クリッパンの老人たちースウェーデンの高齢者ケア／ドメス出版 外山義／自宅でない住宅ー高齢者の生活空間論／医学書院／ 2003年 佐野眞一／大往生の島／文藝春秋／ 1997年						
	・パワーポイント・DVD使用						
備 考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	水曜日を除く月～金曜日の16:10～17:30					

科目番号	203	授業科目	栄 養 学 (Nutrition)			担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養護教諭資格必修 中二種免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 人間が生命や健康を維持するために欠かすことができない、バランスよく栄養素を摂取することについて、理解を深める。						
	2. 到達目標 ① 人間が健康に生きていくための栄養の意義を理解する。 ② 正しい食教育ができるようになる。						
	3. 事前事後学習 ① 授業開始時に毎回小テストを行い、前回の授業内容の復習を促す。 ② 授業の最後に、次回の授業範囲・内容について告知を行うとともに、資料を配布し、授業開始時に行う小テストでは、当日授業で行う範囲からも出題することにより、授業の予習を促す。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション(栄養とは)					
	②	タンパク質とその消化と吸収					
	③	糖質とその消化と吸収					
	④	脂質とその消化と吸収					
	⑤	リポタンパク質					
	⑥	ビタミン(1)(ビタミンとは・脂溶性ビタミン・ビタミンA)					
	⑦	ビタミン(2)(ビタミンD・ビタミンE・ビタミンK)					
	⑧	ビタミン(3)(ビタミンB群)					
	⑨	ビタミン(4)(ビタミンB群の続きとビタミンC)					
	⑩	無機質(ミネラル)(1)					
	⑪	無機質(ミネラル)(2)					
	⑫	無機質(ミネラル)(3)					
	⑬	アレルギー					
	⑭	水・電解質の代謝					
	⑮	エネルギー代謝、及び摂食行動					
	⑯	筆記試験					
成績評価	毎回の授業で行う小テスト(50%) ※出席点を含む 学期末試験の成績(50%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考図書「コンパクト栄養学」改訂第3版 南江堂 「エスカペーシック 基礎栄養学」 同文書院						
備考	パワーポイント使用						
	オフィスアワー	月曜日・火曜日・水曜日・16時15分以降(研究室)					

科目番号	204	授業科目	解剖学Ⅰ (AnatomyⅠ)			担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免・医療秘書実務士必修	
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。構造相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることが目的とする。						
	2. 到達目標 ・細胞組織の理解 ・消化器・呼吸器・泌尿器の理解 ・循環器の理解 ・内分泌の理解						
	3. 事前事後学習 テキストをよく読んで講義に臨むこと。講義後は、テキストの章末のゼミナール問題を解答すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 人体の構造と機能、口と歯(口の構造と機能)						
	② 口腔、咽頭、喉頭、食道(咀嚼、嚥下)						
	③ 消化吸収(胃、小腸、大腸の構造)						
	④ 消化吸収(胃、小腸、大腸における消化、栄養素の消化・吸収)						
	⑤ 消化吸収(膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能)						
	⑥ 細胞・組織(人体とは、細胞の構造、体液)						
	⑦ 細胞・組織(上皮組織、筋組織)						
	⑧ 細胞・組織(結合組織、神経組織)						
	⑨ 心臓・血管(心臓、動脈、静脈、[循環器系の形態と機能])						
	⑩ 血管・リンパ管(血液、リンパ管の構造)						
	⑪ 呼吸器(呼吸器の構造)						
	⑫ 呼吸器(呼吸運動、呼吸の調節)						
	⑬ 泌尿器(腎臓の構造と機能)						
	⑭ 泌尿器(排泄路の構造)						
	⑮ 内分泌(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓)						
成績 評価	毎授業ごとの小テストの結果を合計し、100点に換算						
参考 文 献 等	テキスト :系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 :新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円						
	参考図書 :井上貴央監訳「カラー人体解剖学―構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円						
備 考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00～12:50(研究室)					

科目番号	205	授業科目	生理学 (Physiology)			担当者	竹中 正巳
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免・医療秘書実務士必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 健康なヒトの体の働きと仕組みについて理解することを目標にする。						
	2. 到達目標 1血液、筋組織の理解 2呼吸、感覚、排泄、消化の理解 3神経系、内分泌系による調節機能の理解						
	3. 事前事後学習 テキストをよく読んで講義に臨むこと。講義後は、テキストの章末のゼミナール問題を解答すること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 人体の構造と機能、消化吸収(消化器の構造と機能、消化管運動の神経支配、栄養素の消化・吸収)						
	② 消化吸収(小腸の機能、大腸の機能、消化酵素、消化管ホルモン、肝臓)						
	③ 細胞(細胞内小器官、細胞膜と輸送、活動電位、代謝、恒常性とその維持)						
	④ 血液(血液の組成、血液の機能、止血と凝固系、血液型と輸血)						
	⑤ 循環(形態と機能、血圧とその調節、心電図検査、血管の機能)						
	⑥ 呼吸(呼吸器の構造、換気、呼吸運動、呼吸の調節、酸素解離曲線、空気環境による人体機能の変化(高圧環境、低圧環境、酸素、二酸化炭素、一酸化炭素、粉じん))						
	⑦ 呼吸(呼吸中枢、口呼吸、無呼吸症候群、肺活量、肺機能検査、労働時の呼吸量)						
	⑧ 神経(神経系の組織構造と機能、神経細胞、グリア細胞、シナプス、神経線維、中枢神経、末梢神経)						
	⑨ 神経(交感神経、副交感神経、脊髄、脳、睡眠)						
	⑩ 筋(筋肉の構造と種類、筋肉の収縮、運動の調節、筋収縮とエネルギー、運動と呼吸、筋肉の疲労)						
	⑪ 内分泌(各ホルモンの作用と分泌調節)						
	⑫ 排泄(排便、排尿のメカニズム、腎臓の構造と機能、尿の成分、恒常性とその維持)						
	⑬ 感覚(感覚神経、受容器と刺激、視覚、視環境による人体機能の変化、聴覚・平衡感覚、音環境による人体機能の変化(生理面、心理面))						
	⑭ 感覚(嗅覚、味覚、皮膚感覚、温熱環境による人体機能の変化(体温とその調節機構、高温環境、低温環境))						
	⑮ 生殖(生殖腺、精巣、卵巣の機能と調節、妊婦と分娩)						
	成績評価	毎授業ごとの小テストの結果を合計し100点に換算					
参考文献等	テキスト ：系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 ：新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円 参考図書 ：井上貴央監訳「カラー人体解剖学―構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50 (研究室)					

科目番号	206	授業科目	看護学 (Nursing)				担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・医療秘書実務士必修 第一種衛生管理者免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 養護教諭としての資質・能力を高めるために看護の基礎を学ぶ。							
	2. 到達目標 1　看護の基本となる知識を修得する。 2　子どもの健康課題への支援ができる。 3　専門職としての資質・能力を高める。							
	3. 事前事後学習 看護学とは何か。 なぜ養護教諭に看護学が必要かを考える。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	看護の概念と看護行為の基本						
	②	病気の経過にともなう看護						
	③	主な治療処置にともなう看護						
	④	小児期の健康と看護						
	⑤	学童期の健康と看護(1)						
	⑥	学童期の健康と看護(2)						
	⑦	思春期の健康と看護(1)						
	⑧	思春期の健康と看護(2)						
	⑨	母性看護						
	⑩	成人期の健康と看護(1)主要死因と国民健康づくり						
	⑪	成人期の健康と看護(2)メタボリックシンドロームと特定保健指導						
	⑫	成人期の健康と看護(3)成人期の健康問題と健康管理						
	⑬	老人看護						
	⑭	訴えや症状に対する理解と看護						
	⑮	総括						
	⑯	筆記試験						
成績 評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績　(80%)　受講態度・提出物等　(20%)							
参考 文 献 等	テキスト:養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店 参考図書:新・衛生管理　第1種用　上　中央労働災害防止協会							
備	単位互換対象科目							
考	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	207	授業科目	救急処置Ⅰ (Emergency TreatmentⅠ)				担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修・中二種免(保健) 第1種衛生管理者免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 救急とは何かを理解する。身近に遭遇する救急場面に対応する1次救急について理解し、救急処置Ⅱで技術の習得がスムーズにできるような基礎的知識を身につける。							
	2. 到達目標 1. 基本的な救急疾患の病態を理解する。 2. 心肺蘇生法を十分に理解する。 3. 基本的な救急処置について理解する。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする。次回の授業範囲を参考図書で予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	救急とは？						
	②	事例						
	③	救急のABC						
	④	循環器						
	⑤	呼吸器						
	⑥	消化器						
	⑦	内分泌器						
	⑧	感覚器						
	⑨	骨						
	⑩	筋肉						
	⑪	救急救命士						
	⑫	1次救急						
	⑬	2次救急						
	⑭	救急体制						
	⑮	救急の実際						
	⑯	筆記試験						
成績評価	筆記試験 60%、受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。							
参考文献等	吉岡敏治他・救急治療手技・中外医学社							
備考								
	オフィスアワー	408研究室 16:20 但し2名以上						

科目番号	208	授業科目	学校保健 (School Health)			担当者	満田 タツ江
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校保健活動を実践できる能力と実践力を養う。						
	2. 到達目標 1 学校保健安全法について理解する。 2 学校保健の領域と構造について理解する。 3 健康・安全に関わる危機管理への対応ができる。						
	3. 事前事後学習 これまでの学校生活をふり返り、どんな所で自分たちが護られていたのかを考える。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 学校保健の概要(領域内容)と学校保健安全法						
	② 学校保健関係職員と組織活動						
	③ 学校保健安全計画と評価						
	④ 児童生徒の保健活動と学校保健委員会						
	⑤ 学校環境衛生		1. 学校環境衛生の意義				
	⑥ 学校環境衛生		2. 養護教諭と学校環境衛生活動				
	⑦ 学校環境衛生		3. 学校環境衛生活動の実際				
	⑧ 学校環境衛生		学校環境衛生基準				
	⑨ 学校環境衛生		学校環境衛生活動の事後措置				
	⑩ 学校安全と危機管理		1. 養護教諭と学校安全				
	⑪ 学校安全と危機管理		2. 安全管理と安全教育				
	⑫ 学校安全と危機管理		3. 危機管理				
	⑬ 学校安全と危機管理		4. 学校の管理下における災害とスポーツ振興センター法				
	⑭ 学校で予防すべき感染症とその対策						
	⑮ 総括						
	⑯ 筆記試験						
成績 評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績 (80%) 受講態度・提出物等 (20%)						
参考 文 献 等	テキスト:新訂版・学校保健実務必携、学校保健、安全実務研究会、第一法規 参考図書:新版・養護教諭執務のてびき、石川県養護教育研究会 東山書房						
備 考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00～13:00(研究室)					

科目番号	209	授業科目	養護概説 (a survey of yogo)			担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 児童・生徒の健康を保持増進するための教育活動を実践できる力を育成する。						
	2. 到達目標 1 養護教諭の役割と具体的な職務について理解する。 2 養護教諭に必要な知識・技能・態度を学習する。 3 保健室経営の実施と企画力・実行力・調整能力を身につける。						
	3. 事前事後学習 どんな養護教諭をめざすかの目標をもつ。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 養護教諭とは 養護教諭の職務と役割						
	② 教職員免許法と養護教諭						
	③ 養護教諭の活動計画及び評価						
	④ 学校種別による執務の特徴						
	⑤ 学校保健における職務の分担						
	⑥ 保健室について、保健室の機能・保健室経営						
	⑦ 健康観察、健康相談						
	⑧ 定期健康診断(1) 三計測と聴力検査、視力検査						
	⑨ 定期健康診断(2) 結核健診、尿検査、寄生虫検査、心臓検診						
	⑩ 定期健康診断(3) 検診(内科、眼科、歯科、耳鼻咽喉科)						
	⑪ 定期健康診断(4) 記録と事後措置						
	⑫ 臨時健康診断 就学時健康診断						
	⑬ 教職員の健康診断と事後措置						
	⑭ 疾病別保健管理と保健指導						
	⑮ 総括						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績 (80%) 受講態度・提出物等 (20%)						
参考文献等	テキスト:新版・護教諭執務の手引き 監修. 植田誠治 石川県養護教育研究会編 東山書房 参考図書:新・衛生管理第一種用 上 中央労働災害防止協会 新定版・学校保健実務必携、学校保健安全実務研究会 第一法規						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00～13:00(研究室)					

科目番号	210	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 本講義は、養護教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。						
	2. 到達目標 1 教職と教員としての資質の理解・吟味						
	3. 事前事後学習 導入的科目であるため事前学習の必要はないが、もう一つの科目「教育原理」と関連づけてもらいたい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション						
	② 教師とは誰かⅠ－ 教師の役割						
	③ 教師とは誰かⅡ－ 教師の資質						
	④ 教師とは誰かⅢ－ 法規から見た教師						
	⑤ 学校における養護教諭の位置づけ－ 法規上の関係も含む						
	⑥ 学校組織と教師－ 様々なチームワークの取り組み						
	⑦ 教育問題を考える						
	⑧ 学校問題を考える						
	⑨ 子どもを知る(Ⅰ)－ 子どもの発達・成長(幼児期・児童期)と教育の目的						
	⑩ 子どもを知る(Ⅱ)－ 子どもの発達・成長(青年期)と教育の目的						
	⑪ 子どもを知る(Ⅲ)－ 現代の教育問題から						
	⑫ 自分を知る(Ⅰ)－ 資質の検討のために						
	⑬ 自分を知る(Ⅱ)－ 自分なりの教師像の模索のために						
	⑭ 自分を知る(Ⅲ)－ 自分なりの教育観の模索のために						
	⑮ 総括						
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	211	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また成長期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 到達目標 1 子どもの発達と環境 2 教育の目的と意義 3 教育における諸問題の理解						
	3. 事前事後学習 同時期の科目「教職概論」と関連づけること。事後には、講義で紹介した図書を必ず読んでもらいたい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーションー 自分たちの過去を思い出そう						
	② 成長するとは？(Ⅰ)ー 身体的成長と精神的成長						
	③ 成長するとは？(Ⅱ)ー 精神的成長と自立						
	④ 成長するとは？(Ⅲ)ー 精神的成長と自律						
	⑤ 成長するとは？(Ⅳ)ー 成長と教育の関係						
	⑥ 教育とは？(Ⅰ)ー 教育の目指すもの						
	⑦ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その一)						
	⑧ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その二)						
	⑨ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その三)						
	⑩ 教育とは？(Ⅱ)ー 教育の歴史(その四)						
	⑪ 教育における諸問題(その一)						
	⑫ 教育における諸問題(その二)						
	⑬ 教育における諸問題(その三)						
	⑭ 課題と展望						
	⑮ 総括						
成績評価	試験(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。					

科目番号	212	授業科目	情報機器演習 (Information Technology Practice)				担当者	倉元 博美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 大学生活や社会・教育現場に必要なコンピュータやインターネットの基礎的知識・活用法を習得し、それらを現場で応用できるICT活用能力を育成する。							
	2. 到達目標 1. ICTの基本技術を身につける。 2. コンピュータを利用して情報の収集、資料の作成・整理ができる。 3. コンピュータを表現の道具として活用できる。							
	3. 事前事後学習 ネットワーク上に準備された教材を事前にダウンロードし授業内容を確認し、授業後は、再度見直し常にICT機器の活用に努める。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識 (Windows)							
	② インターネットの基礎知識と検索法							
	③ 電子メールの基礎知識と活用							
	④ 情報倫理とセキュリティ							
	⑤ ファイルの操作と整理, 画像作成と画像処理							
	⑥ ワードプロソフト「Word」による文書処理Ⅰ							
	⑦ ワードプロソフト「Word」による文書処理Ⅱ							
	⑧ 表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅰ							
	⑨ 表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅱ							
	⑩ 表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅲ							
	⑪ 課題演習							
	⑫ プレゼンテーションソフト (Power Point) によるプレゼンテーション作成Ⅰ							
	⑬ プレゼンテーション作成Ⅱ							
	⑭ ホームページ作成							
	⑮ 総合演習							
成績評価	レポート等の提出状況 (70%)、受講状況・態度 (30%) による総合評価							
参考文献等	参考文献：倉元ほか著『演習で学ぶIT入門』（化学同人） 使用視聴覚機器等：コンピュータ教室(Windows)、USBフラッシュメモリ							
備考								
	オフィスアワー	火曜日 16:20～17:00						

科目番号	213	授業科目	現代社会論 (The Modern Society Science)			担当者	倉重 加代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 文章及び文書作成の基本を身につける。						
	2. 到達目標 1 論文の構成、作成する手順を身につける。 2 自分の考えをまとめ、表現する能力を身につける。 3 情報評価能力を身につける。						
	3. 事前事後学習 事前学習…高校までに学習した漢字の復習しておくこと。 自分の関心のある時事問題について調べておくこと。 事後学習…自分の関心のある時事問題について概要を説明し、自分自身の考えをまとめること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 授業の概要						
	② 論文の書き方(1) 論文とは何か						
	③ 論文の書き方(2) 論文の構成①						
	④ 論文の書き方(3) 論文の構成②						
	⑤ 論文の書き方(4) アウトラインの作成						
	⑥ 論文の書き方(5) わかりやすい文章を書くために						
	⑦ データの読み方(1)						
	⑧ データの読み方(2)						
	⑨ 社会調査の方法(1)						
	⑩ 社会調査の方法(2)						
	⑪ 調査票を作る						
	⑫ 資料検索の方法の学習						
	⑬ 論文を書く(1) テーマ設定～得意分野づくり						
	⑭ 論文を書く(2) 実際に書く						
	⑮ 論文を書く(3) 総括						
	⑯ レポート提出						
成績評価	レポート(70%)、授業時間内の提出物(20%)、受講態度(10%)						
参考文献等	テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室』NHKブックス 2012年 参考文献 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書 2007年 ほか 一部視聴覚機材(DVD)使用						
備考							
	オフィスアワー	火曜日9・10限目(研究室)					

科目番号	214	授業科目	秘書実務 (Secretarial Duties)			担当者	有馬恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	医療秘書実務士必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 秘書に求められる実務能力についての理解を深め、社会の即戦力となることを目指す。また、秘書として必要な対人コミュニケーションについて基礎から学び、職場での人間関係を円滑に進める方策を身につける。						
	2. 到達目標 1. 秘書に必要な基本を身につける 2. 対人コミュニケーションの技術を身につける 3. 臨機応変に対応できる実務能力を身につける						
	3. 事前事後学習 事前…授業内容に関する資料に目を通す 事後…授業内容を確実に理解し、身につけるよう努める						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 働くことの意識、心構え						
	② 秘書に求められる資質、能力						
	③ 第一印象について						
	④ あいさつ、話し方、言葉づかい						
	⑤ 敬語について						
	⑥ 仕事の進め方						
	⑦ 総務(環境整備、スケジューリング)						
	⑧ 接遇(訪問)						
	⑨ 〃 (来客応対、受付業務)						
	⑩ 〃 (電話応対)						
	⑪ 文書(公的手紙文)						
	⑫ 〃 (ビジネス文書)						
	⑬ 情報(収集、整理、活用)						
	⑭ 慶弔のマナー						
	⑮ 国際マナー						
	⑯ レポート提出						
成績評価	レポート等・小テスト(50%) 受講態度(50%)						
参考文献等							
備考							
	オフィスアワー	火曜日16:20～17:30					

科目番号	215	授業科目	健康相談活動 (Health Counseling)			担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 第一種衛生管理者免必修 ピアヘルパー必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 児童生徒の心身の健康課題について支援及び保健指導ができる。						
	2. 到達目標 1 児童生徒の心身の健康課題について理解する。 2 健康課題を捉える力、解決に向けての指導力を育成する。 3 心身の健康課題の早期発見、対応ができる。						
	3. 事前事後学習 これまでの人間関係の中でどのような対応が、相手の気持ちによりそうことができたかを考える。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解①健康相談と保健指導の法的根拠						
	② 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解②健康相談の基本的理解						
	③ 学校教育における健康相談と保健指導の基本的理解③保健指導の基本的理解						
	④ 発達段階別心身の健康問題の特徴と理解						
	⑤ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり①健康相談の基本的プロセスと支援体制						
	⑥ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり②支援の進め方と相談技術						
	⑦ 学校における健康相談の進め方と支援体制づくり③不登校及び保健室登校への対応						
	⑧ 個別の保健指導の進め方						
	⑨ 健康相談及び保健指導事例①健康相談事例　事例1～事例9						
	⑩ 健康相談及び保健指導事例②健康相談事例　事例10～事例19						
	⑪ 健康相談及び保健指導事例③保健指導事例　事例1～事例9						
	⑫ 健康相談及び保健指導事例④保健指導事例　事例10～事例18						
	⑬ 児童生徒の主な心身の健康問題①身体の健康問題(内科系)						
	⑭ 児童生徒の主な心身の健康問題②身体の健康問題(外科系)						
	⑮ 総括						
	⑯ 筆記試験						
成績 評価	筆記試験(60分で実施) 学期末試験の成績　(80%)　受講態度・提出物(20%)						
参考 文 献 等	テ キ ス ト: 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引　文部科学省 参考図書: 新・衛生管理　第1種用　上　中央労働災害防止協会 新版・養護教諭執務のてびき　監修・植田誠治 石川県養護教諭教育研究会編　東山書房						
備 考							
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)					

科目番号	216	授業科目	病理学 (Pathology)				担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 あらゆる疾病に共通する基礎的病変のメカニズムを学び、具体的な疾患の発症・進展。経過について理解する。							
	2. 到達目標 1. 疾病の組織学的な変化について理解する。 2. 疾病の臨床症状と組織学的な変化の関係を理解する 3. 基本的な疾患の病態について理解する。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする。次回の授業範囲をテキストで予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	病理学とは						
	②	医学における病理学の位置						
	③	医学における病理学の役割						
	④	炎症						
	⑤	腫瘍						
	⑥	循環器						
	⑦	呼吸器						
	⑧	消化器						
	⑨	内分泌						
	⑩	神経						
	⑪	感覚						
	⑫	運動						
	⑬	骨						
	⑭	筋肉						
	⑮	リンパ						
	⑯	筆記試験						
成績評価	筆記試験 60%、 受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。							
参考文献等	病理学・堤 寛・医学芸術社							
備考								
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	217	授業科目	解剖学Ⅱ (Anatomy Ⅱ)				担当者	竹中 正巳
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。構造相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることが目的とする。							
	2. 到達目標 - 内分泌系の理解 - 骨格系、筋肉系の理解 - 中枢・末梢神経系の理解 - 感覚器系、人体発生の理解							
	3. 事前事後学習 テキストをよく読んで講義に臨むこと。講義後はテキストの章末のゼミナール問題を解答すること。							
授業計画表	4. 各回の授業内容							
	① 内分泌（副腎、性腺、ホルモンによる調節）							
	② 骨格・関節（骨格とは、骨の連結、体幹の骨、頭蓋）							
	③ 骨格・関節（上肢・下肢の骨）							
	④ 筋肉（筋肉の構造と種類、体幹・頭蓋の筋肉）							
	⑤ 筋肉（上肢・下肢の筋肉）							
	⑥ 中枢神経（神経系の組織構造と機能、脳）							
	⑦ 中枢神経（脊髄）							
	⑧ 末梢神経（脳神経）							
	⑨ 末梢神経（脊髄神経）							
	⑩ 末梢神経（自律神経）							
	⑪ 感覚器（眼、耳）							
	⑫ 感覚器（舌、鼻、皮膚）							
	⑬ 生殖器（男女生殖器）							
	⑭ 人体の発生（受精と胎児の発生）							
	⑮ 人体の発生（成長と老化）							
成績評価								
	毎授業ごとの小テストの結果を合計し、100点に換算							
参考文献等	テキスト：系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円							
	：新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円							
備考	参考図書：井上貴央監訳「カラー人体解剖学―構造と機能:マクロからマイクロまで」西村書店 8,190円							
	単位互換開放対象科目							
考	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50（研究室）						

科目番号	218	授業科目	解剖生理学実験 (Experiments of Anatomy and Physiology)				担当者	竹中 正巳
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活科学	実験	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得することを目的とする。							
	2. 到達目標 ・循環器系, 感覚器系の理解 ・骨格系, 筋肉系の理解 ・神経系, 呼吸器系の理解							
	3. 事前事後学習 実験の手順を記したプリント, 参考図書をよく読んで実験に臨むこと。実験後は, 得られたデータをもとに考察を深め,レポートを作成すること。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション							
	② 循環に関する実験(血圧[循環器系の形態と機能、血圧とその調節]、運動機能検査)							
	③ 感覚に関する実験Ⅰ (味覚)							
	④ 感覚に関する実験Ⅱ (錯視)							
	⑤ 骨格に関する実習Ⅰ (人体構造の立体的位置関係の把握)							
	⑥ 骨格に関する実習Ⅱ (人体構造の立体的位置関係の把握)							
	⑦ 歯に関する実習Ⅰ (乳歯、永久歯の形態の観察)							
	⑧ 歯に関する実習Ⅱ (永久歯列と無歯顎)							
	⑨ 循環に関する実験 (心電図、運動機能検査)							
	⑩ 体温に関する実験 (身体各部の皮膚温、体温とその調節機構)							
	⑪ 神経疲労に関する実験(フリッカー試験、疲労とは、視環境・音環境による人体機能の変化)							
	⑫ 疲労とその予防(疲労とは、疲労の原因、疲労の分類、疲労の経過、疲労の測定、疲労の予防、疲労の回復、運動機能検査(健康測定)、体重測定)							
	⑬ 呼吸に関する実験 (スパイロメーターを用いた実験、肺機能検査、労働時の呼吸量)							
	⑭ 組織標本の観察							
	⑮ 組織標本の観察							
成績評価	実験ごとのレポート (60点)、 筆記試験 (30点)、 実験態度 (10点)							
参考文献等	プリント等を適宜、配布する。 参考図書 : 川村一男編 解剖生理学実験 建昌社 1,785円 : 系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 : 井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからミクロまで 」西村書店 8,190円 : 新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円							
備考								
考	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50 (研究室)						

科目番号	219	授業科目	微生物学 (Microbiology)			担当者	小松澤 均
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人類は長い歴史の中で多くの微生物と関わってきている。乳酸菌・酵母等は発酵食品等に有効に利用しているが、一方では多くの病原性微生物がヒトに様々な病気を引き起こしている。本授業では微生物である細菌、ウイルス、真菌等について基本的な特徴について理解する。その知識を理解した上で、病原性微生物の種類やヒトへの病原性および感染予防について学ぶことを目標とする。						
	2. 到達目標 ① 細菌、ウイルス、真菌、原虫についての基本的性状を説明できる。 ② 微生物感染についての概念を説明できる。 ③ 病原性微生物の種類、発症機序、病態について説明できる。 ④ 感染予防法、診断法、治療法について説明できる。						
	3. 事前事後学習 授業での理解を深めるためにレポートを課すことがある。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 微生物学の歴史と概要						
	② 細菌の一般性状1(命名法、分類、形態、大きさ、構造など)						
	③ 細菌の一般性状2(培養、増殖様式、変異、遺伝子など)						
	④ 感染と免疫(感染源、感染様式、感染の種類、免疫力など)						
	⑤ 細菌の病原性1(グラム陽性菌:ブドウ球菌、レンサ球菌、炭疽菌、結核菌など)						
	⑥ 細菌の病原性2(グラム陰性菌:大腸菌、緑膿菌、赤痢菌、コレラ菌、ピロリ菌など)						
	⑦ 細菌感染症の診断と治療(種々の鑑別診断法、抗菌剤など)						
	⑧ ウィルスの一般性状(大きさ、形態、構造、増殖、抗ウィルス薬など)						
	⑨ ウィルスの病原性1(DNAウィルス:ヘルペスウィルス、パピローマウィルスなど)						
	⑩ ウィルスの病原性2(RNAウィルス:インフルエンザウィルス、風疹ウィルスなど)						
	⑪ 真菌・原虫の一般性状(大きさ、形態、構造、増殖など)						
	⑫ 真菌・原虫の病原性(カンジダ、アスペルギルス、白癬、マラリアなど)						
	⑬ 臓器感染症(皮膚、粘膜、呼吸器、消化器など)						
	⑭ 感染症の予防(滅菌法、消毒法など)						
	⑮ 総括						
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(10%) ・受講態度(10%) ※出席点を含む						
参考文献等	コンパクト微生物学(改訂第3版)、編集小熊恵二、堀田博 南江堂						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	220	授業科目	薬理概論 (Pharmacology)			担当者	栗原 崇
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 医療秘書実務士必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 薬理学とは、生体と外界の物質(薬物および毒物)の相互作用の結果、生じる現象(薬理作用)を研究する学問体系である。薬理概論では、薬理作用を説明するための基礎的知識の習得に重点を置き、身近に接する薬物・毒物に関する薬理作用を理解することを目的とする。						
	2. 到達目標 1. 薬理作用の一般的概念を理解する(薬物・毒物の用量反応曲線、受容体理論)。 2. システム(神経系、循環器系など)特有に適用される薬物の作用メカニズムを理解する。 3. 薬物動態、薬物相互作用の基本的概念を理解する。						
	3. 事前事後学習 薬理学を理解する上で、解剖学、生理学、微生物学等の基礎知識は必須であり、よく学習しておくことが必要である。毎回講義の要点を記したプリントを配布する予定であるが、基本的とは言え、かなりの数の薬物名が講義に登場することもあり、授業のみで理解・記憶することは困難と思われる。予習・復習のため、教科書、あるいは副読本の購入し、学習することが必要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 薬理学総論-1 (薬力学: 受容体と細胞内情報伝達)						
	② 薬理学総論-2 (薬物動態学)						
	③ 自律神経薬理学-1 (交感神経系)						
	④ 自律神経薬理学-2 (副交感神経系)						
	⑤ 末梢神経薬理学 (骨格筋弛緩薬、局所麻酔薬)						
	⑥ 中枢神経薬理学-1 (全身麻酔薬、鎮静睡眠薬、抗てんかん薬)						
	⑦ 中枢神経薬理学-2 (パーキンソン病治療薬、抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬)						
	⑧ 抗炎症薬、鎮痛薬						
	⑨ 循環器薬理学-1 (抗高血圧薬、心不全治療薬、利尿薬)						
	⑩ 循環器薬理学-2 (狭心症治療薬、抗不整脈薬)						
	⑪ 内分泌薬理学						
	⑫ 呼吸器系薬理学 (鎮咳・去痰薬、気管支喘息治療薬、COPD治療薬)						
	⑬ 消化器系薬理学 (消化性潰瘍治療薬、消化管運動賦活調整薬、鎮吐薬)						
	⑭ 化学療法薬-1 (抗生物質)						
	⑮ 化学療法薬-2 (抗ウイルス薬、抗ガン剤)						
成績評価	筆記試験に加え、出席、受講態度を加味して総合的に評価する。総合評価で、100点満点中60点以上を合格とする。不合格者には、再試験、レポートを課す。						
参考文献等	様々な教科書が出版されているが、以下の4冊を推薦する。1, 2は初級者向け、3は日本の医学部、4は米国の医学部で使用される代表的教科書の1つである。副読本は順次講義中に紹介する。 1. 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3]薬理学(第13版) 吉岡充弘/泉剛/井関健 医学書院 (2014) 2. はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 羊土社 (2013) 3. New薬理学 改定第6版 田中千賀子/加藤隆一編 南江堂 (2011) 4. カッティング薬理学エッセンシャル 柳澤輝行/丸山敬監訳 丸善出版 (2012)						
備考	基本的には、全ての講義でプロジェクターを使用した講義を行うが、適宜小テスト、発表等を利用した双方向性の授業形態も取り入れる予定である。						
	オフィスアワー	平日は他大学での勤務のため、emailでも質問を受け付けます。					

科目番号	221	授業科目	看護実習 (Practice nursing)				担当者	満田　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	1年・後期 2年・前期	生活科学 生活科学	実習	2	選択	養教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 より健康的に生きるための支援技術(care)を習得する。さらに、careのために必要な安全・安楽・清潔感を身につける。							
	2. 到達目標 1　児童生徒の健康ニーズに対する観察力判断力を育成する。 2　安全で安楽な健康生活の支援技法を修得する。 3　修得した技能を通して健康課題への対応力を身につける。							
	3. 事前事後学習 病院を受診した時、どのようにしてもらったら安心できたか、自分ならどうするか。 患者さんの気持ちを考える。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
		1年後期				2年前期		
	①	オリエンテーション、入院時・来室時の援助				①	薬についての知識と管理	
	②	バイタルサインの測定と記録				②	医療的ケア	
	③	ベッドメイキング				③	包帯法、傷の手当て	
	④	シーツ交換と体位				④	学校における救急処置①	
	⑤	安楽法と運搬				⑤	学校における救急処置②	
	⑥	口腔内の清潔				⑥	訴えや症状に対する理解と看護①	
	⑦	身体の清潔				⑦	訴えや症状に対する理解と看護②	
	⑧	頭髮の清潔				⑧	訴えや症状に対する理解と看護③	
	⑨	食生活の援助				⑨	診察の介助	
	⑩	排泄の世話				⑩	身体の清潔(入浴・シャワー浴)	
	⑪	電法・衛生材料の種類と作り方				⑪	経管栄養法、褥瘡の予防	
	⑫	小児看護				⑫	検査と看護	
	⑬	滅菌と消毒				⑬	リハビリテーションと看護	
	⑭	感染予防①				⑭	死後のケア　他	
	⑮	総括				⑮	総括	
	成績 評価	筆記試験及び実技試験(90分で実施) 学期末試験の成績　(80%)　受講態度・提出物　(20%)						
参考 文献 等	テ　キ　ス　ト: 基礎看護技術ガイド　川島みどり監修　照林社 養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店 参考図書: けがの種類と応急手当　　　　　少年写真新聞社							
備 考								
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	222	授業科目	救急処置Ⅱ (First aid)			担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 傷病者を観察し、正確な判断と適切な処置ができる。						
	2. 到達目標 1 応急手当の基本的知識と技術の修得 2 傷病者に対し観察し、適切な判断と対応ができる。 3 救助者としての心得と態度を学ぶ。						
	3. 事前事後学習 救急処置Ⅰの復習。 事後は、日常的にくりかえし練習する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 救急法の概要						
	② 一次救命処置(心肺蘇生法、AEDの使用方法、気道異物除去)						
	③ けが　各部のけがと手当　特殊なけが						
	④ きずの手当　止血、包帯　三角巾						
	⑤ 骨折の手当　脱臼、捻挫						
	⑥ 搬送　1人で・多人数での搬送　特殊な状況での移動方法						
	⑦ 救護　災害時の心得と救護						
	⑧ 総括						
	⑨ 筆記試験及び実技試験						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績 評価	筆記試験及び実技試験を90分で実施 筆記試験　(50%) 実技試験　(50%)					
参 考 文 献 等 テ キ ス ト: 救急法講習教本　日本赤十字社							
備 考							
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)					

科目番号	223	授業科目	教育心理学 (Educational Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修 ピアヘルパー必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 教育心理学とは、教育に関する様々な事象を、心理学の方法を用いて研究している学問です。本講義では、人の発達や適応、学習のメカニズムといった事柄に関する基礎的な心理学の用語及びその内容の理解を深め、学習支援や人間関係における適応の支援といった教育活動に活かす基礎を学ぶことを目標とします。						
	2. 到達目標 1.学習、適応、発達などに関する心理学用語を理解する 2.実証的なデータに基づき考える事ができる 3.教育活動と理論を統合させる						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / 教育心理学とは						
	② 発達過程 ①（発達とは何か）						
	③ 発達過程 ②（知的発達）						
	④ 発達過程 ③（社会的発達）						
	⑤ 個人差への対応 ①（個人差の理解）						
	⑥ 個人差への対応 ②（適応とカウンセリング）						
	⑦ 個人差への対応 ③（特別支援教育のシステム）						
	⑧ 学習過程 ①（動機付けと学習）						
	⑨ 学習過程 ②（学習の原理）						
	⑩ 学習過程 ③（知識、スキルの獲得）						
	⑪ 支援の手立て ①（学力と教育評価）						
	⑫ 支援の手立て ②（個に応じた学習指導）						
	⑬ 支援の手立て ③（主体的学びの授業）						
	⑭ 人間関係の理解 ①（学習集団）						
	⑮ 人間関係の理解 ②（教師－生徒関係）						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 受講態度およびレポートの提出状況(20点)						
参考文献等	テキスト:杉江修治(編著)「教師教育テキストシリーズ④ 教育心理学」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
考	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 (研究室)					

科目番号	224	授業科目	発達心理学 (Developmental Psychology)			担当者	平嶋 慶子
区分	開 講 学 期	学科・コース	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	ピアヘルパー必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人は一生涯をかけて成長、変化し発達する存在である。講義を通して、人間と発達に関するさまざまな考え(人間観)を知り、人の心理発達の理解を学ぶ。また、人の一生の中で起こりうる発達の課題を学び、現代社会に生きる自分や他者について洞察を深める。						
	2. 到達目標 ① 発達の概念と発達の原則を学ぶ。 ② 発達理論を理解する。 ③ 人の一生の発達の的変化を学ぶ。						
	3. 事前事後学習 講義後の復習を主とする。テキストと共に配布資料を確認し、次回の講義までに用語や概念を理解しておくことが重要である。						
授 業 計 画	3. 授業計画						
	① 序論：人間と発達						
	② 発達の原則と発達の期定因						
	③ 発達観の変遷①前成説と先決説						
	④ 発達観の変遷②遺伝説と経験説						
	⑤ 発達観の変遷③相互作用説						
	⑥ 発達段階とは						
	⑦ 発達段階とその特徴①発達の始まり～胎児期～新生児期						
	⑧ 発達段階とその特徴②乳幼児期						
	⑨ 発達段階とその特徴③児童期						
	⑩ 発達段階とその特徴④青年期						
	⑪ 発達段階とその特徴⑤成人期～老年期						
	⑫ 各側面の発達：知覚と知能・認知・思考						
	⑬ 各側面の発達：ことばとコミュニケーション						
	⑭ 各側面の発達：情緒と意思・社会性、道徳性とパーソナリティー						
	⑮ 発達のつまづきと援助						
	⑯ 試験						
成績評価	筆記試験は90分で実施 試験 80％ 受講態度 20％						
参考文献等	テキスト： 発達心理学 無藤隆/中坪史典/西山修 編著 ミネルヴァ書房						
備考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(火曜日を除く)					

科目番号	225	授業科目	教育方法の研究 (Teaching Method)			担当者	横峯 孝昭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 児童整頓心身の健康問題が複雑、多様化してきている現代、人間形成に必要な「生きる力」を育む 保険教育を実践できる資質能力及び指導力を育成する。						
	2. 到達目標 1 教育課程編成の基準となる法律について理解する。 2 教育課程編成の基準となる学習指導要領について理解する。						
	3. 事前事後学習 学習指導要領の総則を具体的に読み解いていく。実際に学習指導要領を全部読むことを講義中は 行なわないため、前もって目を通しておくこと、講義後はどの場所を今回読み解いていったのかという 観点で目を通しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 学校教育活動と教員						
	② 保健教育と学習指導案						
	③ 保健学習の内容						
	④ 学習指導案作成について①						
	⑤ 学習指導案作成について②						
	⑥ 学習指導案作成について③						
	⑦ 模擬授業と授業研究						
	⑧ 模擬授業と授業研究						
	⑨ レポート(学習指導案)提出						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績評価	レポート(100%)の提出					
参考文献等	参考文献は講義中に適宜紹介する。						
備							
考	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間					

科目番号	226	授業科目	医療事務総論(医療秘書実務含む) (Medical coding outline)				担当者	児玉 利大
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	医療秘書実務士必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 少子、高齢化社会へ急速に移行しているわが国において、医療を取り巻く社会環境の変革を求められる現在、患者のためのより良い医療提供と医師本来の社会的責務が達成できるよう、補佐業務を身につけ医療秘書実務士の資格を取得する。							
	2. 到達目標 ① 医療の基本的な理解を医療事務全般にわたる基礎知識を学習する。 ② 医療事務に関する諸規則についての知識を習得する。 ③ 医療知識を身につけ、診療録(カルテ)及び病院の業務の流れを理解する。							
	3. 事前事後学習 保健、医療、福祉等の社会保障関連の知識をテレビ、ラジオ、新聞雑誌、インターネット等のメディアから得る。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 医療事務総論の必要性と医療事務の特性							
	② 病院医療の概要							
	③ 医療事務の仕事							
	④ 医療秘書の役割と業務							
	⑤ 社会保障制度							
	⑥ 医療保険制度の概要							
	⑦ 医事関係法規							
	⑧ 医療施設の概要							
	⑨ 保険請求業務							
	⑩ 医事業務							
	⑪ 外来、入退院業務							
	⑫ 料金徴収業務、統計業務							
	⑬ 介護保険制度							
	⑭ 医療秘書としての人間関係と接遇							
	⑮ 医療事務総論の総括							
成績評価	1. 受講態度 20％ 2. 筆記試験 80％							
	参考文献等 日本医療福祉実務教育協会監修 「医療秘書実務士選書 医療事務総論」建帛社 社会保険研究所 新訂「医療事務の手引」							
備考								
	オフィスアワー	水曜日 14:25～14:40 (講義室)及び授業後15分非常勤講師室で対応						

科目番号	227	授業科目	医療事務演習Ⅰ (Medical coding exercisesⅠ)			担当者	児玉 利大
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療秘書実務士養成の趣旨に沿って、医療事務及び診療報酬点数の基本を短時間で学べることを目的とし、医療福祉の現場で活躍することを目指している。						
	2. 到達目標 ① 診療行為における診療報酬算定要件を理解する。 ② 診療報酬明細書の作成及び請求について理解する。 ③ 医療費の仕組みと正しい診療報酬点数の算定を行う技術を身につける。						
	3. 事前事後学習 前もって教科書に目を通しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 診療報酬の仕組みと診療報酬明細書						
	② 診療報酬明細書の作成と提出						
	③ 診療報酬明細書の記載の一般的事務						
	④ 医科診療報酬点数の算定			1.基本診療料			
	⑤ 医科診療報酬点数の算定			2.医学管理等・在宅医療料			
	⑥ 医科診療報酬点数の算定			3.投薬料			
	⑦ 医科診療報酬点数の算定			4.注射、処置料			
	⑧ 医科診療報酬点数の算定			5.手術、麻酔料			
	⑨ 医科診療報酬点数の算定			6.検査料			
	⑩ 医科診療報酬点数の算定			7.画像診断、リハビリテーション料			
	⑪ 医科診療報酬点数の算定			8.入院基本、特定入院料			
	⑫ 医科診療報酬点数の算定			9.入院料の算定とレセプトの作成			
	⑬ 診療報酬請求事務						
	⑭ 診療報酬明細書の総括						
	⑮ 診療報酬の総括						
成績 評価	1. 受講態度 20%						
	2. 筆記試験 80%						
参考 文献 等	日本医療福祉実務教育協会監修「医療秘書実務士選書 医療事務総論」建帛社						
備 考							
	オフィスアワー	水曜日 14:25～14:40（講義室）及び授業後15分非常勤講師室で対応					

科目番号	228	授業科目	社会福祉 (Social Welfare)			担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会においては、日々の暮らしと社会福祉は切り離すことが出来ない。市民生活を送る上で、自らが生活に困った時や周りに困った人がいたときに生活を守り、安心して豊かな人生を築いていくために必要な社会福祉・社会保障制度の基礎的知識を身につける。						
	2. 到達目標 1 社会福祉・社会保障の歴史と今日の課題を理解する。 2 社会福祉・社会保障制度の知識を身につける。 3 相談援助の知識と相談者としての態度を身につける。						
	3. 事前事後学習 介護辞典等を利用して、基礎的な用語を理解して覚えること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 社会福祉の現代的意義 (社会福祉の意義と概念)						
	② 社会福祉の現代的意義 (社会福祉の歴史)						
	③ 社会福祉の法体系と行政 (社会福祉の法制)						
	④ 貧困問題と生活保護 (生活保護制度等)						
	⑤ 高齢者福祉 (老人福祉法と老人福祉サービス)						
	⑥ 高齢者福祉 (介護保険制度)						
	⑦ 障害者福祉 (障害者福祉の全体像)						
	⑧ 障害者福祉 (身体障害者・知的障害者の福祉)						
	⑨ 児童福祉 (少子化対策と児童福祉)						
	⑩ 福児童祉 (児童福祉法と児童福祉サービス)						
	⑪ 社会保障制度 (年金・医療保険制度)						
	⑫ 社会福祉援助技術 (対人援助の考え方)						
	⑬ 社会福祉援助技術 (個別援助技術の原則)						
	⑭ 社会福祉の動向と今後の展望						
	⑮ 総括(社会福祉と養護教諭)						
成績 評価	筆記試験(80点) 60分のテスト、小テスト20点 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。						
	テ キ ス ト・片山義弘／李木明德／編著「社会福祉」保育ライブラリー 北大路書房 ・社会福祉六法 ミネルヴァ書房 そ の 他・適宜ビデオとプロジェクターを使用する。 ・社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。						
備 考							
	オフィスアワー	随時(久永研究室に事前連絡すること)					

科目番号	229	授業科目	情報処理演習 (Ms-Windows&Ms-Office Practice)				担当者	有馬利加子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	医療秘書実務士必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 Office-Soft (主にWord&Excel&PowerPoint)を活用して、ビジネス文書や実習で利用できる文書作成、Word・Excel連携の応用文書作成、PowerPointによるプレゼンテーション(実習報告)までを目指しています。							
	2. 到達目標 1 各種の基本問題に取り組み、習得したスキルを活用できる。 2 各種の応用問題に合わせて、自由にパソコンを利用できる。							
	3. 事前事後学習 事前学習 : 次回の学習内容を課題として提示 事後学習 : 復習課題を提示							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 「Word」基礎演習							
	② 「Excel」基礎演習							
	③ 「Internet」活用①							
	④ 「Internet」活用② (mail)							
	⑤ 「実習」のための文書作成演習①							
	⑥ 「実習」のための文書作成演習②							
	⑦ 「実習」のためのインターネット活用演習①							
	⑧ 「実習」のためのインターネット活用演習②							
	⑨ 「Word」活用演習 (ビジネス文書・表・図形等)							
	⑩ 「Excel」活用演習 (複合課題)							
	⑪ 総合演習 (Office-Soft連携等)							
	⑫ 「PowerPoint」基礎演習							
	⑬ 「PowerPoint」応用演習							
	⑭ 「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」作成①							
	⑮ 「PowerPoint」活用によるプレゼンテーション「実習報告」作成②							
成績評価	○演習時における課題作成等の提出・受講態度等の総合評価で行います。 (レポート等の提出状況:50%、受講態度(出席点を含む):50%)							
参考文献等	○参考(演習)資料:演習中配付 ○使用機器:パソコン、液晶プロジェクター							
備考								
	オフィスアワー	月曜日12:30～13:30						

科目番号	230	授業科目	精神保健 (mental health)			担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免・中二種免(保健)必修 第1種衛生管理者免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代日本はストレス社会と言われ、ストレスに関係する心の病(精神疾患)が急増している。この科目では、ストレス及びストレスに関係する疾患や統合失調症などの精神疾患について、その基礎を理解し、ストレス対処法や疾患への対応法についても理解を深める。						
	2. 到達目標 1. ストレスや精神的健康とは何かについて理解する。 2. 基本的な精神疾患について理解する。 3. 精神疾患に対する基本的な対応について理解する。						
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする。次回の授業範囲をテキストで予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 精神医療の歴史と現在						
	② 精神機能の生物学的基礎						
	③ 精神症状1						
	④ 精神症状2						
	⑤ ストレスと対処法						
	⑥ 統合失調症						
	⑦ 気分障害						
	⑧ 不安障害1						
	⑨ 不安障害1						
	⑩ 発達障害						
	⑪ 認知症						
	⑫ 人格障害						
	⑬ 薬物依存症						
	⑭ アルコール依存症						
	⑮ 心身症						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	筆記試験 60%、 受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。						
参考文献等	精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 ISBN978－4－260－01588-2						
備考	オフィスアワー 毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	231	授業科目	疾病学 (Clinical medicine)				担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 基本的な疾患について、臨床的な側面の知識を身につけ、理解を深める。							
	2. 到達目標 1. 疾患の病因、病態、疫学、予後について理解する。 2. 疾患の症状、理学・検査所見について理解する。 3. 疾患の治療法について基本的な知識を身につける。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする。次回の授業範囲を参考図書で予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 疾病学とは？							
	② その種類							
	③ 日常遭遇する疾病							
	④ 各 論 1 循環							
	⑤ 2 呼吸							
	⑥ 3 消化							
	⑦ 4 内分泌							
	⑧ 5 神経							
	⑨ 6 精神							
	⑩ 7 生殖							
	⑪ 8 泌尿							
	⑫ 9 骨・筋肉							
	⑬ 10 感覚							
	⑭ 11 皮膚							
	⑮ 12 免疫							
	成 績 評 価	⑯ 筆記試験						
筆記試験 60%、 受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。								
参 考 文 献 等	病理学・堤 寛・医学芸術社 養護教諭のための看護学・藤井寿美子・大修館書店							
備								
考	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	232	授業科目	環境衛生学 (Environmental hygienics)			担当者	村山恵美子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人間が健康で安心・安全な生活をおくるためには、先ず、その生活する環境が健全でなければならないが、最近その健全性を脅かす様々な環境問題が生じている。この講義では、地球規模から身近な生活環境にいたる環境汚染の実態に目を向け、環境問題を現状認識し理解することを目的とする。						
	2. 到達目標 1. 環境衛生に関する現状を認識し、問題点を理解する。 2. 安全な生活を営むためにできることを考える。						
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べる。また、企業の環境対策への取り組みを調べ、発表の準備をする。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① エネルギー(現在のエネルギー、今後のエネルギー)						
	② 大気(大気汚染、酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化)						
	③ 水(水質汚染、浄化処理、水の循環)						
	④ 土壌(土壌汚染、物質の循環)						
	⑤ 人工増加と食料問題						
	⑥ 化学物質による環境汚染と人体影響(重金属、内分泌攪乱物質、ダイオキシン等)						
	⑦ 廃棄物とリサイクル						
	⑧ 食環境						
	⑨ 食品汚染と安全性の確保						
	⑩ 寄生虫症						
	⑪ 自然毒						
	⑫ 食品添加物						
	⑬ 新しい食品の安全性問題(遺伝子組み換え食品、放射線照射食品、食品表示等)						
	⑭ 社会・環境報告書事例①						
	⑮ 社会・環境報告書事例②						
	⑯ 筆記試験、プレゼンテーション						
成績評価	筆記試験(60分)60%、調査報告プレゼンテーション30%、小試験(随時)10%						
参考文献等	篠田純男他共著「環境衛生の科学 第2版」三共出版 合原眞他共著「人と環境」三共出版 中村好志・西島基弘編「食品安全学」同文書院 中央労働災害防止協会編「新衛生管理上(第一種用)」 パワーポイント、VHS、DVD使用						
備考							
考	オフィスアワー	火・金 9, 10限					

科目番号	233	授業科目	運動生理学 (Sports Physiology)			担当者	大村 一光
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	中二種免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体 of 諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するかを明らかにする学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、ウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して運動による人体生理機序の理解をはかる						
	2. 到達目標 1. 人体各種機能の理解 2. 運動に伴う機能の変容 3. 指導場面への応用						
	3. 事前事後学習 生理学等での学習内容の事前理解をはかる						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)						
	② 運動と骨格筋(収縮メカニズムと筋肉のタイプ, 運動による筋肉の適応)						
	③ 運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動の種類, その効果)						
	④ 運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動の種類, その効果)						
	⑤ 運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)						
	⑥ 運動と循環(運動による循環系への適応, スポーツ心臓)						
	⑦ 運動と神経(運動と技能の上達, 神経系の役割)						
	⑧ 運動と骨(骨粗しょう症, 運動の効果)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)					
参考文献等	テキストは使用しない(毎回、印刷資料を配布する) パワーポイントを使用 石井喜八 他:運動生理学概論、大修館						
備 考	単位互換解放対象科目						
考	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00					

科目番号	234	授業科目	臨床看護実習(学外) (Practice nursing in Hospital)				担当者	満田　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	養教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 養護教諭に必要な看護能力と実践力を育成する。さらに医療機関と連携していく上で留意することを理解する。							
	2. 到達目標 1　看護を行う上での知識・技能・態度の育成 2　病院の組織・機能を理解し、医療機関との連携が推進できる。 3　看護援助への参加及び実習							
	3. 事前事後学習 学内における「看護実習」をくり返し練習し、支援技法を身につける。 事後は、実習したことを養護教諭としてどのように生かすか考える。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション(病院機構と看護組織・看護体制)						
	②	臨床における観察と記録						
	③	看護におけるコミュニケーション						
	④	日常生活の援助						
	⑤	訴えや症状に対する理解と看護						
	⑥	母性の看護						
	⑦	小児の看護						
	⑧	総括						
	⑨	実習記録物等の提出・臨床からの評価						
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	⑯							
成績評価	臨床指導者の評価　(80%) 受講態度、提出物　(20%)							
参考文献等	テキスト: 基礎看護技術ガイド　川島みどり監修　照林社 参考図書: 養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店							
備								
考	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	235	授業科目	臨床看護実習指導 (Guidance about practice nursing in Hospital)				担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 より高い実習効果をめざすために、臨床看護実習についての心得や必要な知識を備える。							
	2. 到達目標 1 臨床看護実習についての意義・目的を理解する。 2 臨床看護実習を行う上での必要な知識・態度の育成。 3 事前訪問や実習上の諸注意を守る。							
	3. 事前事後学習 なぜ臨床の場での実習をするかを考える。 実習効果をあげるために事前学習ノートを作成する。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	臨床とは、病院について(病院の形態と組織)						
	②	診療部門と看護部門						
	③	実習資料・記録物等の配布と諸注意						
	④	臨床看護実習の意義・目的						
	⑤	実習上の心得と実習連絡会						
	⑥	臨床看護実習事前訪問指導						
	⑦	実習記録の書き方						
	⑧	総括						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	実習レポート(80%) 受講態度・提出物(事前学習ノート等)(20%)							
	参考文献等 テキスト: 養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店							
備考								
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	236	授業科目	教育制度論 (Educational Law System)			担当者	池田 哲之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 近代学校教育制度の歴史的変遷を踏まえ、学校教育(公教育)のあるべき姿を考察する。						
	2. 到達目標 (1) 国民国家における学校の機能を理解する。 (2) 戦後教育改革の意義およびその問題点を知る。 (3) 今日もとめられる公教育像を構築しうる知見をえる。						
	3. 事前事後学習 事前学習: 日ごろから教育問題に関心をもち、新聞、インターネット等の教育記事に目を通す習慣をつけること。 事後学習: 教員の与えた課題を、所定の期限内に確実にやりおえること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 幕末期の教育概況－寺子屋・藩校・塾－						
	② 「学制」布達－近代学校教育制度の萌芽－						
	③ 森 有礼の教育政策－諸学校令－						
	④ 教育勅語(「教育ニ関スル勅語」)の渙発						
	⑤ 大正期の教育動向－大正デモクラシーの時代－						
	⑥ 戦時教育体制						
	⑦ 占領支配下の教育改革－四大教育指令－						
	⑧ 旧教育基本法の成立						
	⑨ 高度経済成長期下の教育政策						
	⑩ 臨時教育審議会－戦後教育政策の転換点－						
	⑪ 子どもの変容－社会・教育病理の顕在化－						
	⑫ 改正教育基本法の成立の背景						
	⑬ 改正教育基本法の要点						
	⑭ 教育改革の諸動向						
	⑮ 総括						
	⑯ 筆記試験・受講状況						
成績評価	学期末試験(85点)※筆記試験は60分で実施予定。 受講状況(15点)※出席状況も勘案する。						
参考文献等	(1) 教員作成のレジュメを、ほぼ毎時配布する。 (2) テキストについては、講義時に指示する。						
備考	単位互換開放対象科目 シラバスの記載内容は、受講生の理解度等により、授業開始後に変更となる場合があります。						
	オフィスアワー	火曜日 16:30～17:30					

科目番号	237	授業科目	教育課程の研究 (Teaching Method)				担当者	横峯 孝昭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校において変性する教育課程について学び、児童生徒および地域や学校の実態等を考慮して各学校独自の特色を生かした教育計画であることを学ぶ							
	2. 到達目標 1 教育課程編成の基準となる法律について理解する。 2 教育課程編成の基準となる学習指導要領について理解する。							
	3. 事前事後学習 学習指導要領の総則を具体的に読み解いていく。実際に学習指導要領を全部読むことを講義中は行なわないため、前もって目を通しておくこと、講義後はどの場所を今回読み解いていったのかという観点で目を通しておくこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	教育課程と学習指導要領						
	②	教育課程の基準と法令						
	③	教育課程編成の原則及び一般方針						
	④	各教科の目標と内容の取扱い						
	⑤	授業時数及び指導計画の作成						
	⑥	道徳・特別活動・総合的な学習の時間						
	⑦	学校保健・安全に関すること						
	⑧	人権・同和教育に関すること						
	⑨	試験						
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	筆記試験(70%)、受講態度(30%)							
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省 中学校学習指導要領 文部科学省							
備 考								
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間						

科目番号	238	授業科目	保健科教育法 (Teaching Method for Health education)				担当者	大村 一光
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 小学校での健康・保健教育の基礎をもとに、家庭・学校・地域社会など、生徒が身近な社会の生活における自己や他人の健康・安全についての基礎的な理解を深め、健康生活の実践に必要な習慣・態度・能力・技能を養い、健康生活を自主的に実践できるような保健科教育の指導法、教育法について学ぶ。							
	2. 到達目標 1. 保健科内容の確認、理解 2. 指導法の展開法の理解 3. 模擬授業による実践力向上							
	3. 事前事後学習 教育実習訪問での打ち合わせをもとに、単元研究等を行う。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	心身の発達と心の健康(体の発育・発達、呼吸・循環機能の発達)						
	②	心身の発達と心の健康(性機能の成熟、欲求やストレスへの対処)						
	③	健康と環境(快適な環境の条件、水とわたしたちの生活)						
	④	健康と環境(環境の汚染と保全)						
	⑤	傷害の予防(傷害の原因と防止、交通事故の防止)						
	⑥	傷害の予防(自然災害に備えて、応急処置の意義と手順)						
	⑦	健康な生活と病気の予防(健康の成り立ち、生活習慣病とその予防)						
	⑧	健康な生活と病気の予防(喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防)						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	学期末試験の成績(50%)および授業における模擬授業(50%)を評価対象とする ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	中学校「保健体育」テキスト、学習ノート、中学校学習指導要領							
備考								
	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00						

科目番号	239	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)			担当者	松元 理恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中(保健)必修 医療秘書実務士必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会の変容の中で、幼児、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向がみられます。また、近年の子どもの健康に与える家庭の教育力や地域社会の機能の低下等を概観し、教師として子ども、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学びます。						
	2. 到達目標 1.問題を抱える子どもの心理状態を理解する 2.教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を習得する 3.自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える						
	3. 事前事後学習 次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメや資料をもとに予習をしてください。また、授業を深く理解するための資料やワークシートも配布しますので、レジュメと照合しながら復習を行ってください。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 教育相談の理論と方法						
	② 現代生きる子ども達～子どもの行動をどう理解するか						
	③ 子どもの発達理解と相談・支援～乳児期・幼児期						
	④ 子どもの発達理解と相談・支援～学童期・思春期						
	⑤ 子どもの不適応行動とその心理～いじめに対する支援						
	⑥ 子ども不適応行動とその心理～集団不適応、非社会的行動(不登校等)に対するかかわり方						
	⑦ 子ども不適応行動とその心理～情緒障害、反社会的行動(逸脱行動等)に対するかかわり方						
	⑧ 保護者への対応～親子の関係づくり、「親育ち」のための発達支援						
	⑨ 保護者への対応～保護者の要望と方針との間で						
	⑩ 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり						
	⑪ 子どもの発達とアセスメント						
	⑫ 虐待について(身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待)						
	⑬ 危機に直面した子どもと心のケア						
	⑭ 教育相談の具体的方法～カウンセリングの基本事項、傾聴(ロールプレイング)						
	⑮ 社会資源の活用～関係機関を知る						
	⑯ 筆記試験						
成績 評価	※筆記試験は60分で実施(70%)、講義で出された課題(レポート等)の提出状況(20%)、 受講態度(10%) ※出席点を含む						
参考 文 献 等	テキストは特に指定しない。 参考文献は授業中に適宜提示する。 パワーポイント、DVDを使用する場合がある。						
備 考							
	オフィスアワー	火曜日・木曜日12:05～12:55(研究室)					

科目番号	240	授業科目	養護実習事前事後指導 (Guidance about before and after practice yogo teacher)				担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	養教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実習生としての心得や必要な知識を備える。 実習中は、実習生ではあるが子供に対しては養護教諭であり、指導者であるという立場の自覚を促す。							
	2. 到達目標 1　社会人としての常識や礼儀の修得 2　実習生としての立場の自覚と行動ができる 3　事前訪問や実習上の諸注意を守る							
	3. 事前事後学習 養護学習についての認識をもち、実習効果をあげるために事前学習ノートを作成する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	養護実習の心得						
	②	事前訪問と実習オリエンテーション						
	③	記録物等の記録及び提出について						
	④	保健室来室者への対応						
	⑤	保健指導について						
	⑥	学校保健事務						
	⑦	養護実習事後指導						
	⑧	総括						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績 評価	実習レポート(70%) 受講態度・提出物等(学習指導案・掲示物・事前学習ノート)(30%)							
参考 文 献 等	プリント配布							
備 考								
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	241	授業科目	養護実習(学外) (Practice yogo teacher in school)				担当者	満田　タツ江		
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考				
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	3	選択	養教免必修				
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 養護教諭としての資質・能力・実践力を育成する。学校教育における保健室の機能と養護教諭の役割を理解する。									
	2. 到達目標 1　教育を志す者としての自覚と積極的な姿勢を養う。 2　学校教育活動に参加し、保健室の機能を理解する。 3　擁護活動の実体験を通して養護教諭の専門性を理解する。									
	3. 事前事後学習 過去の実習生の体験レポートを熟読し必要な事前学習を行う。 学習指導案や掲示物の作成を行う。									
授 業 計 画	4. 各回の授業内容									
	①	学校の概要				⑰	学校給食について			
	②	学校保健組織活動と学校保健委員会				⑱	保健室における器材、薬品等の管理			
	③	学校保健安全計画に関する事項				⑲	学校医・歯科医・薬剤師との連携について			
	④	保健室経営について				⑳	学校保健関係機関との連携について			
	⑤	養護教諭の執務計画とその展開				㉑	担任・家庭・地域との連携について			
	⑥	健康観察と来室者への対応				㉒	総括			
	⑦	健康診断の準備・実施・事後措置				㉓	実習記録物等の提出・実習先からの評価			
	⑧	健康相談と保健指導(個別)								
	⑨	疾病異常者の救急処置と必要な看護								
	⑩	保健指導と保健学習								
	⑪	環境衛生の点検と管理								
	⑫	安全管理と安全指導								
	⑬	保健室登校者への支援と健康相談活動								
	⑭	日本スポーツ振興センターに関する事務処理								
	⑮	児童生徒の保健活動の指導について								
	⑯	諸帳簿、記録簿の記載、処理保管について								
成績評価	協力小学校、協力中学校に設けられた評価委員会の評価　（80％） 受講態度、提出物　（20％）									
参考文献等	テキスト: 新版・養護教諭執務の手引き　監修　植田誠治　石川県養護教育研究会編 けがの種類と応急手当　少年写真新聞社 参考図書: 新訂版・学校保健実務必携　学校保健・安全実務研究会　第一法規									
備考										
考	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)								

科目番号	242	授業科目	教育実習(保健)事前事後指導 (Guidance about before and after practice teacher (health) in School)				担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 教育実習に向けて基本的な心構えや必要な知識を備える。 実習生としてまた指導者としての立場を自覚する。							
	2. 到達目標 1　保険分野教育の目標や課題について学習する。 2　中学校教諭をめざす気持ちを明確にし、実習生としての立場を自覚する。 3　事前訪問や実習上の諸注意を守る。							
	3. 事前事後学習 学校における教育活動について調べ事前学習ノートを作成する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	教育実習の意義						
	②	教育実習の心得						
	③	教育実習の内容と方法						
	④	教材研究と学習指導案の作成、点検						
	⑤	教材研究と学習指導案の作成、点検						
	⑥	模擬授業による授業研究						
	⑦	模擬授業による授業研究						
	⑧	教育実習の報告と反省						
	⑨	総括						
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	実習レポートの提出状況　（80％） 受講態度　（20％）							
参考文献等	教　科　書　：　　中学校保健体育　学研 参考図書：　　中学校学習指導要領　保健体育編　文部科学省							
備考								
	オフィスアワー	木曜日　12:00～13:00(研究室)						

科目番号	243	授業科目	教育実習(保健) (Practice teacher in School (health))				担当者	満田　　タツ江
区分	開　講　学　期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備　　　　　考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	4	選択	中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 保健科(保健分野)教育を中心とした教育活動を実践する。 教育を志す者としての自覚と資質・能力向上をめざす。							
	2. 到達目標 1　これまでの学習(知識や指導法)をさらに具体的に理解する。 2　教員としての自覚の資質の向上をめざす。 3　保健分野の学習指導ができる。							
	3. 事前事後学習 学習指導案の作成と学級経営について学習する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 教員としての心構え、服務規律等							
	② 学校経営と教育計画							
	③ 生徒指導の概要と教育相談							
	④ 進路指導の概要と中学生の進路指導							
	⑤ 保健部(保健・安全)の概要と活動への参加							
	⑥ 学級担任と学級経営、学級指導							
	⑦ 学習指導案の作成と教材研究							
	⑧ 授業参観(1年～3年)							
	⑨ 授業実習と授業研究							
	⑩ 道徳指導の参観							
	⑪ 特別活動への参加							
	⑫ 総合的な学習の時間への参加							
	⑬ 体育・健康に関する指導							
	⑭ 特別支援教育への参加							
	⑮ 総括							
	⑯ 実習記録等の提出・実習校からの評価							
成績 評価	実習校の評価委員会による評価　(80%) 受講態度、提出物　(20%)							
参考 文 献 等	参考図書：中学校学習指導要領　総則編							

科目番号	244	授業科目	医療秘書実務実習(学外) (Practice medical secretary and medical office work in Hospital)				担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	実習	1	選択	医療秘書実務士必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 病院実習を通して、医療秘書の役割・業務を実践的に体得する。							
	2. 到達目標 1. 医療秘書・医療事務業務の基本を習得する。 2. コミュニケーターとしての役割・行動を深く理解し習得する。							
	3. 事前事後学習 実習事前指導を受け実習の目的・内容を十分理解する。日々の実習では実習前日は翌日の実習内容について関連図書、資料で予習する。実習についての毎日の記録を提出する。実習終了後、実習成果の発表を行う。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション						
	②	受付事務						
	③	診療報酬請求事務・医事業務						
	④	医局・看護部門での秘書業務						
	⑤	病歴管理						
	⑥	病棟クラーク						
	⑦	診療部門での医療サポーター						
	⑧	患者さんとのコミュニケーション						
	⑨	実習記録提出						
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	実習先からの評価 (80点) 受講態度 (20点) 総合して評価する。							
参考文献等	テキスト: 医療秘書実務 建帛社 医療事務演習 建帛社							
備考								
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	245	授業科目	医療事務演習Ⅱ (Medical coding exercizesⅡ)				担当者	胸元 孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	生活科学 生活科学	演習	1	選択	医療秘書実務士必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 医療秘書実務学外実習にむけて、実習に必要な基本的態度、知識などを学外見学などを通じて身につける。							
	2. 到達目標 1. 見学や講義を通して病院や医療事務の役割を知る。 2. 医療事務に必要な医療・医学知識を確認する。 3. 電子カルテやオーダーリングシステムを理解する。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容についてのレポート提出や参考図書及び関連資料で復習をする。次回の授業範囲を関連資料で予習する。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 臨床とは 病院について(病院の形態と組織)							
	② 医事部門と医療の電子化(オーダーリングシステム・電子カルテ)							
	③ 電子カルテ入力演習(1)							
	④ 電子カルテ入力演習(2)							
	⑤ 医療秘書実務演習資料・記録の配布と諸注意							
	⑥ 実習上の心得							
	⑦ 実習指導(1)							
	⑧ 実習指導(2)							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績評価	レポート (70点) 授業への参加態度(30点) 総合して評価する。						
参考文献等	テキスト: 医療秘書実務 建帛社 医療事務演習 建帛社							
備考	病院見学を行う。(7月の予定)							
考	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室: 408 但し、2名以上						

科目番号	246	授業科目	家族関係論 (Family Sociology)			担当者	倉重 加代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 家族と社会の関連を学習し、家族の理解を深める。						
	2. 到達目標 1. 家族を多目的に捉える視点を身につける。 2. 状況に応じた柔軟な思考ができるようになる。						
	3. 事前事後学習 事前学習…家族問題を取り上げたニュース・新聞記事等に目を通しておくこと。 事後指導…現代家族が直面している問題に対して、自分自身の考えをまとめること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 家族とは何か—アンケートからの考察						
	② 家族の特性・定義						
	③ 家族の類型						
	④ 家族の変動(1) 家族と全体社会の変動・家族変動の諸側面						
	⑤ 家族の変動(2) 産業化と戦後家族の変動						
	⑥ 家族の変動(3) 家族変動の行方						
	⑦ 家族周期と親子関係						
	⑧ 子どもの社会化と親子関係(1)						
	⑨ 子どもの社会化と親子関係(2)						
	⑩ 高齢期の親子関係(1)						
	⑪ 高齢期の親子関係(2)						
	⑫ 少子化と子育て支援(1) 少子化						
	⑬ 少子化と子育て支援(2) 子育て支援						
	⑭ 多様化する家族						
	⑮ 総括、質疑						
	⑯ レポート提出・筆記試験						
成績評価	筆記試験(50%) ※筆記試験は60分で実施、 レポート(40%) 受講態度(10%)						
参考文献等	使用テキスト: 木下謙治ほか編『新版 家族社会学—基礎と応用』九州大学出版会 2008年 参考文献 井上眞理子編『現代家族のアジェンダー—親子関係を考える』世界思想社 2004年 厚生労働省『子ども・子育て白書』ほか授業中に紹介 一部視聴覚教材(DVD)使用						
備考	単位互換対象科目						
	オフィスアワー	火曜日9・10限目(研究室)					

科目番号	247	授業科目	調理実習 (Practice of Cooking)				担当者	山崎 歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	実習	1	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 食生活を健康的に営むために必要な調理技術の基本を学び、献立立案ができることを目指す。							
	2. 到達目標 1. 調理の基本を習得する 2. 調理の基本をもとに実習を行う 3. 献立作成ができるようになる							
	3. 事前事後学習 事前配布資料を基に作り方をよく読み予習を行う。 事後にはレポートをまとめ提出する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 調理実習の心得と諸注意							
	② 器具の特徴と扱い方, 計量の方法, 味覚検査							
	③ 日本料理①							
	④ 日本料理②							
	⑤ 西洋料理①							
	⑥ 西洋料理②							
	⑦ 日常食の献立作成							
	⑧ 中国料理①							
	⑨ 中国料理②							
	⑩ 郷土料理							
	⑪ 正月料理							
	⑫ 日本料理③							
	⑬ レポート提出							
	⑭							
	⑮							
	成績 評価	実習レポート(40%) 課題レポート(40%) 受講態度(20%)						
参考 文 献 等	参考文献:食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント							
備 考								
	オフィスアワー	金曜日午後(研究室)						

科目番号	248	授業科目	住環境学 (Residential Environment)				担当者	古川 恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年 ・ 後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 住生活論の内容をふまえ、高齢者や障がい者の生活空間も含めて、身近な環境としての住宅内部空間から近隣地域あるいは都市に至るまでの住環境について理解し、とりわけ喫緊の課題の一つである防災について深く理解することを目標とする。							
	2. 到達目標 1. ‘環境’を広義、狭義から捉える視点を持つ。 2. 心身の健康と住環境との関係を理解する。 3. 地域コミュニティと住宅・施設での生活との関係性の理解							
	3. 事前事後学習 テキストと配布資料による予習復習を行う。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 住まいに必要な環境調整： 温熱環境・空気環境・光環境・音環境							
	② 住まいの設備							
	③ アレルギーやシックハウス現象をおこさない住まい							
	④ エコスクエア見学							
	⑤ 住まいの構造・材料－風土と構造・構法、環境調整材料等							
	⑥ 法と住宅－日常生活関連の建築基準法							
	⑦ 都市計画－用途地域、建築協定							
	⑧ 安心・安全の住まい、防災							
	⑨ 地域生活とコミュニティ 過疎・高齢化進展地域における高齢者の住環境							
	⑩ 地域生活とコミュニティ 高齢者住宅のあり方、生活施設							
	⑪ 県民交流センターでの研修－モデルハウス、福祉機器、福祉用具							
	⑫ 地球に優しいエコ住宅							
	⑬ 高齢化対応住宅リフォームとは							
	⑭ 自宅を見直す(防災の視点も含めて)							
	⑮ 個室の計画							
	成績評価	・レポート(90%)、受講態度(10%)による。						
参考文献等	・テキスト: 中根芳一編／私たちの住居学／理工学社/2006年 ・プリント資料配布							
備考	単位互換開放対象科目							
	オフィスアワー	水曜日を除く月～金曜日の16:10～17:30						

科目番号	249	授業科目	人類学 (Anthropology)			担当者	竹中 正巳
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 人類学は、「発達した文化を持つ生物種としての人類」を総合的に研究する学問であり、ヒトとは何かを科学的に偏りなく、理解することを目標としている。言い換えれば、人類の本質(他の生物種との共通性と異質性、人類の独自性・特質)、変異(集団や個体ごとの違い。ばらつき、およびその意味)、由来(起源と進化・変遷)を対象とし、それらを明らかにすることが人類学の目的である。						
	2. 到達目標 1 ヒトの生物学的位置づけの理解 2 人類600万年の歴史の理解 3 日本人の起源の理解						
	3. 事前事後学習 講義前・講義後に参考文献をよく読み込むこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① はじめに～人間とはなにか～						
	② ヒトの生物学的位置づけ						
	③ ヒトの生物学的位置づけ						
	④ ヒトの生物学的位置づけ						
	⑤ ヒトの生物学的位置づけ						
	⑥ 人類の600万年の歴史						
	⑦ 人類の600万年の歴史						
	⑧ 人類の600万年の歴史						
	⑨ モンゴロイドの拡散						
	⑩ モンゴロイドの拡散						
	⑪ 日本人の起源						
	⑫ 日本人の起源						
	⑬ 日本人の起源						
	⑭ 日本人の起源						
	⑮ 日本人の起源						
成績 評価	レポート (100点)						
参考 文 献 等	参考文献 : 「史話・日本の古代(第1巻)日本人はどこから来たかー日本文化の深層」植原和郎編 作品社 2003 : 「人間史をたどるー自然人類学入門ー」片山一道他 朝倉書店 1996 : 「日本人になった祖先たち」篠田謙一 NHK出版 2007 : 「アフリカで誕生した人類が日本人になるまで」溝口優司 ソフトバンククリエイティブ 2011 : 「骨考古学からみた蝦夷・隼人」瀧川渉編 同成社 2012						
備 考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50 (研究室)					

科目番号	250	授業科目	健康管理概論 (health and behavior)				担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免必修 第1種衛生管理者免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 健康の概念を理解し、健康の維持、疾病予防について学ぶ							
	2. 到達目標 1. 健康概念、疾病の疫学・予防について理解する。 2. 職場の健康管理について学ぶ。 3. 基本的な職業病について理解する。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする。次回の授業範囲をテキストで予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	健康問題の概観、生活習慣と健康						
	②	労働衛生管理とは						
	③	衛生管理の進め方①						
	④	衛生管理の進め方②						
	⑤	作業環境要素と職業性疾病①						
	⑥	作業環境要素と職業性疾病②						
	⑦	作業環境管理①						
	⑧	作業環境管理②						
	⑨	作業管理						
	⑩	健康管理①						
	⑪	健康管理②						
	⑫	心とからだの健康づくり						
	⑬	快適職場づくり						
	⑭	労働衛生教育						
	⑮	衛生管理の具体的な進め方						
	成績 評価	筆記試験 60%、 受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。						
テキスト:衛生管理・上 第一種用 中央労働災害防止協会								
備 考								
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	251	授業科目	公衆衛生学 (Public Health)				担当者	波多野 浩道
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	必修	養教免・中二種免(保健)必修 第一種衛生管理者免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人間の健康擁護のための学的体系とその実践を教授する。							
	2. 到達目標 1.集団概念に基づき健康に指向した体系として理解する 2.疫学・保健統計の基本を修得する 3.公衆衛生リテラシーを獲得する							
	3. 事前事後学習 テキスト(国民衛生の動向)の該当箇所を予め読んでおくこと							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 公衆衛生学概論1:ヒ素ミルク事件と丸山博、公衆衛生の定義							
	② 公衆衛生学概論2: 予防の概念と健康転換							
	③ 疫学1:Snow、記述疫学							
	④ 疫学2:分析疫学、介入疫学(高木兼寛の業績)							
	⑤ 保健統計1:国民衛生の動向より、人口静態、人口動態、生命表							
	⑥ 保健統計2:健康指標とヘルスケアシステム評価のための指標							
	⑦ 環境保健1:公害と生態学的環境論							
	⑧ 環境保健2:地球環境保健とリスクコミュニケーション							
	⑨ 母子保健・学校保健							
	⑩ 成人・老人保健							
	⑪ 産業保健、精神保健							
	⑫ 感染症対策と健康危機管理							
	⑬ 公衆衛生行政と健康づくり施策							
	⑭ 関心のあるテーマによるディベート							
	⑮ 医療制度(含介護制度)と制度改革							
	成績評価	レポート(40点)、筆記試験60分(60点)で評価する						
参考文献等	○ テキスト 国民衛生の動向（厚生省の指標臨時増刊2013年8月31日発行） ○ 使用視聴覚機器:液晶プロジェクター（含PC接続）、ビデオ							
備考								
	オフィスアワー	メールで対応 hatano@health.nop.kagoshima-u.ac.jp						

科目番号	252	授業科目	疾患看護学 (disease nursing)				担当者	胸元 孝夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 基本的な疾患の看護を学ぶ。							
	2. 到達目標 1. 基本的な疾患の病態を深く理解する。 2. 基本的な疾患に対する看護の役割を理解する。 3. 基本的な看護法を理解する。							
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする。次回の授業範囲を参考図書で予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	看護学とは						
	②	疾患の基礎						
	③	疾患に及ぼす看護学の影響						
	④	疾患と看護者のかかわり						
	⑤	疾患の概要						
	⑥	各 論	循環					
	⑦		呼吸					
	⑧		消化					
	⑨		内分泌					
	⑩		生殖・泌尿					
	⑪		骨・筋					
	⑫		神経					
	⑬		感覚					
	⑭		免疫					
	⑮	医学における看護学						
	成績 評価	筆記試験 60%、 受講態度(授業への参加態度、小テスト10点(授業の復習及び予習の確認)) 40% これらを総合して評価する。						
参考 文 献 等	養護教諭のための看護学 藤井寿美子他 大修館書店							
備 考								
	オフィスアワー	毎週木曜日 16:20 ～ 研究室：408 但し、2名以上						

科目番号	253	授業科目	道徳教育の研究 (A Study of Moral Education)				担当者	小柳 正司
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。							
	2. 到達目標 ①学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する。 ②「道徳の時間」の役割と意義について、理解する。 ③栄養教諭の立場から見た道徳指導の課題について、理解する。							
	3. 事前事後学習 講義前、講義後に参考文献をよく読み込むこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	導入						
	②	小学校の道徳授業のビデオを見る。						
	③	道徳授業の特色について、グループで話し合う。						
	④	道徳教育がどうおこなわれているか、資料に基づき現状を知る。						
	⑤	自分たちが受けてきた道徳教育についてグループで話し合い、道徳教育の課題を探る。						
	⑥	学校における道徳教育の仕組みを、学習指導要領に基づいて、理解する。						
	⑦	「道徳の時間」の意義について、実践例(ビデオ)を見ながら、グループで考察する。						
	⑧	道徳授業の展開の特色、特に「価値の内面化」について理解する。						
	⑨	読み物資料の読み込みと分析を試みる。						
	⑩	いのちの授業の実践をビデオで見る。						
	⑪	生命尊重の精神を育てるための学校の取組みについて理解する。						
	⑫	食育の課題について、ビデオを見ながらグループで話し合う。						
	⑬	養護教諭の職務と道徳教育との関係について、グループで話し合う。						
	⑭	小論文作成。						
⑮								
成績評価	グループ討議などの参加・貢献度 (50%) 小論文 (50%)							
参考文献等	参考文献:『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省) ビデオ							
備考	オフィスアワー							

科目番号	254	授業科目	特別活動の研究 (To-learn-by-doing-theory)				担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	1	選択	養教免必修 中二免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。本講義では、学習指導要領に常に依拠しながら、子どもの調和的な発達に特別活動がどのように関わり、どのように指導していくかを考える。							
	2. 到達目標 特別活動の全般的理解							
	3. 事前事後学習 既に実習が終了しているため現場の「特別活動」がどのような様子であったか本人なりにイメージしておくこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	特別活動とは？－その変遷、概略的内容						
	②	特別活動とは？－特別活動で望まれるもの						
	③	小中高学校学習指導要領の比較						
	④	学級活動について－その内容と事例研究						
	⑤	生徒会活動について－その内容と事例研究						
	⑥	学校行事について－具体的な学校行事とその事例研究						
	⑦	特別活動の新しい実践課題と具体策						
	⑧	総括						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。							
備考								
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時						

科目番号	255	授業科目	生徒指導 (Student Counseling)			担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	養教免・中二種免(保健)必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 生徒指導は、全生徒を対象にして一人ひとりのよりよき人格の発達を目指すとともに、学校生活がより充実したものになるようにするための教育活動です。本講義では、心の発達を視点にして、人格の発達や、社会的適応を促す指導、生徒の自己実現につながる支援についての理解を深めることを目標とします。						
	2. 到達目標 1.自己実現という概念を理解する 2.人格の発達と適応に関する基礎理論について理解する 3.教育活動に理論を統合させる						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / 生徒指導とは						
	② 生徒指導と教育課程						
	③ 生徒指導のための基礎理論						
	④ 問題行動と非行(社会的不適応について)						
	⑤ 不登校と生徒指導						
	⑥ いじめと生徒指導						
	⑦ 青年期の心身の不適応とその成り立ち						
	⑧ 青年期に多い心身の不適応 (心身症)						
	⑨ 青年期に多い心身の不適応 (摂食障害と鬱)						
	⑩ 青年期に多い心身の不適応 (神経症的行動)						
	⑪ 生徒指導と学校カウンセリング						
	⑫ 生徒理解の方法						
	⑬ 生徒指導と進路指導						
	⑭ 生徒指導と健康教育						
	⑮ 総括と質疑						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80点) 受講態度およびレポートの提出状況(20点)						
参考文献等	講義中、適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 (研究室)					

科目番号	256	授業科目	教職実践演習(養護教諭) (Senior Seminar for Yogo Teacher)				担当者	満田・竹中・胸元
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	養教免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 養護教諭としての資質能力のさらなる向上をめざす。学修の振り返りを行う中で目標達成のための課題を見出しその課題を解決し、実践力を高める。							
	2. 到達目標 1 履修カルテによる学修の振り返りを行う 2 教員としての責任感や使命感を自覚する 3 総合的な人間力・社会人力の向上をめざす							
	3. 事前事後学習 養護実習を振り返り養護教諭に求められる能力を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り						(竹 中)
	②	養護教諭の役割や職務内容に関するグループ討論						(満 田)
	③	ロールプレイングによる保健指導の理解						(満 田)
	④	管理職経験者による学校内及び地域の関係者との連携に関する講義						(竹 中)
	⑤	学校内及び地域の関係者との連携に関するグループ討論						(胸 元)
	⑥	(警察官による) 児童生徒の学外での安全管理・危機管理に関する講義						(胸 元)
	⑦	通学路・公園等の安全点検						(胸 元)
	⑧	ロールプレイングによる学外での児童生徒の行動理解						(竹 中)
	⑨	児童生徒理解に関するグループ討論、小中学校見学のための事前指導						(満 田)
	⑩	学校現場の見学と現場教員の講義 ①						(全 員)
	⑪	学校現場の見学と現場教員の講義 ②						(全 員)
	⑫	学校見学振り返り:児童生徒理解の重要性や教員の責任に関するグループ討論						(竹 中)
	⑬	模擬授業(保健指導) ① 保健指導力の点検						(満 田)
	⑭	模擬授業(保健指導) ② 保健指導力の点検						(満 田)
	⑮	授業の振り返り、自己点検・評価						(竹 中)
	⑯	総括						
成績 評価	受講態度 (50%)、 模擬授業指導案及びレポートの提出状況 (50%)							
参考 文 献 等	必要に応じてプリント・資料を適宜配布する 『小学校学習指導要領』文部科学省 『小学校保健学習の指導と評価』財団法人日本学校保健会							
備 考								
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50 (研究室)						

科目番号	257	授業科目	教職実践演習(中・保健) (Senior Seminar for Junior High School Teacher)				担当者	竹中・満田・胸元
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	演習	2	選択	中二種免(保健)必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 入学以来履修してきた授業、学外での研修、教育実習等を学生が有機的に関連づけているか、また、これらを通して学生が中学校保健科教諭として必要な資質能力を身につけているかを確認し、さらなる資質向上を目指すことを目的とする。							
	2. 到達目標 1 履修カルテによる学習の振り返りを行う。 2 教員としての責任感や使命感を自覚する。 3 総合的な人間力、社会人力の向上をめざす。							
	3. 事前事後学習 教育実習を振り返り、中学校教諭(保健)に求められる能力を確認する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 「履修カルテ」を用いた学修の振り返り						(竹 中)	
	② 中学校教諭の職務内容に関するグループ討論						(満 田)	
	③ 管理職経験者による教員としての責任や教職員及び地域の関係者との連携に関する講義						(竹 中)	
	④ 教員としての責任や教職員及び地域の関係者との連携に関するグループ討論						(胸 元)	
	⑤ 教職経験者による教科内容の指導力に関する講義						(満 田)	
	⑥ ロールプレイングによる教科内容の指導力の点検						(竹 中)	
	⑦ (警察官による)生徒の学外での安全管理・危機管理に関する講義						(胸 元)	
	⑧ 通学路・公園等の安全点検						(胸 元)	
	⑨ 学級経営に関するグループ討論および学校見学のための事前指導						(満 田)	
	⑩ 学校現場の見学と現場教員の講義 ①						(竹中・満田・胸元)	
	⑪ 学校現場の見学と現場教員の講義 ②						(竹中・満田・胸元)	
	⑫ 学校見学振り返り：生徒理解の重要性や教員の責任に関するグループ討論						(満 田)	
	⑬ 模擬授業 ① 教科内容の指導力の点検						(竹 中)	
	⑭ 模擬授業 ② 教科内容の指導力の点検						(竹 中)	
	⑮ 総括						(満 田)	
	⑯ レポート提出							
成績評価	受講態度 (50%)、 模擬授業指導案及びレポートの提出状況 (50%)							
参考文献等	参考文献：『中学校学習指導要領』、『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』文部科学省 『中学校保健体育』学研 その他、必要に応じて適宜紹介する							
備考								
	オフィスアワー	木曜日 12：00 ～ 12：50 (研究室)						

科目番号	258	授業科目	労働基準法 (Labor standards Act)				担当者	畑井 清隆
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	第一種衛生管理者免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 労働基準法および関連法令の内容ならびに法令一般の基本的事項を理解する。							
	2. 到達目標 1.労働基準法および関連法令の内容の理解 2.法令一般の基本的事項の理解							
	3. 事前事後学習 期末試験に向けてプリントの復習をしてください。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① ガイダンス、解雇制限、解雇予告、退職時の証明							
	② 就業規則							
	③ 平等原則、人格権・個人情報の保護							
	④ 労働契約の基本原則、労働契約の期間、労働条件の明示							
	⑤ 賃金							
	⑥ 労働時間							
	⑦ 休憩、休日・時間外労働							
	⑧ 変形労働時間制、フレックスタイム制							
	⑨ 裁量労働制、適用除外							
	⑩ 年次有給休暇							
	⑪ 年少者、女性(妊産婦等)							
	⑫ 懲戒							
	⑬ 災害補償、労災保険(1)							
	⑭ 労災保険(2)							
	⑮ 総括							
	⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	プリントを配布する。テキストは使用しない。							
備								
考	オフィスアワー	非常勤講師控室 月曜日・14時25分～14時40分						

科目番号	259	授業科目	労働安全衛生法 (Industrial Safety and Health Act)				担当者	畑井 清隆
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活科学	講義	2	選択	第一種衛生管理者免許必修		
授業の 目標 及び 内 容	1. 授業の目的 労働安全衛生法および関連法令の内容ならびに法令一般の基本的事項を理解する。							
	2. 到達目標 1.労働安全衛生法および関連法令の内容の理解 2.法令一般の基本的事項の理解							
	3. 事前事後学習 事前学習として、テキストに目を通しておいってください。 事後学習として、期末試験に向けてプリントの復習をしてください。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① ガイダンス、総則							
	② 労働災害防止計画、安全衛生管理体制(1)							
	③ 安全衛生管理体制(2)							
	④ 安全衛生管理体制(3)							
	⑤ 危険・健康障害防止措置(1)							
	⑥ 危険・健康障害防止措置(2)							
	⑦ 機械等に関する規制							
	⑧ 危険物・有害物に関する規制							
	⑨ 労働者の就業に当たっての措置							
	⑩ 健康の保持増進のための措置(1)							
	⑪ 健康の保持増進のための措置(2)							
	⑫ 快適な職場環境形成のための措置、免許等、安全衛生改善計画等							
	⑬ 監督等							
	⑭ 雑則、罰則							
	⑮ 総括							
	⑯ 筆記試験							
成績 評価	学期末試験の成績(100%) ※筆記試験は60分で実施							
参考 文 献 等	テキスト： 木村嘉勝『図解よくわかる労働安全衛生法(改訂2版)』労働調査会							
備 考								
	オフィスアワー	非常勤講師控室 月曜日・14時25分～14時40分						

専門科目

生活福祉専攻

生活福祉専攻の授業科目の履修について

生活福祉専攻で履修できる授業科目は、学科共通の「一般教養科目」と生活福祉専攻の「専門科目」の2種に大別できます。「専門科目」は、卒業履修単位科目と介護福祉士履修単位科目に分かれます。「一般教養科目」と「専門科目」は、卒業履修単位となり、別表第4の「一般教養科目」の最低修得単位数を満たしたうえで専門科目を含めて総計62単位を修得すれば、卒業できます。介護福祉士の国家資格をとるには、「専門科目」の介護福祉士履修単位数の欄の「必修」科目のすべての単位を修得しなければなりません。

●「一般教養科目」の履修について

一般教養科目では、皆さんに幅広い教養を身につけてもらうために30科目が用意してあります。これらの科目は、原則としてどれでも履修できます。しかしながら、1年間で開講されるすべての科目を履修することは不可能ですから、自分の興味や関心によって、科目を選んでください。ただし、次の2点については、十分に留意して科目を選択してください。

1. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の4つの科目群から、1科目連続(4単位)は、必ず履修すること。
2. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の1科目を含めて他の選択科目を加えて、最低で15単位、多くて16単位を目標とすること。
3. 介護福祉士国家資格を取得するためには、一般教養科目の★印の科目から3～4科目(8単位以上)を履修すること。

●「専門科目」の履修について

生活福祉専攻には、介護福祉士資格を取得するための必修科目と、本学独自の科目として選択科目が用意されています。これらの科目は、高齢者や障害者に関する医学・社会学・心理学・社会福祉・介護福祉の理論を理解しながら、健康管理、生活支援技術、社会活動や相談援助等の方法を学び、将来の介護のリーダーとなり得る人材を養成することを目標としています。また、時代の要請に応じた科目も用意してあります。専門科目の履修については、次の2点について、十分に留意して履修してください。

1. 介護福祉士国家資格との関連

介護福祉士国家資格を取得するには、一般教養科目15単位以上を修得した上で、専門科目の必修科目すべての単位修得が必要です。この中には2年間で10週間の学外での実習が含まれます。

2. 社会福祉主事任用資格との関連

社会福祉主事任用資格については、介護福祉士国家資格を取得することで、資格要件を充たすことができます。

3. レクリエーション・インストラクター資格との関連

レクリエーション・インストラクターの資格を取得するには、レクリエーション概論、レクリエーション活動援助法の単位を修得し、学外で行われる日本レクリエーション協会の主催する事業に2年間で3日間出席しなければなりません。したがって、次のことに留意してください。

- (1) 資格取得を希望する人は、レクリエーション概論を履修すること。
- (2) 3日間の学外事業については、必要の都度掲示しますので、その指示に従うこと。

科目番号	301	授業科目	社会と制度の理解 (study on social weltane)				担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 現代社会においては、日々の暮らしと社会福祉は切り離すことが出来ない。時代と社会の変化に対応して、社会福祉の制度も大きく変化してきている。介護福祉士として必要な社会に関する知識と福祉の諸制度の基礎的知識を身につける、サービス利用者に説明できる能力を身につける。							
	2. 到達目標 1 現代社会の変化と生活構造を理解する 2 介護保険制度と介護福祉士の役割を理解する 3 介護実践に係る権利擁護制度を理解する							
	3. 事前事後学習 テキストを読み返すこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 私たちの生活と福祉①							
	② 私たちの生活と福祉①							
	③ 私たちの生活と福祉①							
	④ 私たちの生活と福祉①							
	⑤ 介護保険制度の背景と目的							
	⑥ 介護保険制度の仕組み①							
	⑦ 介護保険制度の仕組み②							
	⑧ 介護保険制度の仕組み③							
	⑨ 介護保険制度の仕組み④							
	⑩ 介護保険制度の仕組み⑤							
	⑪ 障害者の自立支援と法制度①							
	⑫ 障害者の自立支援と法制度②							
	⑬ 障害者の自立支援と法制度③							
	⑭ 介護実践にかかわる諸制度①							
	⑮ 介護実践にかかわる諸制度②							
	成績 評価	筆記試験(80点) 60分のテスト、小テスト(20点) 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。						
テ キ ス ト：新・介護福祉士養成講座 社会の制度の理解 中央法規 その他の関連科目の「新・介護福祉士養成講座」のテキストを併用する。 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 そ の 他：社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。								
備 考								
	オフィスアワー	火・水曜日の午後						

科目番号	302	授業科目	レクリエーション概論 (Contemporary Issues on Recreation)			担当者	大村一光
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	1	選択	レクリエーション インストラクター資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法などを学ぶことで、レクリエーションインストラクターとしての基本的な理論と実践力を獲得し、職場や地域社会の活動に対して積極的に取り組んでいけるようにする						
	2. 到達目標 1. レクインストラクターの理解 2. 基本的手法の理解と獲得 3. 福祉への応用力を身につける						
	3. 事前事後学習 現場実習等での指導力の確認						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	21世紀の社会とこれからのレクリエーション運動					
	②	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史					
	③	レクリエーション支援の展開と方法					
	④	市町村レク協会の役割と経営					
	⑤	レクリエーション運動を支える組織とその役割					
	⑥	事業と安全					
	⑦	対象者に応じたレクリエーション支援					
	⑧	目的に応じたレクリエーション支援					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%) ※筆記試験は60分で実施					
参考文献等	レクリエーション支援の基礎、日本レクリエーション協会						
備考	単位互換解放対象科目						
	オフィスアワー	金曜日 10:30-12:00, 13:00-16:00					

科目番号	303	授業科目	介護の基本Ⅰ (Fundamentals of care Ⅰ)				担当者	加藤 玲子	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修				
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、介護福祉士を取り巻く状況や介護福祉士の役割と、機能を支えるしくみについて理解を深める								
	2. 到達目標 1. 自立に向けた介護の意味を理解する 2. 介護サービスと介護福祉士のはたらく場について学ぶ 3. 介護のはたらきと基本的視点を学ぶ								
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)								
授 業 計 画	4. 各回の授業内容								
	① 授業内容と進め方								
	② 介護の概念や定義、介護の見方・考え方の変化								
	③ 介護の原則(職業倫理)								
	④ さまざまな生活支援とその意義(生活文化と介護)								
	⑤ さまざまな生活支援とその意義(生活歴と介護)								
	⑥ 尊厳を支える介護(QOLの考え方)								
	⑦ 尊厳を支える介護(ノーマリゼーション)								
	⑧ 『生活支援』としての介護とは(QOL・自立支援・自己選択・自己決定)								
	⑨ 介護サービスと介護福祉士①								
	⑩ 介護サービスと介護福祉士②								
	⑪ 介護サービスと介護福祉士③								
	⑫ ICFの捉え方・介護におけるリハビリテーションの考え方								
	⑬ 「自立支援」を支える介護、「自立支援を支える」を支える介護								
	⑭ 障害のある人の自立支援 1								
	⑮ 障害のある人の自立支援 2								
成績 評価	学期末試験の成績・レポートに基づいて総合的に評価する。(100%) ※筆記試験は60分で実施								
参考 文 献 等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版) 社会福祉小六法 (ミネルヴァ書房) 中央法規出版編集部編集 介護福祉用語辞典 (中央法規出版) 国民衛生の動向								
備 考									
	オフィスアワー	加藤:火～木曜(8:30～17:30)							

科目番号	304	授業科目	介護の基本Ⅱ (Fundamentals of care Ⅱ)				担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美 小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、施設での生活や生活環境を観察することにより、介護を必要とする人の理解を深める。							
	2. 到達目標 1. 高齢者施設について理解する 2. 高齢者の暮らしについて理解する 3. 障がい者のくらしについて理解する							
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション、授業の内容と進め方、本科目の位置づけや意義、目的						(小城)
	②	施設見学についての事前指導、介護を必要とする人に接する時の心構え						(小城)
	③	施設見学(高齢者施設、障害者施設)						(加藤・小城)
	④	施設見学(高齢者施設、障害者施設)						(加藤・小城)
	⑤	施設見学についての事後指導						(小城)
	⑥	人間の多様性・複雑性の理解						(加藤)
	⑦	高齢者のくらしの理解の実際①高齢者の健康、生活のリズム、生活文化、家族、世帯構成の理解						(加藤)
	⑧	高齢者のくらしの理解の実際②住まいと環境、就労、仕事、社会、生計の理解						(加藤)
	⑨	高齢者のくらしの理解の実際③社会活動、余暇活動、レクリエーションとアクティビティーの理解						(加藤)
	⑩	障害のある人のくらしの理解①障害のある人の生活ニーズについて						(加藤)
	⑪	障害のある人のくらしの理解②生活環境の理解						(加藤)
	⑫	障害のある人のくらしの理解③社会における家族の機能についての理解						(加藤)
	⑬	介護を必要とする人の理解:地域の結びつき①介護分野における高齢者、家族、地域、社会の結びつきを学ぶ①						(加藤)
	⑭	介護を必要とする人の理解:地域の結びつき②介護分野における高齢者、家族、地域、社会の結びつきを学ぶ②						(加藤)
	⑮	高齢者・障害のある人のくらしを振り返る、介護福祉士と高齢者・障害のある人について						(加藤)
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は60分で実施 レポート(施設見学に必要な事前・事後指導関連)(20%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」・「介護の基本Ⅱ」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	加藤:火～木曜(8:30～17:30)						

科目番号	305	授業科目	生活支援技術A (Life support skills A)				担当者	西郷 ヨシ子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立、自己決定を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得することを目的とする。このために、本講義では「衣類・寝具の衛生管理」、「自立に向けた身支度の介護」、「自立に向けた移動の介護」、「自立に向けた食事の介護」を中心として必要な技術を習得し、介護現場で必要とされる実践能力を高める。							
	2. 到達目標 1.衣類・寝具の衛生管理について理解し、具体的援助を実践できる力を身につける。 2.自立に向けた身支度について、心身の状況に関するアセスメントを基に、具体的援助を実践できる力を身につける。 3.自立に向けた移動の介助について、心身の状況に関するアセスメントを基に、具体的援助を実践できる力を身につける。 4.自立に向けた食事の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に、具体的援助を実践できる力を身につける。							
	3. 事前事後学習 「介護技術の基礎」で学んでいることを復習すること。 実施した演習内容については繰り返し練習を行うこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 介護技術の基礎的理解。寝具の衛生管理、ベッドメイキングの目的							
	② 寝具の衛生管理①ベッドの操作方法、1人で行うベッドメイキング							
	③ 寝具の衛生管理②ベッドに人がいる場合のシーツ交換							
	④ 身支度の意義と目的、自立生活を支える身支度の介護							
	⑤ 生活習慣と身支度・目的・衣服の種類と選択・着脱介助							
	⑥ 利用者の状況に応じた身支度の介助・留意点							
	⑦ 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)							
	⑧ 運動・移動における介護の原則とボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位変換							
	⑨ 運動・移動の技法、ベッド上の移動(上方・下方移動、水平移動と対面法、水平移動と背面法)							
	⑩ 運動・移動の技法、移動に関するアセスメント、車椅子の基本構造、車椅子介助の留意点							
	⑪ 運動・移動の技法、車椅子介助、移動介助(段差・坂道・エレベーター・階段)							
	⑫ 車椅子での外出援助の技法、不整地、段差昇降、坂道(スロープ)、エレベーターの介助							
	⑬ 食事の意義と目的、食事に関するアセスメント(ICFの視点にもとづく)							
	⑭ 利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点、自立を支える食事の介助とは、食事前の準備体操							
	⑮ 利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点、誤嚥・窒息の防止、脱水の防止、自助具							
成績評価	実技試験・レポートにもとづいて総合的に評価(100%)する。筆記試験(60分)。							
参考文献等	「編集」介護福祉士養成講座生活支援技術Ⅱ							
備考								
考	オフィスアワー	非常勤講師控室 水曜日 8:50～12:05						

科目番号	306	授業科目	生活支援技術(住) (Life support skills (housing))				担当者	古川 恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年 ・ 前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 社会的視野を持ちながら、高齢者、障がい者の生活も含む人間生活の基盤としての住生活の意義を考え、理解し、さらに管理する能力を養うことと、防災に関する住まいまちづくりの視点も持つことを目標とする。							
	2. 到達目標 1.住宅、施設における居住環境整備の必要性の理解 2.生活行動と生活空間の関係の理解 3.高齢期の多様な住まいと介護保険の住宅改修の理解							
	3. 事前事後学習 テキストを読んで講義に臨み、講義内容の復習を行う。 2年次の生活支援技術Dに続く内容なので、十分に理解しておくこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 居住環境整備の視点と目標:住居の役割と機能ー住居の役割(シェルター、生活の伝承)							
	② 家族と住居(ライフサイクルと住居、生活時間と住行為、住要求)							
	③ 住居と地域における防災と日常(近隣との交流、まちづくり、バリアフリーの住環境)							
	④ 居住環境整備における問題点:ADLへの対応、バリアフリー、UD							
	⑤ 生活行動と生活空間:人体と空間との関係(モジュール、身体の変化と空間、起居様式)							
	⑥ 空間の配列とゾーニング、独立住宅の計画(室内環境計画、ライフスタイル等)							
	⑦ 集合住宅の計画、近隣との空間的なつながり							
	⑧ 快適な室内環境:空気環境の調節、光の調節、温湿度の調節、音の調整							
	⑨ 高齢期の多様な住まい:多様な住まいの種類、心身機能に対応した住まい							
	⑩ 住宅における居住環境整備:安全な住まい(関連法も含む)、防災							
	⑪ 住居の維持・管理、衛生管理、シックハウス対策							
	⑫ 住宅改修の進め方、介護保険下の住宅改修の内容、認知症対応							
	⑬ 施設における居住環境整備:従来の施設環境とユニット型特養の環境							
	⑭ 認知症高齢者への環境支援指針							
	⑮ ユニバーサル・デザインの広がり:基本的な考え方と今後							
	成績評価	・筆記試験(80%)・レポート(20%)の総合評価による。※筆記試験は、60分で実施						
参考文献等	テキスト: 川井太加子編／生活支援技術Ⅰ／メヂカルフレンド社/2008年 参考文献: 外山義／クリップの老人たちースウェーデンの高齢者ケア／ドメス出版 外山義／自宅でない在宅ー高齢者の生活空間論／医学書院／2003年 佐野真一／大往生の島／文藝春秋／1997年 ・パワーポイント、VHS、DVD使用							
備考	単位互換開放対象科目							
	オフィスアワー	水曜日を除く月～金曜日の16:10～17:30						

科目番号	307	授業科目	介護過程 I (Care process I)				担当者	加藤 玲子 小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。							
	2. 到達目標 1.介護過程とは何か理解することができる。 2.専門職として介護実践において介護過程の必要性を理解することができる。 3.ICFの視点にもとづく生活機能について説明できる。							
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①「介護過程」の展開を学ぶ前に						(小城)	
	②教育課程における「介護過程」の意義と法令で規定する「介護」の意味						(小城)	
	③問題解決過程の応用としての介護過程						(小城)	
	④日常生活で体験する問題解決過程						(小城)	
	⑤他者を援助する専門職にとっての課題						(小城)	
	⑥介護過程における「問題」という用語						(小城)	
	⑦ICFと介護過程との関係、実習着の準備						(加藤)	
	⑧介護過程とケアマネジメント(介護保険制度)との関係、オリエンテーション記録						(加藤)	
	⑨オリエンテーション記録について、毎日の実習記録						(加藤)	
	⑩毎日の実習記録						(加藤)	
	⑪カンファレンスについて、カンファレンス記録の仕方						(加藤)	
	⑫介護実習要項説明他、赤ファイル、個人票の作成						(小城)	
	⑬介護実習 I 配置計画について、事前訪問の意義・目的・電話のかけ方						(小城)	
	⑭事前訪問に必要な資料配布、実習記録の書き方(確認)						(小城)	
	⑮実習事前準備の確認(服装チェック等)、実習反省会について(日時やテーマ等)						(小城)	
成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規)							
備考								
	オフィスアワー	加藤:研究室 火～木(8:30～17:30)・小城:研究室 火～木(8:30～17:30)						

科目番号	308	授業科目	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ (General practice caringⅠ・Ⅱ)			担当者	加藤玲子・浜崎真美 小城百代・有馬恵子 池田喜代子・折田喜美子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする							
	2. 到達目標 ①介護実習に向けての心構えや予備知識、動機付け等の準備を行なうことができる。 ②実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる。 ③実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる							
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	介護総合演習の目的、実習の意義・目的・目標について					(浜崎)	
	②	介護実習の種類、実習前の学びと実習後の学びの活かし方、実習施設について					(浜崎)	
	③	事前学習の内容と方法、実習記録について					(小城)	
	④	実習の心得、実習期間終了時の注意、事前訪問について					(小城)	
	⑤	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(訪問介護)					(池田)	
	⑥	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(訪問介護)					(池田)	
	⑦	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(グループホーム)					(折田)	
	⑧	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について(グループホーム)					(折田)	
	⑨	実習反省会					(加藤・浜崎・小城)	
	⑩	働くことの意識、心構え					(有馬)	
	⑪	ワーカーに求められる資質及び能力					(有馬)	
	⑫	第一印象について					(有馬)	
	⑬	挨拶、話し方、言葉づかい、敬語について					(有馬)	
	⑭	介護実習Ⅰ－②においての情報交換					(加藤)	
	⑮	介護実習の目標について(介護実習Ⅱ)					(加藤)	
成績評価	加藤・浜崎・小城:筆記試験(40点) ※筆記試験は60分で実施 池田・折田:講義内容に関連したレポート提出(それぞれに20点ずつ) 有馬:レポート提出(20点)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社) 近喰晴子他「新生活教養-社会人としての基本マナー」(建帛社)							
備考	オフィスアワー	加藤:研究室火～木(8:30～17:30)・浜崎:研究室月～金(火曜は除く)(8:30～17:30) 小城:研究室火～木(8:30～17:30)・有馬:研究室火曜日(16:20～17:30)						

科目番号	309	授業科目	発達と老化の理解 (Understanding the Development and Aging)				担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義は、介護職が頻繁に関わる高齢者に対してより良い介護を提供するための基礎的知識として、「老化」に関する理解を深めます。まず「発達」に関する心理学的知見を学び、老化による心理や身体機能の変化といった基本的な知識を得ながら、人が「老化」に適応していくことを如何に支援していくかということについて理解を深めることを目標とします。							
	2. 到達目標 1.発達という概念を理解する 2.老化による心理・身体機能の変化の基本的理解を得る 3.高齢期の発達を支える援助について考えることができる							
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらい場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション / 発達とは何か							
	② 人間の成長と発達 ①（人間の発達段階と発達課題）							
	③ 人間の成長と発達 ②（発達と個人差）							
	④ 老年期の発達と成熟 ①（老化とは）							
	⑤ 老年期の発達と成熟 ②（老年期の発達課題：人格と尊厳）							
	⑥ 老年期の発達と成熟 ③（老年期の発達課題：老いの価値・喪失体験）							
	⑦ 老化が及ぼす心理的影響 ①（高齢者のこころの問題）							
	⑧ 老化が及ぼす心理的影響 ②（要介護による高齢者の心理）							
	⑨ 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響							
	⑩ 高齢者に多い症状や訴えについての理解							
	⑪ 高齢者に多い精神疾患とその留意点							
	⑫ 認知症高齢者についての基礎的理解①(アルツハイマー型認知症の心理について)							
	⑬ 認知症高齢者についての基礎的理解②(脳血管型認知症、ピック病の心理について)							
	⑭ 高齢者とのコミュニケーションの基礎(言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、傾聴)							
	⑮ 総括と質疑							
	⑯ 筆記試験							
成績 評価	以下のことによる総合評価 ①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)							
参考 文 献 等	テキスト： 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)「発達と老化の理解」 中央法規出版 その他、講義中に適宜紹介します。							
備								
考	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 （研究室）						

科目番号	310	授業科目	介護技術の基礎 (Mechanism of mind and body)				担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修				
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心身の状況に応じた介護について理解する学習とする。								
	2. 到達目標 1. 日常生活動作のころとからだのしくみについて理解する 2. ターミナルケアについて理解を深める								
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習								
授 業 計 画	4. 各回の授業内容								
	①	身支度に関連したころとからだのしくみ①						(加藤)	
	②	身支度に関連したころとからだのしくみ②						(加藤)	
	③	身支度に関連したころとからだのしくみ③						(加藤)	
	④	移動に関連したこことろからだのしくみ①						(加藤)	
	⑤	移動に関連したころとからだのしくみ②						(加藤)	
	⑥	移動に関連したころとからだのしくみ③						(加藤)	
	⑦	食事に関連したころとからだのしくみ①						(浜崎)	
	⑧	食事に関連したころとからだのしくみ②						(浜崎)	
	⑨	入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ①						(加藤)	
	⑩	入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ②						(加藤)	
	⑪	排泄に関連したころとからだのしくみ①						(浜崎)	
	⑫	排泄に関連したころとからだのしくみ②						(浜崎)	
	⑬	睡眠に関連したころとからだのしくみ						(浜崎)	
	⑭	死にゆく人のころとからだのしくみ①						(浜崎)	
	⑮	死にゆく人のころとからだのしくみ②						(浜崎)	
	成績評価	学期末試験の成績(90点) ※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(10点)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集 「ころとからだのしくみ」(中央法規出版)								
備考									
	オフィスアワー	加藤・浜崎:月～金曜(8:30～17:30)							

科目番号	311	授業科目	医療的ケア (Medical Care)			担当者	胸元孝夫
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する						
	2. 到達目標 1. 個人の尊厳、医の倫理、説明の同意の必要性について説明ができる。 2. 保健医療に関する制度、チーム医療、医療職と介護職との連携について説明できる。 3. 医療的ケアの安全な実施、清潔保持と感染予防、健康状態の把握について説明できる。						
	3. 事前事後学習 授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする。次回の授業範囲をテキストで予習する。授業開始時行われる毎回の小テストで理解度を確認する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション(医療的ケアの位置づけ等)						
	② 保健医療制度に関する制度、医行為に係る法律						
	③ チーム医療と介護職員との連携、医療の倫理						
	④ 個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちの理解						
	⑤ 感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法						
	⑥ 滅菌と消毒						
	⑦ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施①安全の喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性						
	⑧ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施②リスクマネジメントの考え方と枠組み						
	⑨ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施③ヒヤリハット、アクシデント報告						
	⑩ 救急蘇生						
	⑪ 救急蘇生						
	⑫ 身体・精神の健康(平常状態について						
	⑬ 健康状態を知る項目(バイタルサイン等)						
	⑭ 健康状態を知る項目(バイタルサイン等)						
	⑮ 急変状態について						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	筆記試験60% 受講状態(授業参加態度、小テスト 10点満点・授業及び復習の確認)40% 総合して評価する						
参考文献等	①医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規 ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規 ③介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに						
備考	※医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し、単位を修得した上でなければ演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。						
	オフィスアワー	408研究室 16:20～					

科目番号	312	授業科目	レクリエーション活動援助法Ⅰ (Recreational Activities Assistance ActⅠ)				担当者	福満 博隆
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	レクリエーション インストラクター資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 レクリエーション活動におけるスポーツの社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。具体的には、1. レクリエーション種目(ニュースポーツを中心に)の実技体験をとおして種目特性の理解と楽しさの体験を味わう。2. レクリエーション種目イベントの企画と運営実践をとおして活動領域(地域社会, 学校教育, 職場, 社会福祉分野等)を考慮した立案と活動援助者の役割分担およびグループワークについて学ぶ。							
	2. 到達目標 1. レクリエーション活動におけるスポーツの社会的意義や活動援助者としての役割について理解する。 2. レクリエーション種目(ニュースポーツを中心に)体験し、その特性と指導法について理解する。 3. レクリエーション種目のイベントを企画と運営方法について実践的に学び、他者との交流が深まることを理解するとともにコミュニケーション能力も高める。							
	3. 事前事後学習 事前学習としてレクリエーション活動におけるスポーツイベントの運営の準備をしっかりと授業に望む。 事後学習として自分と他の学生の企画と運営実践に対する評価をまとめる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション, レクリエーション活動援助法についての解説							
	② レクリエーション種目(ソフトバレー)の実技体験と指導法							
	③ レクリエーション種目(スポレック)の実技体験と指導法							
	④ レクリエーション種目(ユニホック)の実技体験と指導法							
	⑤ レクリエーション種目(ティーボール)の実技体験と指導法							
	⑥ レクリエーション種目(ペタンク)の実技体験と指導法							
	⑦ レクリエーション種目イベントの企画づくり							
	⑧ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践1							
	⑨ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践2							
	⑩ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践3							
	⑪ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践4							
	⑫ レクリエーション種目イベント(生涯スポーツ大会)の運営実践5							
	⑬ 企画と運営実践に対する振り返り							
	⑭ チャレンジ・ザ・ゲームの実技体験と指導法							
	⑮ 楽しい健康づくり体操の実技体験と指導法							
成績評価	受講態度50点満点 レクリエーション種目イベントの企画と運営実践に対する評価25点満点 企画・運営実践に対する振り返りレポートの評価25点満点							
参考文献等								
備考								
	オフィスアワー	月曜日14:25～15:00						

科目番号	313	授業科目	人間の尊厳と自立 (Dignity and Independence of man)				担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 『人間』の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養うことを目標とする。 このために、本講義では「人間の尊厳と自立」に焦点をあて、人間の尊厳の自立、介護における尊厳の保持・自立支援のあり方について理解を深める。							
	2. 到達目標 (1)人間の尊厳とは何か、人権宣言等を学び理解する。 (2)介護における尊厳の保持・自立支援の在り方を理解する。 (3)人間の尊厳を支える権利擁護制度を理解する。							
	3. 事前事後学習 新聞等を活用して介護福祉に係る「事件」等の情報を得ること。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 生命の誕生と人権 ①世界人現宣言、障害者の人権宣言							
	② 生命の誕生と人権 ②人権と社会福祉							
	③ 人間の尊厳とは何か (グループ討議を含む)							
	④ 身近な人権侵害と介護 (グループ討議を含む)							
	⑤ 自立・自律とは何か ①身体的・精神的・社会的自立、(グループ討議を含む)							
	⑥ 自立・自律とは何か ②依存的自立(重度障害者には、自立・自律はできないのか)							
	⑦ 介護における尊厳の保持 ①苦情解決制度と介護サービスに関する苦情の実態							
	⑧ 介護における尊厳の保持 ①介護サービスに関する苦情の実例 (グループ討議を含む)							
	⑨ 福祉施設等における人間の尊厳の保持とは							
	⑩ 権利擁護制度 ①地域福祉権利擁護事業							
	⑪ 権利擁護制度 ②成年後見制度							
	⑫ 自立・自律支援とは何か							
	⑬ 自立・自立を支える介護実践 (介護現場で働く人の実践を聞く)							
	⑭ まとめ 1(クループ討議を行い、個人レポートの準備をする)							
	⑮ まとめ 2(全体的なまとめ)							
成績評価	授業への参加態度(20点)、レポート及びテスト結果(80点)として総合的に評価する。							
参考文献等	テ キ ス ト : 「人間の理解」新・介護福祉士養成講座 (中央法規)							
備考								
考	オフィスアワー	火・水曜日の午後						

科目番号	314	授業科目	社会保障制度 (Social Security System)				担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業 の 目 標 及 び 内 容	1. 授業の目的 (1)わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。 (2)介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識 を習得する。							
	2. 到達目標 (1)社会保障の歴史と理念を理解する。 (2)所得保障制度と関連制度の理解する。 (3)医療、障害者支援制度の知識を身につけて理解する。							
	3. 事前事後学習 「医療保険証を使うことによって、どのような利益があるか。個人の体験を通して考えること。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	社会保障と社会福祉の歴史			①社会保障と社会福祉の相互関連			
	②	社会保障と社会福祉の歴史			②社会保障制度の概要			
	③	社会保障と社会福祉の歴史			③医療保障制度の歴史			
	④	社会保障と社会福祉の歴史			④医療保障制度の歴史			
	⑤	所得保障制度の概要			①公的年金制度の概要			
	⑥	所得保障制度の概要			②公的年金制度の概要と公的扶助制度			
	⑦	医療保障制度の概要			①医療保険制度の概要			
	⑧	医療保障制度の概要			②医療保険制度の概要と公的扶助制度等			
	⑨	障害者自立支援法制定の経過と障害者総合支援法						
	⑩	障害者自立支援法の概要			①障害者自立支援法の全体像			
	⑪	障害者自立支援法の概要			②総合的な自立支援システム			
	⑫	障害者総合支援法の概要			①総合支援法の概要			
	⑬	障害者総合支援法の概要			②総合支援法に基づくサービスの提供			
	⑭	障害者の自立支援と介護サービス						
	⑮	社会保障制度のまとめ						
成績 評価	レポート(30点)及びテスト結果(70点)で評価する。							
参考 文 献 等	テ キ ス ト : 「社会と制度の理解」新・介護福祉士養成講座 (中央法規) 参 考 図 書 : 2012社会保障入門(中央法規)							
備 考	オフィスアワー 火・水曜日の午後							

科目番号	315	授業科目	介護の基本Ⅲ (Fundamentals of care Ⅲ)				担当者	加藤 玲子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、介護従事者の倫理及び介護における安全やチームケア等について理解を深める							
	2. 到達目標 1. 高齢者や障害者の人権について理解を深める 2. 地域支援について学ぶ 3. 緊急対応時の援助を身につける							
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 利用者の人権と介護							
	② プライバシー保護							
	③ 高齢者の理解(機能低低下)							
	④ 高齢者の理解(認知症)							
	⑤ 障害者の理解							
	⑥ 障害者の理解(視覚障害者)							
	⑦ 障害者の理解(難病)							
	⑧ 自立支援							
	⑨ 在宅生活							
	⑩ 在宅での事故の特徴と対策							
	⑪ 受診援助、服薬、医療行為へのチームアプローチ							
	⑫ 施設内事故の特徴と対策							
	⑬ 緊急・事故時対応、救急対応の実際							
	⑭ 事故防止、安全対策、防火・防災対策							
	⑮ 災害時ネットワークや日々の見守り等							
	成績 評価	筆記試験(60分で実施)・受講態度・レポートに基づいて総合的に評価する。						
参考 文 献 等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅱ」(中央法規) 介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」(ミネルヴァ書房)							
備 考								
	オフィスアワー	加藤:火曜～金曜(8:30～17:30)						

科目番号	316	授業科目	コミュニケーション演習 (Studies on Communication)			担当者	久永 繁夫 宮里新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を演習を通して身につける。						
	2. 到達目標 1.利用者とのコミュニケーションの意義を理解する 2.介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解する 3.介護現場における様々なコミュニケーション方法を自ら考えることができる						
	3. 事前事後学習 ①～⑩(宮里担当回)では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に数名の学生を指名して質問に回答してもらいますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。 ⑪～⑮(久永担当回)では、介護実習記録に講義内容を活かすよう心がけて下さい。						
	4. 各回の授業内容						
授業計画	①	コミュニケーションとは何か(その意義と目的)					(宮 里)
	②	自己紹介を通しての自己知覚					(宮 里)
	③	介護現場(施設)でのコミュニケーションの実際					(宮 里)
	④	相談・面接を通じたコミュニケーション					(宮 里)
	⑤	障がい者に対するコミュニケーションのとり方①(脳性麻痺による言語障害)					(宮 里)
	⑥	障がい者に対するコミュニケーションのとり方②(知的障害・自閉症スペクトラム)					(宮 里)
	⑦	支援者間(チーム)のコミュニケーションの実際					(宮 里)
	⑧	施設での利用者の支援記録の実際					(宮 里)
	⑨	他職種間のコミュニケーション					(宮 里)
	⑩	利用者・介護職間のコミュニケーションの実際					(宮 里)
	⑪	記録の意義と記録の形式					(久 永)
	⑫	記録の実際とその活用					(久 永)
	⑬	会議の開き方(準備から進行・司会・会議録)					(久 永)
	⑭	記録の実際					(久 永)
	⑮	総括					(久 永)
成績評価	レポート(80点)、授業への参加態度(20点)に基づいて総合的に評価する。						
参考文献等	テキスト： 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)「コミュニケーション技術」 中央法規出版 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考							
	オフィスアワー	久永:火・水曜日の午後(久永研究室) 宮里:金曜日 10:35～12:05 (宮里研究室)					

科目番号	317	授業科目	生活支援技術B (Life support skills B)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備	考
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
	2. 到達目標 ①自立に向けた入浴・清潔保持の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に具体的援助を実践できる力を身につける。 ②自立に向けた身支度の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に具体的援助を実践できる力を身につける。 ③バイタルサインの意味を理解し、実際に測定することができる。						
	3. 事前事後学習 ・「介護技術の基礎」で学んだことを復習しておくこと。 ・実施した演習内容については繰り返し練習を行うこと。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)					(加藤)
	②	安全・的確な入浴介助の技法、演習前のグループワーク(役割分担)					(加藤)
	③	安全・的確な入浴介助時の移動に関する技法(ベッドからストレッチャー)					(加藤)
	④	安全・的確な入浴介助の技法①シャワー浴、②家庭浴槽・一般浴槽					(加藤)
	⑤	安全・的確な入浴介助の技法①シャワー浴、②家庭浴槽・一般浴槽					(加藤)
	⑥	安全・的確な入浴介助の技法③特殊浴槽					(加藤)
	⑦	安全・的確な入浴介助の技法③特殊浴槽					(加藤)
	⑧	安全・的確な入浴介助の技法(実施後の評価及び考察)					(加藤)
	⑨	生命徴候としての呼吸・体温・脈拍・血圧について					(浜崎)
	⑩	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法①整容(洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等)					(浜崎)
	⑪	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法②皮膚の清潔(軟膏塗布・湿布の貼布・点眼など)					(浜崎)
	⑫	安全・的確な入浴介助の技法①全身清拭・部分清拭					(浜崎)
	⑬	安全・的確な入浴介助の技法②陰部洗浄					(浜崎)
	⑭	安全・的確な入浴介助の技法③足浴・手浴					(浜崎)
	⑮	安全・的確な入浴介助の技法④洗髪					(浜崎)
⑯	筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80%) ※ 筆記試験は60分で実施 実技試験及びレポート(20%)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術 II」(中央法規)						
備考							
	オフィスアワー	加藤:火～木曜 8:30～17:30 浜崎:月曜～金曜(火曜日を除く)8:30～17:30					

科目番号	318	授業科目	介護過程Ⅱ (Care process Ⅱ)			担当者	加藤 玲子 小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年 ・ 後期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であるということを理解する。						
	2. 到達目標 ①介護過程の展開について説明できる。 ②根拠に基づいた介護を提供するための情報を収集できる。 ③情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出することができる。						
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 介護過程とは、介護実習Ⅰ－①においての情報交換、実習評価表個人指導						(加藤・小城)
	② 展開のプロセス ・介護実習Ⅰ－②具体的目標・方法						(小城)
	③ 展開の基本視点 ・実習記録について(オリエンテーション記録)						(小城)
	④ 生活支援の考え方と介護過程の必要性 ・実習記録について(カンファレンス記録)						(加藤)
	⑤ 介護実習記録について まとめ方(参考例)、1日分の記録を改めて書き直してみる						(加藤)
	⑥ 介護実習記録について まとめ方(個人指導)						(加藤・小城)
	⑦ 観察をして情報を得たこと(まとめ方) ・事前訪問について・事前訪問に必要な書類						(小城)
	⑧ 観察をして情報を得たこと(まとめ方)						(小城)
	⑨ 実習に関する確認 実習記録用紙確認						(小城)
	⑩ 実習反省会						(加藤・小城)
	⑪ アセスメントとは、フェイスシートについて						(小城)
	⑫ 情報収集について、アセスメント表(Ⅰ)について						(小城)
	⑬ 情報の解釈・関連づけ・統合化について、アセスメント表(Ⅱ)について、介護実習Ⅱ 目標・方法についての確認及び受け持ち利用者の希望についてまとめる						(小城)
	⑭ 情報の解釈・関連づけ・統合化について、アセスメント表(Ⅱ)について、事前訪問について						(小城)
⑮ 介護実習Ⅱ 事前準備及び確認(服装チェック・実習記録用紙)、実習反省会について(日時・テーマ等)						(小城)	
成績 評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施						
参考 文献 等	・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規)						
備 考							
	オフィスアワー	加藤:研究室火～木(8:30～17:30) 小城:研究室火～木(8:30～17:30)					

科目番号	319	授業科目	介護実習Ⅰ (Care practiceⅠ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	実習	3	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。						
	2. 到達目標 ① 多様な施設・事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活や介護職員の業務内容を見て学ぶことができる。 ② コミュニケーション、食事、清潔等の生活支援技術を用いて介護を行い、利用者の特性を知ることができる。 ③ 障害特性や利用者のニーズに応じた生活支援技術を用いて介護を行い、利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を知ることができる。						
	3. 事前事後学習 ・施設・事業所及び介護が必要となる人の理解に関連する科目で学んだことを復習すること。 ・実習までに学んだ生活支援技術・コミュニケーションについて、自己課題を見つけ、繰り返し練習を行うこと。 ・実習反省会へは積極的に参加すること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	方法					
	②	＜介護実習Ⅰ－①＞					
	③	① オリエンテーション(自己紹介、施設の概要、一日の流れ・週間予定・年間予定、感染防止に関すること、その他)を受ける。内容は、「オリエンテーション記録」に記入する。					
	④						
	⑤	② 各事業所での日課表に沿った業務の進め方や内容を把握し、指導者の助言のもとに利用者に必要な生活支援技術を用いながら介護を行い、利用者の特性を知る。					
	⑥						
	⑦	③ 記録について					
	⑧	・実習目標及び計画について、前日までに実習記録に記入する。					
	⑨	・当日の実習開始前に一日の目標と計画を実習指導者に報告し、助言を受ける。					
	⑩	・実際に行った実習内容及び評価・考察についてまとめ、「実習記録」に記入する。					
	⑪	＜介護実習Ⅰ－②＞					
	⑫	介護実習Ⅰ－①の①～③					
	⑬	④ 一人の利用者を決めてもらい、個々の生活リズムや個別ケアについて観察し、情報を得たことをまとめ、「観察をして情報を得たこと」に記入する。					
	⑭						
	⑮	⑤ 多職種協働・関係機関との連携の在り方について、事業所ごとに情報を収集したことをまとめ、「観察をして情報を得たこと」に記入する。					
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点) ※ 介護実習Ⅰ－①、介護実習Ⅰ－②を合わせて介護実習Ⅰの評価とする。						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
考	オフィスアワー	久永:火・木・金曜日8:30～17:30 加藤・小城:火～木曜日 8:30～17:30 浜崎:月～金曜日(火曜を除く)8:30～17:30					

科目番号	320	授業科目	介護実習Ⅱ (Care practice Ⅱ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	実習	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
	2. 到達目標 ① 施設の概要や役割を理解し、様々な利用者の生活像・障害像を理解できる。 ② 障害特性や利用者のニーズに応じた生活支援技術を用いて介護を行い、利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を知る。 ③ 利用者の特性と現状を把握することができる。						
	3. 事前事後学習 施設・事業所及び介護が必要となる人の理解に関連する科目で学んだことを復習すること。 ・介護過程Ⅰ及びⅡで学んだことを復習すること。 ・実習までに学んだ生活支援技術・コミュニケーションについて、自己課題を見つけ、繰り返し練習を行うこと。 ・実習反省会へは積極的に参加すること。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①						
	②	方法					
	③	① オリエンテーション(自己紹介、施設の概要、一日の流れ・週間予定・年間予定、感染防止に関すること、その他)を受ける。内容は、「オリエンテーション記録」に記入する。					
	④						
	⑤	② 施設での日課表に沿った業務の進め方や内容を把握し、指導者の助言のもとに利用者に必要な生活支援技術を用いながら介護を行い、利用者の特性を知る。					
	⑥						
	⑦	③ 記録について					
	⑧	・実習目標及び計画について、前日までに実習記録に記入する。					
	⑨	・当日の実習開始前に一日の目標と計画を実習指導者に報告し、助言を受ける。					
	⑩	・実際に行った実習内容及び評価・考察についてまとめ、「実習記録」に記入する。					
	⑪	④ 一人の利用者を決めてもらい、特性と現在の状況を把握する。					
	⑫	・利用者の特性を知る・・・「フェイスシート」					
	⑬	・利用者の状況を理解する・・・「アセスメント表(1)(2)」					
	⑭						
	⑮						
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
考	オフィスアワー	久永:火・木・金曜日8:30～17:30 加藤・小城:火～木曜日 8:30～17:30 浜崎:月～金曜日(火曜を除く)8:30～17:30					

科目番号	321	授業科目	高齢者の介護 (Care for the elderly)			担当者	西郷 ヨシ子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的知識を習得する。老化に伴う心理的・身体的変化と日常生活への影響を踏まえた上で、残存機能を活用し、気持ちに寄り添う介護ができるようになる。						
	2. 到達目標 1.老化に伴う身体的変化とその特徴を理解する。 2.老化に伴う心理的变化と日常生活への影響を理解する。 3.高齢者に多い疾病と介護の留意点を習得する。						
	3. 事前事後学習 1年前期で学んだ「発達と老化の理解」の内容を復習すること。 新聞などを活用し、高齢者介護に関する話題について調べること。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 老化に伴う心身の変化の特徴(心理的影響)						
	② 老化に伴う心身の変化の特徴(老いの価値観)						
	③ 老化に伴うこころの変化(投下の受け止め方・役割喪失など)						
	④ 老化に伴うこころの変化(心の問題と精神障害)						
	⑤ 老化に伴うこころの変化(要介護者の心理)						
	⑥ 外見上の変化と生活への影響						
	⑦ 身体機能の変化と生活への影響:免疫機能と感覚機能						
	⑧ 身体機能の変化と生活への影響:視覚機能の変化、高齢者に多い眼疾病						
	⑨ 身体機能の変化と生活への影響:聴覚機能、平衡機能の変化						
	⑩ 咀嚼機能・嚥下機能の変化、消化機能の理解						
	⑪ 呼吸器の機能の変化、高齢者に多い疾病の介護						
	⑫ 運動中枢神経・骨・関節の変化						
	⑬ 泌尿器・生殖機能の変化						
	⑭ 老化に伴う知的機能の変化						
	⑮ 保健医療との連携						
	⑯ 筆記試験(60分で実施)						
成績評価	筆記試験(70%) レポート(20%) 受講態度(10%)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「発達と老化の理解」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	非常勤講師控室 金曜日 10:35～12:05					

科目番号	322	授業科目	認知症の理解 (Understanding of Dementia)				担当者	植原 和代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 認知症のある人がその人らしさを発揮できるための介護の基礎的知識を習得する。また認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境についての介護の視点を習得する学習とする。							
	2. 到達目標 1 認知症の人の内的世界についての理解を深めることができる。 2 認知症の医学的知識について理解ができる。 3 周辺症状について理解を深めることができる。 4 認知症の人の介護について理解を深め、そのあり方を考えることができる。 5 認知症の人の家族支援について理解を深め、そのあり方を考えることができる。							
	3. 事前事後学習 授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 認知症の人の理解							
	② 認知症の原因別分類							
	③ 認知症の診断							
	④ 認知症の鑑別診断							
	⑤ 認知症と中核症状(記憶障害・認知機能障害)							
	⑥ 認知症の評価スケール							
	⑦ 主な認知症(アルツハイマー型・脳血管性・レビー小体型・前頭側頭葉型)の成因, 診断, 症状, 経過, 治療①							
	⑧ 主な認知症(アルツハイマー型・脳血管性・レビー小体型・前頭側頭葉型)の成因, 診断, 症状, 経過, 治療②							
	⑨ 周辺症状(BPSD)のメカニズム・原因・種類など							
	⑩ 周辺症状(BPSD)の対応①							
	⑪ 周辺症状(BPSD)の対応②							
	⑫ 認知症ケアの歴史の概観							
	⑬ 認知症の人および家族に対する支援							
	⑭ 認知症の地域連携システム							
	⑮ 認知症の予防について ・ 「総括」							
成績評価	学期末試験の成績(80%) *筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(10%)・受講態度(10%) *出席点を含む							
参考文献等	○テキスト……中村裕子. 認知症の理解と介護2013.12 メジカルフレンド社 ○参考文献…配布資料 ○パワーポイント プロジェクター							
備考	オフィスアワー							

科目番号	323	授業科目	障害の理解 I (Understanding of disabilities I)			担当者	堀田 哲一郎
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 サービス利用者の特性の一つである「障害」に応じた介護及びその支援体制に関する専門的な知識とその利用者の尊厳について理解を身につける。						
	2. 到達目標 1.障害者の尊厳についての理解を身につける。 2.視覚障害者、聴覚・言語障害、重複障害、肢体不自由、知的障害、精神障害、高次脳機能障害に応じた介護に関する専門的な知識を身につける。						
	3. 事前事後学習 各節冒頭の「関連項目」に提示されている別のテキストの内容も読んでおく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 障害の概念(1)						
	② 障害の概念(2)						
	③ 障害者福祉の基本理念(1)						
	④ 障害者福祉の基本理念(2)						
	⑤ 視覚障害のある人の生活						
	⑥ 聴覚・言語障害のある人の生活(1)						
	⑦ 聴覚・言語障害のある人の生活(2)						
	⑧ 重複障害のある人の生活						
	⑨ 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活(1)						
	⑩ 肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活(2)						
	⑪ 内部障害のある人の生活(1)						
	⑫ 内部障害のある人の生活(2)						
	⑬ 内部障害のある人の生活(3)						
	⑭ 知的障害のある人の生活(1)						
	⑮ 知的障害のある人の生活(2)						
成績評価	筆記試験(100点) ※60分で実施						
参考文献等	福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』中央法規 OHC、ブルーレイ、VHS使用						
備考							
	オフィスアワー	非常勤講師控室・授業時間終了後					

科目番号	324	授業科目	こころとからだのしくみⅠ(医学) (Mechanism of Mind and BodyⅠ -medical science-)				担当者	河野 史代 林 清人 中野 静雄
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 こころとからだのしくみや疾患について学び、サービス提供上の安全や尊厳の保持について理解する。							
	2. 到達目標 1 基本的なからだのしくみの理解 2 高齢者のこころとからだの状態の理解 3 サービス提供上重要な疾患について知る							
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	からだのしくみの理解(解剖生理学)						(中 野)
	②	からだのしくみの理解(解剖生理学)						(中 野)
	③	からだのしくみの理解(解剖生理学)						(中 野)
	④	生活習慣病・高脂血症・動脈硬化症のしくみの理解						(河 野)
	⑤	高血圧症のしくみの理解						(河 野)
	⑥	糖尿病のしくみの理解						(河 野)
	⑦	虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)心不全のしくみの理解						(河 野)
	⑧	脳血管疾患(脳出血・脳梗塞)のしくみの理解						(河 野)
	⑨	泌尿器・内分泌疾患のしくみの理解						(河 野)
	⑩	消化器疾患、肝疾患のしくみの理解						(河 野)
	⑪	呼吸器疾患のしくみの理解						(河 野)
	⑫	悪性新生物のしくみの理解						(河 野)
	⑬	高齢者と健康の理解						(河 野)
	⑭	口腔衛生のしくみの理解						(林)
	⑮	口腔衛生のしくみの理解						(林)
成績評価	筆記試験(100%)で行う。							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」(中央法規出版)							
備								
考	オフィスアワー							

科目番号	325	授業科目	経管栄養 (tube feeding)			担当者	浜崎眞美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する						
	2. 到達目標 1.消化器系に関する役割や機能について説明ができる。 2.経管栄養のしくみ、注入内容、実施上の留意点(子供も含む)について説明ができる。 3.経管栄養に関係する感染と予防、説明と同意の必要性、危険の種類やその防止策、急変時の対応について説明ができる。 4. 経管栄養で用いる器具とそのしくみや清潔保持、技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告及び記録について説明できる。						
	3. 事前事後学習 ・各回の内容について、次回までの間に復習をしておくこと。 ・授業中に実施する小テストの内容については、分かるまで調べること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 消化器系のしくみとはたらき						
	② 消化・吸収とよくある消化器の症状						
	③ 経管栄養とは						
	④ 注入する内容に関する知識						
	⑤ 経管栄養実施上の留意点						
	⑥ 子どもの経管栄養について						
	⑦ 経管栄養に関係する感染と予防						
	⑧ 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、経管栄養により生じる危険・注入後の安全確認						
	⑨ 急変・事故発生時の対応と事前対策						
	⑩ 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持、必要物品の準備・設置(環境設備を含む)と留意点						
	⑪ 経管栄養前の利用者の状態観察と留意点、経管栄養前の利用者の準備と留意点						
	⑫ 経管栄養実施手順と留意点、経管栄養実施中の利用者の身体変化の確認と医師・看護職員への報告						
	⑬ 経管栄養実施後の手順と留意点、利用者の身体変化の確認と医師・看護職員への報告、終了後の片付け方法と留意点						
	⑭ 経管栄養に必要なケア						
	⑮ 報告及び記録						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80%)※筆記試験は60分で実施 小テストの成績(20%) ※出席点を含む。						
参考文献等	①医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規 ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規 ③介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに						
備考	※医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し、単位を修得した上でなければ演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。						
	オフィスアワー	月曜～金曜(火曜を除く)8時30分～17時30分					

科目番号	326	授業科目	レクリエーション活動援助法Ⅱ (Recreational Activities Assistance Act Ⅱ)			担当者	福満 博隆
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	レクリエーション インストラクター資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 レクリエーション活動におけるコミュニケーションワークの社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。具体的には、1. コミュニケーション・ワーク(ゲーム、ダンス、ソング、野外活動)の実技体験を通して特性の理解と楽しさの体験を味わう。2.指導実践をとうして指導法と評価のについて学ぶ。						
	2. 到達目標 1. レクリエーション活動におけるコミュニケーションワークの社会的意義や活動援助者としての役割について理解する。 2. レクリエーション種目(ニュースポーツを中心に)体験し、その特性を理解する。 3. レクリエーション活動(ゲーム、ダンス、ソング、野外活動)における企画や援助法を実践的に学び、他者との交流が深まることを理解するとともにコミュニケーション能力も高める。						
	3. 事前事後学習 事前学習としてレクリエーション指導実践のためにしっかり練習をして授業に望む。 事後学習として自分と他の学生の指導実践に対する評価をまとめる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	オリエンテーション、野外活動についての解説					
	②	野外活動の実技体験・・・平成26年9月16日(火)～18日(木)(2泊3日)					
	③	〃					
	④	〃					
	⑤	〃					
	⑥	〃					
	⑦	〃					
	⑧	〃					
	⑨	ゲーム、ダンス、ソングの実技と指導法の体験					
	⑩	ゲーム、ダンス、ソングの指導練習					
	⑪	ゲーム、ダンス、ソングの指導実践と振り返り(評価)					
	⑫	〃					
	⑬	〃					
	⑭	〃					
	⑮	ゲーム、ダンス、ソングの指導実践と振り返り(評価)とまとめ					
成績 評価	受講態度50点満点 ゲーム、ダンス、ソングの指導実践に対する評価25点満点 野外活動及びゲーム、ダンス、ソングの実技と指導法に対する振り返りレポートの評価25点満点						
参 考 文 献 等							
備 考							
	オフィスアワー	月曜日12:05～12:55					

科目番号	327	授業科目	情報処理Ⅰ (Information processingⅠ)			担当者	瀬戸 博幸
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、自信をもって活用できる人を育てる。						
	2. 到達目標 1. ICTの基本的な技術を習得する。 2. インターネットを理解し、活用できるようになる。 3. コンピュータを生活の道具として、自信をもって活用できるようになる。						
	3. 事前事後学習 1. 身のまわりの情報機器に、常に関心を持つようにしておく。 2. 各時間に修得した内容を整理し、記録しておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① コンピュータの基本操作						
	② インターネットの歴史						
	③ 電子メール						
	④ ホームページを作ってみよう						
	⑤ ホームページに写真を載せよう						
	⑥ ホームページのレイアウトを整えよう						
	⑦ Wordを使うその1						
	⑧ Wordを使うその2						
	⑨ Wordを使うその3						
	⑩ Excelを使うその1						
	⑪ Excelを使うその2						
	⑫ WordとExcelの連携						
	⑬ PowerPoint						
	⑭ 最終レポート その1						
	⑮ 最終レポート その2						
成績評価	日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)による						
参考文献等	テキスト 実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 noa出版						
備考							
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(水曜日を除く)メールにて連絡すること。					

科目番号	328	授業科目	住環境と福祉 (Residential Environment and Welfare)				担当者	古川 恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年 ・ 前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 高齢者や障がい者の生活空間も含めて、住宅内部空間から近隣地域あるいは都市に至るまでの住環境について理解することを目標とする。 高齢者や障がい者にとって住み心地のよい住宅や、シルバーハウジング、グループホーム、サービス付高齢者向け住宅等の多様な生活空間のあり方、また、近隣コミュニティ・まちづくりの必要性への理解を目的とする。							
	2. 到達目標 1.住宅と建築基準法・都市計画法等の法律との関係の理解 2.室内環境調節を理解する 3.介護予防に配慮した住宅、住宅改修の実例から学ぶ							
	3. 事前事後学習 配布資料による予習、復習を行う。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 用途地域、建ぺい率・容積率、斜線制限について							
	② 集団規定と単体規定							
	③ 住宅構造・材料							
	④ 木造住宅の構造・名称							
	⑤ 室内環境の調節:採光・照明・温熱							
	⑥ 〃 :通風・換気・遮音・吸音							
	⑦ インテリア:建具、仕上げ、色彩、テクスチャー							
	⑧ 福祉住環境コーディネーター試験問題から住宅改修のポイント理解－1							
	⑨ 福祉住環境コーディネーター試験問題から住宅改修のポイント理解－2							
	⑩ 介護保険における住宅改修の範囲							
	⑪ 住宅改修の事例紹介－パワーポイントで実例紹介、VHS視聴							
	⑫ 介護予防に配慮した住宅の事例							
	⑬ 福祉施設の事例から計画主旨の理解							
	⑭ } 県民交流センターでの研修－モデルハウス、福祉機器、福祉用具							
⑮ }								
成績評価	筆記試験(50%) ※60分、レポート(50%)の総合評価。							
参考文献等	・テキスト:福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト／東京商工会議所編 ・パワーポイント、DVD使用							
備考	単位互換開放対象科目							
考	オフィスアワー	水曜日を除く月～金曜日の16:10～17:30						

科目番号	329	授業科目	社会福祉援助技術 (Social work skill)			担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	ピアヘルパー受験資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「社会保障制度」や「高齢者福祉論」等で学ぶ社会福祉制度とその関連施策は、生活障害をもつ人のニーズと結びついて、そのニーズを充足することで目的を達成することになる。この過程が社会福祉実践であり、実践過程で用いられる技術が社会福祉援助技術である。介護福祉の実践に必要な相談援助技術と知識を身につけ実践することができる。						
	2. 到達目標 (1) 相談援助技術の歴史的展開を理解する (2) 社会福祉援助技術の原則を理解し、実践できる (3) 個別援助技術・集団援助技術の基本原則を理解する						
	3. 事前事後学習 講義開始後に資料を配布するので各種の辞典類で事前学習をすること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 社会福祉援助技術の歴史的展開（個別援助技術）						
	② 社会福祉援助技術の歴史的展開（集団援助技術）						
	③ 社会福祉援助技術の原則						
	④ 社会福祉援助技術の機能と介護福祉士役割						
	⑤ 個別援助技術（個別援助技術の原則）						
	⑥ 個別援助技術（個別援助技術の過程）						
	⑦ 個別援助技術（個別援助技術の過程）						
	⑧ 集団援助技術（集団援助技術の原則）						
	⑨ 集団援助技術（集団援助技術の過程）						
	⑩ 集団援助技術（集団援助技術の過程）						
	⑪ 介護相談の事例						
	⑫ 介護相談の事例						
	⑬ スーパービジョンの意義と方法						
	⑭ スーパービジョンの意義と方法						
	⑮ 総括						
	成績評価	筆記試験					
参考文献等	テ キ ス ト：資料を作成して配布する。参考図書の紹介を行う。 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 介護用語辞典(中央法規出版編集部編) そ の 他：適宜視聴教育資材を使用する。						
備考	オフィスアワー 火・水曜日の午後						

科目番号	330	授業科目	リハビリテーション論 (Introduction of rehabilitation)			担当者	東 里美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 リハビリテーションの理念、障害の構造・分類、更に発達と老化の観点を通して予防医学を含めたリハビリテーションの重要性を考える。特に加齢と障害、生活に関する理解を図り「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることを学習する。						
	2. 到達目標 1.身体機能の基本要素や老化、疾病、障害を学習する。 2.障害が生活に及ぼす影響を考察する。						
	3. 事前事後学習 前授業内容の確認を次授業の開始時に小テストとして行うため、復習を行うこと。また関連分野における興味について明確にして講義にでる事が望ましい。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① リハビリテーション総論 リハビリテーションの歴史、理念と障害の概念など						
	② チームワークとしてのリハビリテーション、医学的リハビリテーションの流れ、共通言語の説明						
	③ 小テスト、理学療法学に関する講義、基本動作と姿勢、運動障害						
	④ 主な疾病の障害、廃用症候群						
	⑤ 小テスト、リスク管理						
	⑥ 実技						
	⑦ 小テスト、作業療法学に関する講義、日常生活動作(動作分析含む)						
	⑧ 高次脳機能障害、認知症						
	⑨ 小テスト、福祉用具・自助具、実技						
	⑩ 言語聴覚学に関する講義、言語発達学、失語症						
	⑪ 構音障害、摂食・嚥下のメカニズム						
	⑫ 小テスト、授業内容の復習						
	⑬ 介護予防、リハビリテーション専門職との連携						
	⑭ 総括①						
	⑮ 総括②						
成績評価	受講態度 小テスト(10分) 筆記試験(60分で実施) 課題レポート						
	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本I」(中央法規) 配布資料にて進める						
備考							
	オフィスアワー						

科目番号	331	授業科目	コミュニケーションの基礎 (Fundamentals of Communication)			担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義では、言語コミュニケーションや非言語コミュニケーションといった一般的なコミュニケーションの基礎的知識を学びます。また、介護の現場におけるコミュニケーションについて、知識・技術・態度などを理解し、その技法を習得することを目標にします。						
	2. 到達目標 1.コミュニケーションという概念について理解する 2.自分のコミュニケーションパターンを認識し他者視点で分析できる 3.他者の特性に応じたコミュニケーションを考えることができる						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / コミュニケーションとは何か						
	② リレーションづくりについて						
	③ 自己開示について						
	④ 言語的コミュニケーションの技法①(受容、繰り返し、明確化)						
	⑤ 言語的コミュニケーションの技法②(支持、質問)						
	⑥ 非言語的コミュニケーションの技法①(視線、表情、ジェスチャー、身体接触、服装の与える影響)						
	⑦ 非言語的コミュニケーションの技法②(すわり方、歩き方、ことば遣い、挨拶の与える影響)						
	⑧ コミュニケーション上の諸問題への対処(私的感情、抵抗、沈黙について)						
	⑨ 介護における生活支援とコミュニケーション						
	⑩ 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション						
	⑪ 利用者の特性に応じたコミュニケーション①(コミュニケーション障害の理解)						
	⑫ 利用者の特性に応じたコミュニケーション②(コミュニケーション障害のある利用者への対応)						
	⑬ 利用者の特性に応じたコミュニケーション③(高次脳機能障害、失語症、構音障害)						
	⑭ 利用者の特性に応じたコミュニケーション④(認知症、視力障害、聴力障害、言語障害)						
	⑮ 総括と質疑						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 受講態度およびレポートの提出状況(20点)						
参考文献等	テキスト： 新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ピアヘルパーハンドブック 日本教育カウンセラー協会編 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
考	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 (研究室)					

科目番号	332	授業科目	生活支援技術C (Life support skills C)			担当者	加藤 玲子 浜崎 眞美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備	考
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
	2. 到達目標 ①自立に向けた排泄の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に具体的援助を実践できる力を身につける。 ② 自立に向けた移動の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に具体的援助を実践できる力を身につける。						
	3. 事前事後学習 ・「介護技術の基礎」で学んだことを復習しておくこと。 ・実施した演習内容については繰り返し練習を行うこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ)					(加藤)
	②	安全・的確な排泄の介助の技法(ポータブルトイレ)					(加藤)
	③	利用者の状態・状況に応じたトイレ介助の留意点(感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している人)					(加藤)
	④	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点(失禁時の介護の留意点)					(加藤)
	⑤	安全で的確な移動・移乗の介助の技法①歩行の介助の技法②歩行補助具・装具と自立支援					(加藤)
	⑥	安全で的確な移動・移乗の介助の技法③ベッドから車いすへの移乗(一部介助)					(加藤)
	⑦	安全で的確な移動・移乗の介助の技法③ベッドから車いすへの移乗(全介助)					(加藤)
	⑧	安全で気兼ねなく動けることを支える介護(外出の環境づくり、社会参加、余暇活動、レクリエーション、その他)					(加藤)
	⑨	排泄の意義・目的、排泄に関する利用者のアセスメント(ICFの視点にもとづく)					(浜崎)
	⑩	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ)					(浜崎)
	⑪	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ)					(浜崎)
	⑫	安全・的確な排泄の介助の技法(尿器・差し込み便器)					(浜崎)
	⑬	安全・的確な排泄の介助の技法(尿器・差し込み便器)					(浜崎)
	⑭	安全・的確な排泄の介助の技法(おむつ・尿器・差し込み便器での介助:実技試験					(浜崎)
	⑮	利用者の状態・状況に応じた排泄の介護について(頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁へのアセスメント及び対応、その他の排泄に関する様々な介助について)					(浜崎)
		⑯ 筆記試験					
成績 評価	学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は60分で実施 実技試験及びレポート(20%)						
参考 文献 等	・介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術 II」(中央法規)						
備 考							
	オフィスアワー	加藤:火曜～木曜 8:30～17:30 浜崎:月曜～金曜(火曜は除く) 8:30～17:30					

科目番号	333	授業科目	生活支援技術D（住環境含む） (Life support skills D)			担当者	古川 恵子 浜崎 眞美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備	考
	2年・前後期	生活科学 生活福祉	演習	1	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
	2. 到達目標 ① 住宅、施設における住環境整備の必要性を理解する。 ② 住宅改修と建築分野との連携の重要性を理解する。 ③ 超高齢社会における居住環境へのニーズと居住施策を理解する。 ④ 自立に向けた睡眠の介護について、心身の状況に関するアセスメントを基に、具体的援助を実践できる力を身につける。 ⑤ 終末期における心身の状況をアセスメントし、状況に応じた具体的援助を実践できる力を身につける。						
	3. 事前事後学習 ・生活支援技術(住)で学んだ内容について復習をすること。 ・「介護技術の基礎」で学んだことを復習しておくこと。 ・実施した演習内容については繰り返し練習を行うこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	生活空間と寸法の関係の理解 その1 ー介護実習の記録を事例として					(古川)
	②	生活空間と寸法の関係の理解 その2 ー学内寸法測定、改修演習					(古川)
	③	超高齢社会における居住環境へのニーズと対応を改修事例から学ぶ(DVD、改修事例)					(古川)
	④	住宅改修と建築分野との連携 ー住生活と空間計画の関連性					(古川)
	⑤	高齢者の居住状況と居住施策					(古川)
	⑥	過疎・高齢地域の高齢者の生活実態(鹿児島県ka町、ki町の実態調査から)					(古川)
	⑦	高齢者の住み慣れた地域での居住の継続					(古川)
	⑧	超高齢社会の抱える課題					(古川)
	⑨	睡眠の意義・目的、睡眠に関する利用者のアセスメント(ICFの視点に基づく)					(浜崎)
	⑩	安眠のための介護、安眠を促す介助の技法(ベッドメイキング)					(浜崎)
	⑪	ベッドメイキング(実技試験)					(浜崎)
	⑫	利用者の状態・状況に応じた介助(感覚・運動・認知・知覚機能が低下している人)、不眠時の対応、他職種協働					(浜崎)
	⑬	終末期における介護の意義、目的、尊厳の保持					(浜崎)
	⑭	終末期における利用者のアセスメント、医療との連携、看取りのための制度					(浜崎)
	⑮	臨終期の介護、グリーフケア、死後のケア					(浜崎)
	⑯	筆記試験					(浜崎)
成績 評価	古川:学期末試験の成績25点(筆記試験は60分で実施)、提出物25点で総合的に評価する。 浜崎:学期末試験の成績45点(筆記試験は60分で実施)、実技試験5点にて総合的に評価する。						
参考 文献 等	児玉桂子他編、高齢者が自立できる住まい作り、彰国社、2003年 児玉桂子編、超高齢社会の福祉住環境、中央法規、2008年 介護福祉士養成講座編集委員会編集、「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」 「生活支援技術Ⅲ」、(中央法規)						
備考	オフィスアワー 古川:月曜～金曜(水曜は除く)16:10～17:30 浜崎:月曜～金曜(火曜は除く) 8:30～17:30						

科目番号	334	授業科目	生活支援技術（食・衣含む） (Livelihood Support Skills Including food and clothing)				担当者	萩原恵子 鶴東章子	
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考			
	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	必修				
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 尊厳の保持の観点から、どのような状態であつてもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。								
	2. 到達目標 (食) 「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得するとともに調理技術を身につけ利用者に対応できる能力 (衣) (1)衣服のもつ多様な機能を理解し、それに応じた被服選択ができる (2)被服の管理に必要な知識・技能を身につける								
	3. 事前事後学習 (食) 適切で生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得する。学習した知識・技能を生かした具体的な食事サービスが提供できる実践を身につける。 (衣) (1)毎回の講義前に実施する小テストに向けての学習 (2)実験・実習のレポート作成 (3)裁縫作品の制作								
授業計画	4. 各回の授業内容								
	①	食事の意義・調理学と栄養						(萩原)	
	②	調理操作基本・理論と実習						(萩原)	
	③	自立に向けた介護食 おいしく食べることを支える食事						(萩原)	
	④	ひとり暮らしに便利な調理法・災害時の支援食						(萩原)	
	⑤	治療食・生活習慣病への配慮						(萩原)	
	⑥	安全で的確な介護食(食中毒)						(萩原)	
	⑦	口腔支援・水分管理						(萩原)	
	⑧	認知症(グループホーム)者への留意点						(萩原)	
	⑨	ありあわせの食材を用いての調理実習						(萩原)	
	⑩	利用者の観察(評価票を用いて)						(萩原)	
	⑪	被服生活の基礎知識(被服の機能、素材の性能、安全性)						(鶴東)	
	⑫	被服生活における感覚・運動機能が低下している人の留意点、衣類・寝具の衛生管理						(鶴東)	
	⑬	家事の介助の技法(被服の種類・素材別の洗濯方法・しみ抜き)						(鶴東)	
	⑭	裁縫(衣類の補修)						(鶴東)	
	⑮	裁縫(ミシンの操作方法と作品製作)						(鶴東)	
成績評価	(食)レポート(30%)、調理実習(40%)筆記試験等(25%)、受講態度(10%)で総合評価する。 (衣)レポート・作品・小テスト4回実施(70%)、受講態度(30%)								
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術I」(中央法規出版) 中川英子編著 「介護福祉のための家政学実習」(建帛社) 村山篤子・鎌田浩子編 「新版 家政学実習」(建帛社) 資料による手作りのプリント集								
備考	オフィスアワー (衣)西館107号室 金曜日12:55～16:10								

科目番号	335	授業科目	介護過程Ⅲ (Care process Ⅲ)			担当者	加藤 玲子 小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年 ・ 前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。そのために利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決するのに必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。						
	2. 到達目標 ①介護サービス計画と個別援助計画の関係を理解し、説明することができる。 ②介護計画を立案する目的を理解し、立案する手順とまとめ方を習得できる。 ③利用者の力を活用した介護計画を立案できる。						
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 授業計画について、介護過程の全体像(復習)、アセスメントとは(復習)						(小城)
	② 情報収集とは、情報収集の方法や留意点(復習)						(小城)
	③ 情報の解釈・関連づけ・統合化について(復習)						(小城)
	④ アセスメントについて(介護実習Ⅱの事例を用いて整理する)						(小城)
	⑤ アセスメントについて(個人指導)						(加藤・小城)
	⑥ アセスメントについて(個人指導)						(加藤・小城)
	⑦ アセスメントについて(個人指導)						(加藤・小城)
	⑧ 課題の明確化とは						(小城)
	⑨ 明確にした課題について(個人指導)						(加藤・小城)
	⑩ 計画の立案について(個別援助計画とは)						(小城)
	⑪ 計画の立案について(目標の設定など)						(小城)
	⑫ 計画の立案について(支援内容・方法の決定など)						(小城)
	⑬ 計画の立案について(個人指導)						(加藤・小城)
	⑭ 計画の立案について(個人指導)						(加藤・小城)
	⑮ 介護実習Ⅲでの事例を基に介護過程の展開について振り返りを行う						(加藤)
成績 評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施						
参考 文 献 等	・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規)						
備 考							
	オフィスアワー	加藤:研究室火～木(8:30～17:30)・小城:研究室火～木(8:30～17:30)					

科目番号	336	授業科目	介護総合演習Ⅲ (General practice caring Ⅲ)			担当者	加藤 玲子・浜崎 眞美 小城 百代・松園 タミ子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年 ・ 前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。						
	2. 到達目標 ①介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備を行なうことができる。 ②実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる。 ③実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる。						
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 講義内容説明、プロセスレコード①(目的・内容・分析について)						(浜崎)
	② プロセスレコード②(個人指導)						(加藤・浜崎・小城)
	③ プロセスレコード③(個人指導)						(加藤・浜崎・小城)
	④ 施設における介護の理解と実習の心得・進め方について						(小城)
	⑤ 介護実習Ⅲの目標・方法について、実習前検査の説明						(小城)
	⑥ 実習先の概要(介護老人保健施設)、実習の心得と進め方について						(松園)
	⑦ 実習先の概要(小規模多機能型居宅介護・通所介護)						(松園)
	⑧ 福祉用具について(福祉機器展示相談センターへ見学)						(加藤・浜崎・小城)
	⑨ 福祉用具について(福祉機器展示相談センターへ見学)						(加藤・浜崎・小城)
	⑩ 介護実習Ⅲの目標・方法の確認、受け持ち利用者について						(浜崎)
	⑪ 介護実習Ⅲの目標・方法の確認、事前訪問について						(浜崎)
	⑫ 介護実習Ⅲについて(自己の実習計画を立てる)						(浜崎)
	⑬ 実習記録用紙など配布、実習反省会について(日時・テーマ等)						(小城)
	⑭ 実習反省会						(加藤・浜崎・小城)
	⑮ 介護実習Ⅲの振り返り						(加藤)
成績評価	加藤・浜崎・小城:レポート(介護過程の展開:アセスメント～介護計画の立案等)(80点) 松園:講義内容に関連したレポート提出(20点)						
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社)						
備考	オフィスアワー	加藤:研究室火～木(8:30～17:30)・浜崎:研究室月～金(8:30～17:30)(火曜日を除く) 小城:研究室火～木(8:30～17:30)					

科目番号	337	授業科目	事例研究(ゼミナール) (Case Study)				担当者	久永繁夫・古川恵子 宮里新之介・加藤玲子・浜崎眞美	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 介護福祉士の実践をより科学的に高め、事例研究方法の知識と技術を習得する								
	2. 到達目標 1. 事例研究の目的について理解する 2. 事例研究の書き方、研究テーマの設定法などを理解する 3. 事例研究を作成できる								
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習								
授業計画	4. 各回の授業内容								
	①	事例研究に取り組む意義・目的・方法について、テーマの希望調査						(浜 崎)	
	②	テーマの希望調査結果について、研究計画書作成について						(浜 崎)	
	③	研究計画書作成について						(加 藤)	
	④	論文の書き方について						(加 藤)	
	⑤	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑥	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑦	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑧	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑨	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑩	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑪	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑫	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑬	事例研究のまとめ						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑭	研究発表会						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
	⑮	研究発表会						(久永・古川・宮里・加藤・浜崎)	
成績評価	事例研究のまとめ及び発表(100点)								
参考文献等	和田 要、大嶋美登子、江原勝幸 ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き(日総研)								
備考									
	オフィスアワー	久永・古川・宮里・加藤・浜崎:随時(研究室)							

科目番号	338	授業科目	介護実習Ⅲ (Care practice Ⅲ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	実習	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
	2. 到達目標 ① 一連の介護過程の展開を行うことができる ② 各種の住設備機器や福祉用具を知り、その使用方法を理解し、活用できる。						
	3. 事前事後学習 ・施設・事業所及び介護が必要となる人の理解に関連する科目で学んだことを復習すること。 ・介護過程Ⅰ及びⅡ・Ⅲで学んだことを復習すること。 ・実習までに学んだ生活支援技術・コミュニケーションについて、自己課題を見つけ、繰り返し練習を行うこと。 ・実習反省会へは積極的に参加すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①						
	②	方法					
	③	介護実習Ⅱの①～③					
	④	④利用者に関する情報を収集し、情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明確化し、具体的な介護計画を立てる。					
	⑤	・受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。					
	⑥	・受け持ち利用者の情報を解釈・関連付け・統合化し、この利用者にとって何が課題かを見出す。					
	⑦	・見出された課題をもとに、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。					
	⑧	⑤施設にある住設備機器や福祉用具の名称と使用方法について、「住設備機器や福祉用具について」に記入する。					
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)						
参考文献等	介護福祉養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
考	オフィスアワー	久永:火・水・金曜(8:30～17:30)加藤・小城:火～木(8:30～17:30) 浜崎:月～金(火曜日を除く)8:30～17:30					

科目番号	339	授業科目	認知症者の介護 (Care for a Dementia patient)			担当者	永峯 登美子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 認知症者への尊厳を踏まえ、介護支援技術を学ぶ。						
	2. 到達目標 1.認知症者の尊厳を守り、自立支援ができる。 2.個別に応じたアセスメント能力を身につけることができる。 3.認知症者の増加に伴う支援社会を考えることができる。						
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 認知症者の理解(アルツハイマー・脳血管障害)人口動態統計より 認知症者の増加						
	② 認知症者の介護の目的と原則 「脳と心」 ビデオ						
	③ 〃 介護の方法 ①その人らしい生活環境の提供(レポート)						
	④ ②薬物療法(向精神薬の副作用の観察)						
	⑤ ③対人関係(コミュニケーション技術)(ビデオ)						
	⑥ ④非薬物療法(回想法、レクリエーション療法、芸術・音楽療法)						
	⑦ 若年認知症について 介護と支援						
	⑧ 事例Ⅰ 暴食 ①中核症状とは ②周辺症状とは						
	⑨ 事例Ⅱ 徘徊 ②その人らしさを支える対応						
	⑩ 事例Ⅲ 入浴拒否 事例を通して対応を考える (レポート)						
	⑪ 事例Ⅳ 暴力行為						
	⑫ 認知症の進行に応じた介護						
	⑬ 介護のプロフェッサーとは (ビデオ)						
	⑭ 家族支援と地域包括支援センター						
	⑮ 権利擁護のサービス(利用者本位に基づく制度と施策)						
	成績評価	筆記試験(45分)(80%) 受講態度、実技、発表態度(10%) レポート(10%)					
新 介護福祉養成講座 12 認知症の理解 (中央法規出版) 新 介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規出版)							
備考	オフィスアワー						

科目番号	340	授業科目	障害の理解Ⅱ (Understanding of disabilities Ⅱ)			担当者	堀田 哲一郎
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 サービス利用者の特性の一つである「障害」に応じた介護及びその支援体制に関する専門的な知識について理解を身につける。						
	2. 到達目標 1.発達障害、重症心身障害、内部障害、難病に応じた介護に関する知識を身につける。 2.障害者介護の支援体制に関する専門的な知識を身につける。						
	3. 事前事後学習 各節冒頭の「関連項目」に提示されている別のテキストの内容も読んでおく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 精神障害のある人の生活(1)						
	② 精神障害のある人の生活(2)						
	③ 高次脳機能障害のある人の生活						
	④ 発達障害のある人の生活						
	⑤ 重症心身障害のある人の生活						
	⑥ 難病のある人の生活(1)						
	⑦ 難病のある人の生活(2)						
	⑧ 障害のある人に対する介護の基本的支援						
	⑨ 基本的視点に基づいた個別支援						
	⑩ 社会資源の利用と開発						
	⑪ 家族への支援とは何か						
	⑫ 家族の状態の把握と介護負担の軽減						
	⑬ 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携						
	⑭ 地域におけるサポート体制						
	⑮ 総括						
成績 評価	筆記試験(100点)						
参考 文 献 等	福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』中央法規 OHC、ブルーレイ、VHS使用						
備 考							
	オフィスアワー	非常勤講師控室・授業時間終了後					

科目番号	341	授業科目	喀痰吸引 (expectoration suction method)			担当者	浜崎眞美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 生活福祉	講義	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する						
	2. 到達目標 1.呼吸のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる。 2.喀痰吸引のしくみ、人工呼吸器のしくみ及び生活支援における留意点、実施上の留意点(子供も含む)について説明ができる。 3.吸引に関する感染の可能性及び予防、説明と同意の必要性、危険の種類やその防止策、急変時の対応について説明ができる。 4.喀痰吸引で用いる器具とそのしくみや清潔保持、技術と留意点、喀痰吸引に必要なケア、報告及び記録について説明できる。						
	3. 事前事後学習 ・各回の内容について、次回までの間に復習をしておくこと。 ・授業中に実施する小テストの内容については、分かるまで調べること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 呼吸のしくみとはたらき						
	② いつもと違う呼吸状態						
	③ 喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引						
	④ 人工呼吸器と吸引						
	⑤ 子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意						
	⑥ 呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)						
	⑦ 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策:緊急を要する状態(症状)						
	⑧ 急変・事故発生時の対応と事前対策:対応、事前対策(医師・看護師との連携体制の確認)						
	⑨ 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持						
	⑩ 吸引の技術と留意点:必要物品の準備・設備と留意点						
	⑪ 吸引の技術と留意点:吸引前の利用者の状態観察と留意点、吸引前の利用者の準備と留意点						
	⑫ 吸引の技術と留意点:吸引実施手順と留意点、吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認と医師・看護職員への報告						
	⑬ 吸引の技術と留意点:吸引実施後の吸引物の確認と医師・看護職員への報告、吸引後の片付け方法と留意点						
	⑭ 喀痰吸引に伴うケア						
	⑮ 報告及び記録						
⑯ 筆記試験							
成績 評価	学期末試験の成績(80%)※筆記試験は60分で実施 小テストの成績(20%) ※出席点を含む。						
参 考 文 献 等	①医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規 ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規 ③介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに						
備 考	※医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し、単位を修得した上でなければ演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。						
	オフィスアワー	月曜～金曜(火曜を除く)8時30分～17時30分					

科目番号	342	授業科目	経管栄養演習 (tube feeding practice)				担当者	浜崎真美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択	介護福祉士資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する							
	2. 到達目標 1.胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。 2.経鼻における経管栄養をシュミレーターを用いて効果的に演習ができ、一人で実施ができる。 3.救急蘇生法をシュミレーターを用いて演習でき、一人で実施できる。							
	3. 事前事後学習 ・各行為、評価表に基づいて手順どおりに実施できるよう復習を行うこと。 ・「医療的ケア」「経管栄養」で学んだことを予習すること。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(1回目)							
	② 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(2回目)							
	③ 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(3回目)							
	④ 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(4回目)							
	⑤ 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(5回目)							
	⑥ 胃ろうまたは腸ろうにおける経管栄養(6回目)							
	⑦ 経鼻からの経管栄養(1回目)							
	⑧ 経鼻からの経管栄養(2回目)							
	⑨ 経鼻からの経管栄養(3回目)							
	⑩ 経鼻からの経管栄養(4回目)							
	⑪ 経鼻からの経管栄養(5回目)							
	⑫ 経鼻からの経管栄養(6回目)							
	⑬ 救急蘇生法							
	⑭ 救急蘇生法							
	⑮ 救急蘇生法							
	⑯ 実技試験							
成績評価	・実技試験の成績(指定の評価表に基づいて実施する)70% ・各行為5回目の実技試験の成績(指定の評価表に基づいて実施する:備考参照)30% ※出席点を含む							
参考文献等	①医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規 ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規 ③介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに							
備考	※演習については各行為最低5回の実施を行うこととし5回目の実施の際評価表に基づいた評価を行う。その際、手順どおりに実施できて合格とするため、合格するまで繰り返し行うこととする。							
	オフィスアワー	月曜～金曜(火曜を除く)8時30分～17時30分						

科目番号	343	授業科目	レクリエーションワーク (Recreation Work)				担当者	小松・井上・松下・中村
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期 2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 (美術) 描いたり、作ったりする活動を通して、基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう。 (音楽) 介護の現場において簡単に実践できる音楽の基礎力を修得する (表現) 音を伴う運動教材の習得を通して、動くことの喜びを味合わせることやコミュニケーションの円滑化をはかる手立てを学ぶ。上演用教材を製作し豊かな表現力を養う。							
	2. 到達目標 (美術) 1. 利用者にとって造形表現活動の果たす効果について理解する。 2. 描く活動・作る活動を通して、造形活動の良さを感じ支援の在り方を習得する。 (音楽) 1.現場で歌える歌謡曲や童謡のレパートリーを増やす 2.基礎的な打楽器の奏法を知る (表現) 1.運動教材を習得し動く喜びを知る。 2.習得した教材を通じて円滑な人間関係を築くことができる。 3.上演系の教材作成と上演を通して、現場に役立つ表現力を身につける。							
	3. 事前事後学習 (美術) 講義の内容を振り返りをする。 (音楽) 授業の最後でテーマにそった発表を各自行うためその事前準備を行う。 (表現) 授業中に出された課題を仕上げるためにグループワークや自主練習が必要である。							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	①	水彩絵具による描画表現①				⑰	手話のうたを学ぼう	
	②	水彩絵具による描画表現②～シュタイナー教育のぬらし絵				⑱	楽器を鳴らしてみよう	
	③	粘土制作				⑲	合唱や合奏でアンサンブル	
	④	粘土作品の彩色				⑳	総括とレポート	
	⑤	粘土作品のニス塗りと粘土遊びについての学習				㉑	レクリエーション・ダンスの習得と創作	
	⑥	季節感を楽しむ壁面製作①				㉒		
	⑦	季節感を楽しむ壁面製作②				㉓	車椅子体操製作	
	⑧	技法遊び(こすりだし・墨流し)				㉔		
	⑨	レクリエーション教材制作				㉕	車椅子ダンスの習得	
	⑩	コラージュ版画				㉖	フーセンバレーボールの習得	
	⑪	高齢者と音楽について				㉗	レクリエーション教材の製作と演技技術の習得 (エプロンシアター・パネルシアター等)及び発表	
	⑫	心を癒す音楽Ⅰ(明治時代のうたを中心に)				㉘		
	⑬	心を癒す音楽Ⅱ(大正時代のうたを中心に)						
	⑭	心を癒す音楽Ⅲ(昭和時代のうたを中心に)						
	⑮	郷土のわらべうたや民謡を中心に						
	⑯	リトミックを体験しよう						
成績 評価	(美術)	出席回数と受講態度(30点)・作品評価(70点)						
	(音楽)	授業中の表現活動や態度(50%)とレポート(50%)で評価する。						
	(表現)	各課題の評価(90%)と受講態度(10%)で評価する。						
参考 文 献 等	(美術)	参考文献:基礎・基本をおさえた絵の指導 東山明監修 明治図書						
	(音楽)	思い出の愛唱歌・こどものうた(野ばら社)						
	(表現)	講義中に指示する。						
備 考	①～⑩:井上・松下 ⑪～⑳:中村 ㉑～㉓:小松							
	オフィスアワー	小松:月曜日午後 井上・松下:随時(できれば事前に連絡すること) 中村:随時						

科目番号	344	授業科目	人間関係とコミュニケーション (Human Relations and Communication)				担当者	園田 美保
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年 ・ 後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	ピアヘルパー受験資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 他者と関わりながら生きている自分や、自分と関わっている他者・社会について、主に心理学の視点から理解する。そのうえで、他者と関わって生きていく事に敏感になる。 さらに、日常生活での自身の行動や、これからの行動を見直すきっかけとする。							
	2. 到達目標 1 他者と関わりながら生きる自分について考える視点を得る 2 自分と関わる他者や社会について考える視点を得る 3 日常生活でのコミュニケーション手段を見直す							
	3. 事前事後学習 ・各回の授業内容から、自分でキーワードになる言葉や概念を5～10語程ピックアップする。 ・自分のコミュニケーションについて、得意な分野と苦手な分野を上記のキーワードを使用して説明する。 ・今後の自分の対人関係にどのように役立てられるか、考える。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション ～講義形式、授業計画と内容、人間関係の心理学してみると？～							
	② 人間関係の始まり ～親子関係、愛着、養育態度、しつけ法～							
	③ きょうだいや仲間関係 ～きょうだいの性格、きょうだいへの親の対応、仲間関係の発展～							
	④ 非言語コミュニケーション ～種類、社会的知能～							
	⑤ 社会的スキル ～人間関係のスキル、社会的スキルの訓練法～							
	⑥ 主張性 ～真の主張性を身につけるために、問題解決のためのアサーション～							
	⑦ 共感性 ～思いやりと共感性、共感の発達、共感的理解、共感的な接し方～							
	⑧ 対人認知と感情 ～他者のパーソナリティ認知、認知の歪み、偏見～							
	⑨ 印象形成 ～情報間の影響、印象がつくられるしくみ、印象を作らせる自己呈示～							
	⑩ 対人魅力 ～好意を高める条件;個人特性/空間の近接性/態度の類似/自己開示の適切さ/好意の返報性～							
	⑪ 友情と愛情 ～友人関係の意義と成立要因、友情を守るルール、恋愛関係の類型化、恋愛プロセス～							
	⑫ 社会的自己 ～自己概念、自己の形成過程、自己評価、自己開示～							
	⑬ ストレスと人間関係 ～対人ストレス、ストレス緩和要因、ストレスとつき合う方法～							
	⑭ 幸福感と人間関係 ～主観的幸福感、幸せ感と関連する要因、心理的well-being ～							
	⑮ 総括・振り返り							
成績評価	各回のショートレポート 及び 受講態度(70%)・最終レポート(30%)							
参考文献等	特定のテキストは使用しない。随時資料を配布する。 使用機材:プロジェクター投影によるパソコンのプレゼンテーションソフト							
備考								
	オフィスアワー	火曜日 16:20～						

科目番号	345	授業科目	介護の基本Ⅳ (Fundamental of care Ⅳ)				担当者	加藤 玲子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるようになることを目標とする。また、介護における安全やチームケア等について理解を深める。							
	2. 到達目標 (1)よりよい介護のための連携。 (2)介護における安全の確保を理解できる。 (2)介護におけるリスクマネジメントを理解できる。 (3)介護従事者の安全について理解を深める。							
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	感染対策の基礎知識①						
	②	感染対策の基礎知識②						
	③	感染管理のための方策①生活の場での感染対策						
	④	感染管理のための方策②高齢者介護施設と感染対策						
	⑤	感染対策とリスクマネジメント						
	⑥	健康管理に必要な知識と技術 ①こころの健康管理						
	⑦	健康管理に必要な知識と技術 ②からだの健康管理						
	⑧	健康管理に必要な知識と技術 ③腰痛対策						
	⑨	生活管理(身体的疲労の予防)						
	⑩	介護従事者の安全－介護従事者の安全に関する法規						
	⑪	よりよい介護のための連携						
	⑫	在宅における介護活動						
	⑬	在宅における介護活動						
	⑭	施設における介護活動						
	⑮	施設における介護活動						
成績評価	学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施 グループワークでのまとめ及びレポート(30%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅱ」(中央法規)							
備考								
考	オフィスアワー	火～木曜(8:30～17:30)						

科目番号	346	授業科目	介護過程Ⅳ (Care process Ⅳ)			担当者	加藤 玲子 小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、実習での経験をふまえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。また、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。						
	2. 到達目標 ①計画した介護を利用者の状況に応じて適切に実施することができる。 ②介護過程において評価とは何か理解し、評価することができる。 ③自立に向けた生活支援のための多職種との連携の必要性を理解することができる。						
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	①	授業計画について、介護過程の展開(アセスメント～計画の立案)について(復習)					(小城)
	②	介護過程の展開:実施について					(小城)
	③	実習事前準備(介護実習Ⅳにおける受け持ち利用者を決める)					(小城)
	④	介護過程の展開:評価について					(小城)
	⑤	介護過程の展開及び受け持ち利用者希望について(個人指導)					(加藤・小城)
	⑥	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・小城)
	⑦	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・小城)
	⑧	介護過程の展開(個人指導)					(加藤・小城)
	⑨	介護過程の展開(介護実習Ⅳ)での実践内容を報告書にまとめる					(小城)
	⑩	介護過程の展開(介護実習Ⅳ)での実践内容について報告書にまとめたものを報告し、相互に評価していく(GW)					(小城)
	⑪	介護過程とケアマネジメントの関係性					(加藤)
	⑫	介護過程とケアマネジメントの関係性					(加藤)
	⑬	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:ケースカンファレンス					(加藤)
	⑭	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:サービス担当者会議					(加藤)
	⑮	チームアプローチにおける介護福祉士の役割:演習					(加藤)
	成績評価	学期末試験の成績(100点) ※筆記試験は60分で実施					
参考文献等	・最新介護福祉全書「介護過程」 石野育子著 (メヂカルフレンド社) ・介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規)						
備考							
考	オフィスアワー	加藤:研究室火～木(8:30～17:30) 小城:研究室火～木(8:30～17:30)					

科目番号	347	授業科目	ケアマネジメント (Care Management)			担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの展開ができる能力を身につける。また、「施設サービス計画」および「居宅サービス計画」を作成することにより、サービス計画を読み取る能力と介護計画作成の能力を身につけて、介護現場での対応能力を身につける。						
	2. 到達目標 1 ケアマネジメントに関する基礎的理解 2 施設サービス計画書の作成 3 居宅サービス計画書の作成						
	3. 事前事後学習 居宅サービス計画と施設サービス計画の作成をとおして、介護福祉や社会福祉制度の理解を事例をとおして理解する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	施設サービス計画書の構成及び作成の手順に対する説明					
	②	施設サービス計画の作成 ① サービス目標の設定と総合的な援助方針の作成					
	③	② 生活全般の解決すべき課題の設定					
	④	③ 援助目標の設定					
	⑤	④ 援助内容の作成					
	⑥	⑤ サービス担当者会議の開催					
	⑦	⑥ ケアプランのプレゼンテーション					
	⑧	居宅サービスの作成 ① サービス目標の設定と総合的な援助方針の作成					
	⑨	② 生活全般の解決すべき課題の設定					
	⑩	③ 援助目標の設定					
	⑪	④ 援助内容の作成					
	⑫	⑤ その他週間計画・日課票等の作成					
	⑬	⑥ サービス担当者会議の開催					
	⑭	⑦ ケアプランのプレゼンテーション					
	⑮	プレゼンテーションのまとめと講評					
	成績評価	授業への参加態度(20点)、レポート(80点)に基づいて総合的に評価する。					
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「コミュニケーション技術」(中央法規)						
備考							
	オフィスアワー	火・水曜日の午後					

科目番号	348	授業科目	介護総合演習Ⅳ (General practice caring Ⅳ)			担当者	加藤 玲子・浜崎 真美 小城 百代・福留 弘 星隈 幸子	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択	介護福祉士資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。							
	2. 到達目標 ①介護実習に向けての心構えや予備知識、動機づけ等の準備を行なうことができる。 ②実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる。 ③実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる。							
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	後期講義内容の説明、介護実習Ⅳに向けて自己課題を明確にする、実習施設についての理解を深める。実習評価表個人指導					(加藤・浜崎・小城)	
	②	介護実習Ⅳについて、実習事前検査説明、事前訪問について					(小 城)	
	③	施設における介護の理解と実習の心得・進め方について(障害者支援施設)					(福 留)	
	④	施設における介護の理解と実習の心得・進め方について(重症心身障害児施設)					(福 留)	
	⑤	多職種協働について					(星 隈)	
	⑥	家族との連携について					(星 隈)	
	⑦	介護実習Ⅳについて(夜勤のことや会議等への参加について)					(小 城)	
	⑧	救急蘇生法(講義・演習)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑨	救急蘇生法(講義・演習)					(加藤・浜崎・小城)	
	⑩	介護実習Ⅳについて(実習・事業等Ⅱでの学ぶべき内容の確認)、実習反省会について(日時やテーマ等)、実習記録などの準備・確認					(小 城)	
	⑪	介護実習Ⅳについて(自己の実習計画を立てる)					(浜 崎)	
	⑫	実習反省会					(加 藤)	
	⑬	介護実習Ⅳにおいて情報交換					(加 藤)	
	⑭	介護福祉士とは、介護福祉士の役割について明確にする(GW)					(小 城)	
	⑮	専門職能団体の理解(介護福祉士会)、介護福祉士登録証登録のための説明					(小 城)	
成績評価	加藤・浜崎・小城:レポート(介護過程の展開:アセスメント～介護計画の実施・評価・考察等)(80%) 福留・若松:講義内容に関連したレポート(20%)							
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」(中央法規出版) 介護福祉士選書 18 介護福祉実習指導(建帛社)							
備考	オフィスアワー 加藤・小城:研究室火～木(8:30～17:30)・浜崎:研究室月～金(8:30～17:30)火曜は除く・小城:研究室火～木(8:30～17:30)							

科目番号	349	授業科目	介護実習Ⅳ (Care practice Ⅳ)			担当者	久永 繁夫・加藤 玲子 浜崎 眞美・小城 百代
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	実習	3	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
	2. 到達目標 ① 一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる。 ② チームの一員としての役割を自覚し、介護体制を知り、総合的な判断力を身につけ、介護業務を遂行できる。						
	3. 事前事後学習 ・施設・事業所及び介護が必要となる人の理解に関連する科目で学んだことを復習すること。 ・「介護過程Ⅳ」で学んだことを復習すること。 ・実習までに学んだ生活支援技術・コミュニケーションについて、自己課題を見つけ、繰り返し練習を行うこと。 ・実習反省会へは積極的に参加すること。						
	4. 各回の授業内容						
授 業 計 画	①	④利用者に関する情報を収集し、情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明確化し、 具体的介護計画を立て、実施、評価する。 ・受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。 ・受け持ち利用者の情報を解釈・関連づけ・統合化し、この利用者にとって何が課題かを見出す。 ・見出された課題をもとに、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。 ・安全・安楽に十分留意しながら立てられた具体的計画を実際行ってみる。 ・実施したことに対する利用者の変化や反応を観察し、どのような効果があったか、 工夫すべき点は何か、今後どのように活かしていけばよいかなどを評価・考察する。 ⑤利用者の夜間と日中の状態変化について、施設内の記録や申し送りの情報を取り、理解する。 ⑥施設内で行われる職員会議やケースカンファレンス等、施設運営プログラムに参加する。					
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績評価	実習施設の評価、巡回指導の結果で総合評価する。(100点)					
参考文献等	介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・実習」(中央法規出版)						
備考							
	オフィスアワー	久永:研究室火水曜の午後・加藤:研究室火～木(8:30～17:30)・浜崎:研究室月～金(8:30～17:30)火曜は除く・小城:研究室火～木(8:30～17:30)					

科目番号	350	授業科目	こころとからだのしくみⅡ（精神） (Mechanism of Mind and BodyⅡ -Mind-)				担当者	宮里 新之介
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	生活科学 生活福祉	講義	2	必修	介護福祉士資格必修 ピアヘルパー受験資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 本講義では、介護技術の根拠となる精神機能について学び、老化に伴う身体の変化と精神機能及び心理状態の関連についての理解を深めます。心身の両面から被介護者の状態を読み取り、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、いかにして被介護者の残存能力・潜在能力を引き出し、自立を支援するための適切な介護方法ができるのかを考える力を養うことを目標とします。							
	2. 到達目標 1.精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解を深める 2.被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる 3.残存能力や意欲を引き出す援助を考えることができる							
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション / 健康とは何か							
	② こころのしくみの基礎 ①（意欲・動機づけ）							
	③ こころのしくみの基礎 ②（学習・記憶・思考）							
	④ こころのしくみの基礎 ③（感情・適応）							
	⑤ 人間の欲求について							
	⑥ 自己概念と尊厳について							
	⑦ 自己実現といきがいについて							
	⑧ 移動に関連したこころとからだのしくみ							
	⑨ 食事に関連したこころとからだのしくみ							
	⑩ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ							
	⑪ 排泄に関連したこころとからだのしくみ							
	⑫ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ							
	⑬ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみ							
	⑭ 高齢者への心理的サポートを目的とした関わり(回想法、心理劇)							
	⑮ 高齢者への心理的サポートを目的とした関わり(動作療法)							
	⑯ 筆記試験							
成績評価	①学期末試験の成績(80%) ※60分で実施 ②講義で出された課題(レポート等)の提出(20%)							
参考文献等	テキスト： 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 その他、講義中に適宜紹介します。							
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。							
考	オフィスアワー	研究室にて随時行います。						

科目番号	351	授業科目	ターミナルケア (Terminal care)			担当者	馬見塚 勝郎 長 倉 伯 博 楠 本 信 道	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年 ・ 後期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択	介護福祉士資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。更に、今後迎える高齢化社会において加齢を背景とした慢性期疾患、その中でも癌患者の増加が予想されるため、施設における終末期医療の在り方について福祉の観点から考察を深める。							
	2. 到達目標 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことをねらいとする。具体的には①死にゆく人のこころとからだのしくみの理解(『死の捉え方、終末期から危篤・死亡時のからだの変化の理解』)②『死』に対する利用者・家族のこころの理解 ③ターミナル期における医療職との相互連携の必要性の理解							
	3. 事前事後学習 テキストによる予習 テキストによる復習(プリント等の復習)							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	ターミナルケアとは					(馬見塚)	
	②	全人的医療とは					(馬見塚)	
	③	ホスピスの歴史					(馬見塚)	
	④	ターミナル期における身体的変化					(馬見塚)	
	⑤	高齢者の身体的変化					(馬見塚)	
	⑥	病状告知					(馬見塚)	
	⑦	症状コントロール					(馬見塚)	
	⑧	家族ケア					(馬見塚)	
	⑨	死をめぐる倫理的な問題(安楽死、尊厳死)					(馬見塚)	
	⑩	臨死期における身体的変化と看取り					(馬見塚)	
	⑪	トータルペインについて 1)理論と意味					(長 倉)	
	⑫	2)症例を通して学ぶ					(長 倉)	
	⑬	3)演習					(長 倉)	
	⑭	インドにおける死生観と看取り					(楠 本)	
	⑮	日本における死生観と看取り					(楠 本)	
成績 評価	講義中に触れた内容を元にした、各自が考える施設でのターミナルケアの実践に関してレポートを提出してもらう。キーワードに対する理解の深さをレポート内容から点数化して採点する。							
	・レポート 80%、 受講態度 20%							
参考 文献 等	・緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ ・緩和ケア百科 春秋社 ・よく生き よく笑い よき死と出会う アルフォンス・デーケン 新潮社 ・ビハラー実践活動研究会[1993]『ビハラー活動---仏教と医療と福祉のチームワーク・・・』							
備 考	オフィスアワー 火・水曜日の午後(久永研究室に事前連絡)							

科目番号	352	授業科目	喀痰吸引演習 (expectoration absorption practice)			担当者	浜崎真美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	2	選択	介護福祉士資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する						
	2. 到達目標 1.口腔内の喀痰吸引をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。 2.鼻腔内の喀痰吸引をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。 3.気管カニューレ内部の喀痰吸引をシュミレーターを用いて効果的に演習でき、一人で実施できる。						
	3. 事前事後学習 ・各行為、評価表に基づいて手順どおりに実施できるよう復習を行うこと。 ・「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだことを予習する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 口腔内吸引(1回目)						
	② 口腔内吸引(2回目)						
	③ 口腔内吸引(3回目)						
	④ 口腔内吸引(4回目)						
	⑤ 口腔内吸引(5回目)						
	⑥ 鼻腔内吸引(1回目)						
	⑦ 鼻腔内吸引(2回目)						
	⑧ 鼻腔内吸引(3回目)						
	⑨ 鼻腔内吸引(4回目)						
	⑩ 鼻腔内吸引(5回目)						
	⑪ 気管カニューレ内部の吸引(1回目)						
	⑫ 気管カニューレ内部の吸引(2回目)						
	⑬ 気管カニューレ内部の吸引(3回目)						
	⑭ 気管カニューレ内部の吸引(4回目)						
	⑮ 気管カニューレ内部の吸引(5回目)						
	⑯ 実技試験						
成績評価	・実技試験の成績(指定の評価表に基づいて実施する)70% ・各行為5回目の実技実験の成績(指定の評価表に基づいて実施する:備考参照)30% ※出席点を含む						
参考文献等	①医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規 ②介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規 ③介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに						
備考	※演習については各行為最低5回の実施を行うこととし5回目の実施の際評価表に基づいた評価を行う。その際、手順どおりに実施できて合格とするため、合格するまで繰り返し行うこととする。						
	オフィスアワー	月曜～金曜(火曜を除く)8時30分～17時30分					

科目番号	353	授業科目	聴覚障害者の生活支援 (A hearing-impaired person's assisted living)				担当者	下田代 修 子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 生活福祉	演習	1	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話を学ぶことにより、言語が人間形成にどのような関わりを持つのかを知る。障害を持つ人たちの社会参加が促されているが、一方、社会はどのようなのか?障害者に対する社会的な状況を理解し、自らの役割について考えさせる。							
	2. 到達目標 ・日常会話及び介護に関わる手話を取得させる ・聴覚障害の分類に伴う援助の手段を理解する ・知り得た知識を踏まえ、ケース討議または援助手段を立てられるようにする							
	3. 事前事後学習 授業で習った手話を復習し、理解度の確認を各自行う。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容 実技は前回復習の後							
	① 講義 聴覚障害について 実技一名前・ものの動き							
	② 講義 聴力検査について 実技一挨拶・身振りの表現							
	③ 講義 補聴器について 実技一家族の表現							
	④ 講義 聴覚障害							
	⑤ 講義 聴覚障害者のコミュニケーション							
	⑥ 講義 福祉用語や福祉制度 用具品目の説明 実技一仕事の表現							
	⑦ 講義 聴覚障害者との共存							
	⑧ 講義 言語障害について							
	⑨ 自己紹介のまとめ 実技発表							
	⑩ 実技一医療現場用語							
	⑪ 討論一現場における聴覚障害者へのサポート 実技一自己表現の練習							
	⑫ 講義一重複障害 盲ろう者への介護 実技一指文字等							
	⑬ 実技一介護現場で使う会話用語の表現練習							
	⑭ 介護における移動技術の展開							
	⑮ ロールプレイ サポート支援のあり方について検討後 総括							
成 績 評 価	・ショートレポート(25%) ・技術評価(25%) ・演習(ケース討議)レポート(25%) ・授業態度(10%) ・出席状況(15%)							
	中央法規 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規 13 障害の理解 中央法規 14 こころとからだのしくみ							
備 考	オフィスアワー							

専門科目

食物栄養学専攻

科目番号	401	授業科目	栄養生化学 I (Biochemistry for Nutrition I)				担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学・食栄	講義	2	必修			
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 三大栄養素とはどのような物質であるのか、化学構造や性質について理解する。							
	2. 到達目標 栄養学の基礎知識として、三大栄養素の化学的基礎について理解する。							
	3. 事前事後学習 ① 授業開始時に毎回小テストを行い、前回の授業内容の復習を促す。 ② 授業の最後に、次回の授業範囲・内容について告知を行うとともに、資料を配布し、授業開始時に行う小テストでは、当日授業で行う範囲からも出題することにより、授業の予習を促す。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識						
	②	細胞と生体膜						
	③	アミノ酸(1)						
	④	アミノ酸(2)						
	⑤	ペプチドとタンパク質、酵素(1)						
	⑥	酵素(2)						
	⑦	単糖類						
	⑧	二糖類と多糖類						
	⑨	脂肪酸と単純脂質						
	⑩	複合脂質など						
	⑪	ATPの役割と生体酸化						
	⑫	電子伝達系と酸化的リン酸化						
	⑬	中間代謝の概要(1)(概要、糖質代謝)						
	⑭	中間代謝の概要(2)(脂質代謝、アミノ酸代謝)						
	⑮	中間代謝の概要(3)(代謝経路の調節)						
	⑯	筆記試験						
成績評価	毎回の授業で行う小テスト(30%) ※出席点を含む 学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「はじめて学ぶ生命科学の基礎」 化学同人 「ヴォート 基礎生化学」 第3版 東京化学同人 「ストライヤー 基礎生化学」 東京化学同人 「栄養科学イラストレイティッド 生化学」 羊土社							
備考	パワーポイント使用							
考	オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日 16時15分以降(研究室)						

科目番号	402	授業科目	食品学総論 (Food Science)			担当者	村山恵美子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 わが国においては、現在多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品成分の特徴を理解し、食品に関する基礎的知識を身に付けることを目的とする。						
	2. 到達目標 1. 食品に関する基礎的知識を身につける。 2. 健康な食生活を営むための食品を正しく選択する。						
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献・辞書等で調べる。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 人間と食品						
	② 食品成分表						
	③ 水分、炭水化物						
	④ たんぱく質と酵素						
	⑤ 脂質						
	⑥ 無機質						
	⑦ ビタミン						
	⑧ 色素成分						
	⑨ 呈味成分						
	⑩ 香気成分						
	⑪ 食品成分の変化						
	⑫ 食品の機能性						
	⑬ 特別用途食品・保健機能食品						
	⑭ 食品の物性						
	⑮ 官能検査						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	筆記試験(60分で実施、90%)、小試験(10%)						
参考文献等	教科書： 種村安子他著「イラスト食品学総論」東京教学社 香川芳子監修「食品成分表2014」女子栄養大学出版部 パワーポイント、ビデオ、DVD						
備考							
	オフィスアワー	月・火 9, 10限(研究室)					

科目番号	403	授業科目	食品学実験 (Experiments of Food Science)				担当者	村山恵美子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修 フードスペシャリスト資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実験に必要な基礎知識と基本操作を学び、後に続く種々の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実習できるように、基本的実験姿勢を身に付け、食品に対する理解を深めることを目的とする。							
	2. 到達目標 1. 実験に必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。 2. 基本的実験姿勢を身につける。 3. 食品に対する理解を深める。							
	3. 事前事後学習 授業の前に実験書に目を通し、実験内容を理解する。実験後は実験内容をまとめ、レポートとして提出する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 実験の基礎知識(機械・器具名、操作法、安全に実験を行うために、レポートの書き方等)							
	② 水分測定							
	③ 食酢中の酢酸の定量							
	④ 醤油中の塩化ナトリウムの定量							
	⑤ pHの測定と緩衝能							
	⑥ 無機質の定性、炎色反応							
	⑦ 糖質の定性							
	⑧ でんぷんの抽出、検鏡、性質							
	⑨ アミロース含量の測定							
	⑩ 醤油中のグルタミン酸定量							
	⑪ たんぱく質の定性、定量実験							
	⑫ 酵素の活性測定							
	⑬ 食品の酵素による褐変、非酵素的褐変							
	⑭ 油脂の化学的試験(酸価、過酸化価、ケン化価)							
	⑮ 官能検査							
	⑯ レポートの提出、筆記試験							
成績 評価	レポートの提出状況・受講態度(60%)、筆記試験(60分で実施、40%)							
参考 文 献 等	教 科 書：江角彰彦「食品学総論実験-実験で学ぶ食品学-」(同文書院) プリント パワーポイント							
備 考								
	オフィスアワー	月・火 9, 10限(研究室)						

科目番号	404	授業科目	食品衛生学 (Food Hygienics)			担当者	村山恵美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化、劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽証表示、食料自給率低下、輸入食品の増加等の実態に目を向け、安全・安心な食生活を送るためにはどうすれば良いかを考える。						
	2. 到達目標 1. 食品に関する安全上の現状認識を行う。 2. 食中毒予防や衛生管理法を習得する。						
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べる。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 食品衛生と微生物						
	② 微生物性食中毒						
	③ //						
	④ //						
	⑤ 自然毒食中毒						
	⑥ 化学性食中毒						
	⑦ 食中毒の予防と衛生管理						
	⑧ 経口二類感染症と人獣共通感染症						
	⑨ 食品寄生虫症						
	⑩ 食品汚染物質						
	⑪ 食品の器具・容器包装の衛生						
	⑫ 食品添加物総論						
	⑬ 食品添加物各論						
	⑭ 新しい食品の諸問題と表示						
	⑮ 食品衛生行政と法規						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	筆記試験(60分で実施、90%)、小試験(10%)						
参考文献等	教科書:小塚諭編「イラスト食品の安全性」(東京教学社) 参考書:細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑」建帛社 パワーポイント、ビデオ、DVD						
備考							
	オフィスアワー	月・火 9, 10限(研究室)					

科目番号	405	授業科目	栄養指導論Ⅰ (Nutritional GuidanceⅠ)			担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養指導論Ⅰは、個人・集団および地域に対する栄養指導を行う上での必要な基礎知識・技法を習得することが目的である。生活習慣病予防のために如何に食行動の変容を支援していくか、栄養士として栄養教育・指導の理論と技術について学ぶ。また、栄養指導論Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰ・Ⅱに連動するものである。						
	2. 到達目標 1.栄養指導の概念について理解し、その必要性を述べることができる。 2.栄養指導の歴史や法関連性を理解し、栄養士としての役割を述べることができる。 3.栄養指導の方法論を理解し、対象者に対して的確な栄養指導計画を立案することができる。 また必要な教材・媒体を選択することができる。						
	3. 事前事後学習 事前学習:次回の内容についてテキストを読んでおくこと。 事後学習:授業の内容を理解し、ノートをまとめておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 栄養指導の概念<栄養指導論とは><栄養指導の目的と必要性とは>						
	② 栄養指導の概念<食生活を取り巻く栄養指導><食生活の変遷>						
	③ 栄養指導の沿革<栄養指導の歴史と現状>						
	④ 栄養指導と関連法規<栄養指導に関する法令>						
	⑤ 栄養指導と関連法規<栄養指導に関する法令><栄養教育の国際的動向>						
	⑥ 栄養状態の評価と栄養調査						
	⑦ 栄養指導の方法<行動科学理論と栄養指導>						
	⑧ 栄養指導の方法<行動科学理論とそのモデル><行動変容技法の応用>						
	⑨ 栄養指導の方法<栄養カウンセリング><組織・地域への展開>						
	⑩ 栄養指導の方法<食環境づくりと栄養指導><栄養指導で用いる教材・媒体>						
	⑪ 栄養指導の方法<栄養教育マネジメント><栄養アセスメント>						
	⑫ 栄養指導の方法<栄養教育の目標設定(栄養指導計画の立て方)>						
	⑬ 栄養指導の方法<栄養教育プログラムの実施>						
	⑭ 栄養指導の方法<栄養教育の評価>						
	⑮ 総括						
	⑯ 筆記試験およびレポート提出						
成績 評価	学期末試験の成績(50%)※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)※出席点を含む						
参考 文 献 等	・イラスト栄養教育・栄養指導論<第3版>(東京教学社:城田知子 他) ・栄養士のための栄養指導論<第2版>(学建書院:芦川修貳 他) ・日本人の食事摂取基準<2010年版>厚生労働省(第一出版) ・糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂:日本糖尿病協会)						
備							
考	オフィスアワー	火曜日 13時～16時					

科目番号	406	授業科目	給食管理 (Food Service Management)			担当者	竹原 小菊	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 特定給食施設で給食を実施するために必要な栄養士の基礎知識を習得させ、給食経営管理を視野に入れた給食運営業務の実践力を身に付けた栄養士を目指す。							
	2. 到達目標 (1) 給食運営に必要な基礎知識を理解する。 (2) 給食運営業務の実践力を習得する。 (3) 各給食施設に応じた給食管理の在り方を習得する。							
	3. 事前事後学習 (1) 事前学習として活躍する栄養士をテーマにしたDVD視聴 (2) 授業計画表を配布し教科書での予習を促す。 (3) 「2年生の手作りランチ」の食券(1食350円)を配布し、実際に食する。 (4) 復習としてまとめの練習問題を配布し、質問を受ける。							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	①	給食の概念 給食の定義と目的						
	②	健康増進法における特定給食の位置づけ(栄養管理基準)						
	③	給食における栄養・食事管理				・栄養・食事管理の目的及び献立計画		
	④					・栄養・食事管理の評価と栄養教育		
	⑤	給食の調理管理		・食材料管理(購入・検収・保管)				
	⑥	・調理作業管理(大量調理の特性、工程・品質管理)						
	⑦	・安全・衛生管理(給食関係者、食材、施設設備、事故・災害時対策)						
	⑧	給食の組織・人事管理						
	⑨	給食の会計・原価管理(ABC分析)						
	⑩	給食の事務管理(情報処理管理)						
	⑪	保健・医療・福祉・介護における給食施設の給食管理				・学校給食施設		
	⑫						・病院給食施設	
	⑬						・保育所等児童福祉施設	
	⑭						・高齢者・介護福祉施設・事業所等	
	⑮	総括						
成績評価	定期試験(80%)、受講態度(10%)、提出物(10%)							
参考文献等	テキスト：エスカベーション「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 栄養士必携(社)日本栄養士会 第一出版 参考文献：食品成分表 日本人の食事摂取基準(2010年版) 厚生労働省策定検討会報告書 第一出版 視聴覚機器：ビデオ、パワーポイント							
備考								
	オフィスアワー	月・金曜日(13時～18時)、給食管理研究室(南館104)						

科目番号	407	授業科目	調理学 (Cooking Science)				担当者	山崎 歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 調理学の概要を知り、調理操作や食品の調理特性を中心に学び、それらの理論を基に調理技術の向上や食生活の実践に役立つ理論を学ぶ。							
	2. 到達目標 1. 調理学の意義・役割を理解する 2. 調理操作全般について知る 3. 食品素材別の調理法について知る							
	3. 事前事後学習 事前に指定教科書を読み、事後には復習を行う。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	調理学の意義・役割						
	②	調理操作 非加熱調理操作						
	③	調理操作 加熱調理操作						
	④	調理操作 調味操作						
	⑤	調理操作 調理器具・エネルギー源						
	⑥	調理と味 食物のおいしさ 化学的な味						
	⑦	調理と味 食物のおいしさ 物理的な味						
	⑧	食品素材と調理 主食として用いる食品の調理(米)						
	⑨	食品素材と調理 主食として用いる食品の調理(小麦)						
	⑩	食品素材と調理 主菜として用いる食品の調理(魚介類・食肉類)						
	⑪	食品素材と調理 主菜として用いる食品の調理(卵類・豆類)						
	⑫	食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(野菜類)						
	⑬	食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(いも類)						
	⑭	食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(牛乳・乳製品)						
	⑮	食品素材と調理 副菜として用いる食品の調理(藻類・きのこ類・果実類)						
	⑯	食品素材と調理 成分抽出素材 でんぷん・油脂・ゲル化剤						
成績 評価	学期末試験:筆記(60分で実施)の成績(80%) 課題レポート(10%) 受講態度(10%)							
参考 文 献 等	テキスト・・・NEW基礎調理学・石松,鋭,外西・医歯薬出版株式会社 参考文献・・・原色食品図鑑・菅原龍幸,井上四郎・建帛社 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部							
備 考								
	オフィスアワー	金曜日午後(研究室)						

科目番号	408	授業科目	調理学実習 I (Cooking Training I)			担当者	山崎 歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 食生活を健康的に営むために、科学的・合理的な調理学の基礎知識にもとづき、日本料理,西洋料理,中国料理の各様式を取り入れ、献立立案から食卓までの諸要素についての確にとらえられるようにする。さらに、健康で楽しく正しい食生活のあり方について、一汁三菜の基本的な日常食の献立立案と実践力を育成する。						
	2. 到達目標 1. 調理学実習での心得を意識して実習を行う 2. 基本的な調理の技術を身につける 3. 献立を立案し、バランスを考えた食事を提供できるようにする						
	3. 事前事後学習 事前配布資料を基に作り方をフローチャート化し予習を行う。事後にはレポートをまとめ提出する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 調理学実習の心得と諸注意						
	② 基本調理:計量,包丁の使い方						
	③ 日本料理①						
	④ 日常食の献立作成						
	⑤ 日本料理②						
	⑥ 西洋料理①						
	⑦ 西洋料理②						
	⑧ 日本料理③						
	⑨ 中間まとめ						
	⑩ 中国料理①						
	⑪ 中国料理②						
	⑫ 西洋料理③						
	⑬ 日本料理④						
	⑭ 中国料理③						
	⑮ 実技試験						
	成績 評価	実習および課題レポート(70%) 受講態度(20%) 実技試験(10%)					
テキスト・・・操作別調理学実習・中野,外西,二木,池田・同文書院 参考文献・・・調理と理論・山崎清子,島田キミエ・同文書院 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント							
備考							
	オフィスアワー	金曜日午後(研究室)					

科目番号	409	授業科目	化 学 (Chemistry)			担当者	横峯 孝昭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 私たちの身の回りには多くの物質が存在している。私たちはこれらの物質を適切に用いたり、調理したりしているだろうか。適切に用い、調理するためには、素材の成分や性質をよく知り、これにあった取扱方法を考えることが必要となる。そこで、これらを理解するための化学の基本を体得することを目標とする。						
	2. 到達目標 (1)原子分子について理解する (2)化学反応について理解する (3)有機化合物について理解する						
	3. 事前事後学習 中学校までの化学の内容について事前に復習しておくこと。教科書は使用しないためノート＝教科書となるので、講義終了後にノートをもとに授業内容を復習しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	物質の成り立ち－原子・イオン・分子、地球上のものを形作るものの正体					
	②	〃					
	③	〃					
	④	〃					
	⑤	〃					
	⑥	〃					
	⑦	〃					
	⑧	物質の変化(1)－燃えるということ					
	⑨	物質の変化(2)－原子や分子の「量」をはかる					
	⑩	物質の変化(3)－色々な化学変化					
	⑪	物質の変化(4)－化学変化と「熱」のかかわり					
	⑫	物質の状態と性質(1)－物質の状態は変わる					
	⑬	身近な有機化合物					
	⑭	食品に見る生体物質					
	⑮	総括					
成績評価	受講態度(30%)及び講義中に行う課題の達成(70%) 各单元ごとに小テストを行いそれを総合的に評価する						
参考文献等	参考文献は講義中に適宜紹介する						
備考							
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間					

科目番号	410	授業科目	くらしとお茶A (Life and Tea)				担当者	村山恵美子・山崎歌織 松崎康弘・大城光高・中禮雅治 住澤知之・有馬恵子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	日本茶アドバイザー受験資格必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法、品質検査や鑑定法等、日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけるとともに、茶文化の発展と普及に寄与する人材となることを目指す。							
	2. 到達目標 1.日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する。 2.茶に関する知識と理解を深める。							
	3. 事前事後学習 事前に教科書を読み、授業の概要を把握する。授業後は学習した内容を実際の生活の中で実行する。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	①	日本茶アドバイザーの概要					(村山)	
	②	日本茶の歴史、鹿児島茶の歴史					(松崎)	
	③	茶と食育					(山崎)	
	④	茶業のあらまし					(大城)	
	⑤	茶の栽培と製造					(大城)	
	⑥	茶の利用					(大城)	
	⑦	茶のサイエンス					(村山)	
	⑧	茶の効能・効果					(住澤)	
	⑨	茶の品質検査、鑑定法					(中禮)	
	⑩	〃					(中禮)	
	⑪	インストラクション技術(服装、話し方、接客)					(有馬)	
	⑫	インストラクション技術(茶の入れ方)					(中禮)	
	⑬	〃					(中禮)	
	⑭	〃					(中禮)	
	⑮	〃					(中禮)	
	成績評価	⑯ 筆記試験						
小テスト70%、試験等30%								
参考文献等	教科書： 日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ/NPO法人日本茶インストラクター協会							
備考								
	オフィスアワー	各講義終了後						

科目番号	411	授業科目	教職概論 (Contemporary Issues on Teaching Profession)			担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義は、栄養教諭を希望する学生が、教職の意義及び教員の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。それは、具体的な実践内容を知るだけでなく、法的な意味での役割を知る中でなされる。本講義を通して、自らの適性を省みると共に、専門職への意欲が高まることを期待する。						
	2. 到達目標 教職と教員としての資質の理解・吟味						
	3. 事前事後学習 導入的科目のため事前学習の必要はないが、同時開講の科目「教育原理」との関連づけを図ること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション						
	② 教師とは誰かⅠ－ 教師の役割						
	③ 教師とは誰かⅡ－ 教師の資質						
	④ 教師とは誰かⅢ－ 法規から見た教師						
	⑤ 学校における養護教諭の位置づけ－ 法規上の関係も含む						
	⑥ 学校組織と教師－ 様々なチームワークの取り組み						
	⑦ 教育問題を考える						
	⑧ 学校問題を考える						
	⑨ 子どもを知る(Ⅰ)－ 子どもの発達・成長(幼児期・児童期)と教育の目的						
	⑩ 子どもを知る(Ⅱ)－ 子どもの発達・成長(青年期)と教育の目的						
	⑪ 子どもを知る(Ⅲ)－ 現代の教育問題から						
	⑫ 自分を知る(Ⅰ)－ 資質の検討のために						
	⑬ 自分を知る(Ⅱ)－ 自分なりの教師像の模索のために						
	⑭ 自分を知る(Ⅲ)－ 自分なりの教育観の模索のために						
	⑮ 総括						
成績評価	レポート(100%)により評価する。						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時					

科目番号	412	授業科目	情報機器演習 (Introduction to Instruments for Information Use)				担当者	鈴木 雄清
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 インターネット上から効率よく情報を検索し、信憑性の高い必要な情報を選別できるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いて、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーション資料を作成したりすることができるようになる。加えて、情報モラルに関する用語の意味や、問題に直面したときにどのように行動するべきかについて説明できるようになる。							
	2. 到達目標 1. 必要とする信憑性の高い情報を効率よく検索できる 2. 事務系ソフトでレポートやプレゼン資料を作成できる 3. 情報モラル関連の用語やとるべき行動を説明できる							
	3. 事前事後学習 〈事前学習〉 ・使用教材を必要に応じて読み、意味のわからない用語について調べる。 〈事後学習〉 ・小テストや使用教材を用いて復習する。 ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①【B1】オリエンテーション、コンピュータの基本操作							
	②【B1】強いパスワード、プリンタと用紙、掲示板を用いた自己紹介、情報モラル(1)							
	③【B1】インターネットの仕組み、情報検索の基礎、情報モラル(2)							
	④【B1】インターネットでの効率的な情報検索、情報モラル(3)							
	⑤【B1】USBメモリの活用、ショートカットキー、コピー& ペースト、情報モラル(4)							
	⑥【B1】電子メール【B2】Word の文書作成と印刷・メール送信、情報モラル(5)							
	⑦【B2】Wordによるレポート作成、情報モラル(6)							
	⑧【B2】PowerPointによるプレゼン資料作成の基礎、情報モラル(7)							
	⑨【B2】PowerPointによるプレゼン資料作成、情報モラル(8)							
	⑩【B2】Excelの基本操作、情報モラル(9)							
	⑪【B2】Excelによる表計算【B3】プレゼン資料のテーマ選定、情報モラル(10)							
	⑫【B3】プレゼン資料作成のためのアイデアと情報収集							
	⑬【B3】プレゼン資料の作成(1)							
	⑭【B3】プレゼン資料の作成(2)							
	成 績 評 価	⑮ 総括						
〈方法〉最終試験(60%)、最終課題(40%)の累積で評価する。欠席は減点する。 ※最終試験(オンラインテスト)は90分で実施する。 〈基準〉すべての小テスト(満点)とすべての課題の提出を単位取得の条件とする。								
参考文献等 ○テキスト1: 富士通オフィス機器株式会社『情報リテラシーアプリ編 Microsoft Word2013/Microsoft Excel2013/Microsoft PowerPoint2013対応』 [¥1,800+税] ○テキスト2: 大橋真也・森夏節・立田ルミほか『ひと目でわかる最新情報モラル 第2版』日経BP社, 2011年 [¥500(税込み)] ○USBフラッシュメモリ [¥1,000程度] (詳細は授業中に説明する)								
備	テキストは2冊とも授業で使用する。							
考	オフィスアワー							

科目番号	413	授業科目	教育原理 (Principles of Education)			担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の第一の使命である。しかし、そればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長することにも、教育は関わっている。この二重の役割はどのように理解されるべきなのか、また成長期ではどのように捉えるべきなのか、本講義が目指すのはこのことである。各自が過去を振り返りつつ、教育についてじっくり考えてもらいたい。						
	2. 到達目標 教育の目的・子どもの理解・指導力の基礎作り						
	3. 事前事後学習 同時開講の科目「教職概論」との関連づけること。事後には、講義で紹介した図書を必ず読んでもらいたい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーションー 自分たちの過去を思い出そう						
	② 成長するとは？（Ⅰ）－ 身体的成長と精神的成長						
	③ 成長するとは？（Ⅱ）－ 精神的成長と自立						
	④ 成長するとは？（Ⅲ）－ 精神的成長と自律						
	⑤ 成長するとは？（Ⅳ）－ 成長と教育の関係						
	⑥ 教育とは？（Ⅰ）－ 教育の目指すもの						
	⑦ 教育とは？（Ⅱ）－ 教育の歴史(その一)						
	⑧ 教育とは？（Ⅱ）－ 教育の歴史(その二)						
	⑨ 教育とは？（Ⅱ）－ 教育の歴史(その三)						
	⑩ 教育とは？（Ⅱ）－ 教育の歴史(その四)						
	⑪ 教育における諸問題(その一)						
	⑫ 教育における諸問題(その二)						
	⑬ 教育における諸問題(その三)						
	⑭ 課題と展望						
	⑮ 総括						
成績評価	試験(100%)により評価する						
参考文献等	授業中、適宜紹介する。						
備考							
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時					

科目番号	414	授業科目	公衆衛生学 I (Public health I)				担当者	平 川 英 司
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 個人に対する医学のみでは疾病の予防、治療に限界がある。公衆衛生学は人間を集団とみなし、社会的側面から介入することで人間の健康を維持する学問である。本講では、公衆衛生学を簡単に概説し、個人と集団の違い、社会保障や母子保健の仕組み、日本の社会医療システムを理解することを目的とする。							
	2. 到達目標 公衆衛生学という視点から日常生活に組み込まれている予防、医療制度、社会保険についての理解。							
	3. 事前事後学習 事前学習:テキストによる予習 事後学習:テキスト及び、配布資料による復習							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	公衆衛生総論						
	②	人口と保健統計						
	③	感染症						
	④	予防と健康管理						
	⑤	母子保健						
	⑥	医療制度						
	⑦	国際保健						
	⑧	総括						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	試験と出席で評価							
参考文献等	テキスト: わかりやすい公衆衛生学 第3版 清水忠彦、佐藤拓代 編集 NOUVELLE HIROKAWA(ヌーヴェル・ヒロカワ)							
備考								
	オフィスアワー							

科目番号	415	授業科目	解剖生理学 (Anatomy and Physiology)			担当者	中河 志朗
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	3	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 解剖学生理学では、栄養士に必要な人体の構造と機能および正常な機能を維持するために必要な栄養などに関する知識を修得することをめざす。						
	2. 到達目標 すでに学んだ生化学や生物学の知識を活用しながら、解剖生理学では、新たに、1) ヒトの体の階層性を説明ができる、2) ヒトの体を構成する器官系の構成と働きが説明ができる、3) ヒトの体で正常な機能を維持するために必要な栄養を説明ができる、が到達目標です。						
	3. 事前事後学習 ヒトの体は、化学物質で構成され、機能は化学反応によることが多いため、生化学の知識が人体の構造と機能を理解するためには欠かすことができない。また、毎回授業の最初に前回の授業内容についての小テストを実施するので、復習しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① ヒトの階層性、解剖学用語、細胞の構造と働き						
	② 体における物質の移動、ヒトの四大組織						
	③ 外皮系の構造と働き						
	④ 骨格系の構造と働き						
	⑤ 骨格筋の構造と働き						
	⑥ 神経細胞と脊髄、脊髄神経の構造と働き						
	⑦ 脳と脳神経の構造と働き、睡眠調節						
	⑧ 感覚系の構造と働き						
	⑨ 内分泌系の構造と働き						
	⑩ 血液と心血管系の構造と働き						
	⑪ リンパ管系と脾臓、胸腺の構造と働き、体の防御系						
	⑫ 呼吸器系の構造と働き						
	⑬ 消化器系の構造と働き						
	⑭ 泌尿器系の構造と働き						
	⑮ 生殖器系の構造と働き、ヒトの誕生						
	成 績 評 価	筆記試験(60分で実施)					
授業の開始前に実施する小テスト(20%)と筆記試験(80%)などの結果を総合的に評価する							
参 考 文 献 等	テキスト:「人体の構造と働き(第6版)」(中河志朗著) 参考図書:「カラー図解 人体の正常構造と機能」(坂井ら著)、日本医事新報社						
備 考							
	オフィスアワー	土曜日の授業が終了した直後の30分間(午後12時10分から40分)					

科目番号	416	授業科目	栄養生化学Ⅱ (Biochemistry for Nutrition II)			担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標及び 内容	1. 授業の目的 私たちが健康的に生きていけるのは、体の中で種々の酵素による代謝が、速やかに、滞りなく、正しく行われているからである。そこで、三大栄養素が体内でどのように代謝されるのかについて学ぶ。また、核酸の構造と働き、遺伝のしくみについても学ぶ。栄養士になるために、これらの生命現象の仕組みのすばらしさをよく理解するとともに、栄養士実力認定試験に必要な基礎知識を修得する。						
	2. 到達目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として、三大栄養素の代謝について理解する。 ② 遺伝の仕組みについて理解する。						
	3. 事前事後学習 ① 前期授業内容を踏まえた上での授業であることを強調することにより、復習を促す。 ② 授業の最後に、次回の授業範囲・内容について告知を行うとともに、資料を配布し、授業開始時小テストに毎回を行い、授業の予習を促す。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	解糖系					
	②	クエン酸回路(1)					
	③	クエン酸回路(2)					
	④	糖新生					
	⑤	グリコーゲン					
	⑥	グルコース以外の糖の代謝					
	⑦	体内における脂質の輸送					
	⑧	脂肪酸の生合成					
	⑨	脂肪酸の酸化					
	⑩	コレステロールの代謝					
	⑪	タンパク質・アミノ酸の代謝(1)					
	⑫	タンパク質・アミノ酸の代謝(2)					
	⑬	ヌクレオチド					
	⑭	ヌクレオチドの代謝、遺伝子・核酸・染色体					
	⑮	タンパク質生合成					
	⑯	筆記試験					
成績評価	毎回の授業で行う小テスト(30%) ※出席点を含む 学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施						
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献「ヴォート 基礎生化学」第3版 東京化学同人 「ストライヤー 生化学」第7版 東京化学同人 「イラストレイテッド ハーパー 生化学」第29版 丸善出版 「栄養科学イラストレイティッド 生化学」 羊土社						
備考	パワーポイント使用						
考	オフィスアワー	月曜日、金曜日・16時15分以降(研究室)					

科目番号	417	授業科目	食品学各論 (Food Detailed Explanations)				担当者	吉元 誠
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 各食品群の代表的な素材について、食品の特徴、化学成分、鮮度保持、貯蔵方法などを食品の栄養的価値と関連づけて解説し、食品素材への理解を深めることを目的とする。							
	2. 到達目標 (1) 食品素材の成分特性について理解を深める (2) 各成分の生理的機能について理解を深める							
	3. 事前事後学習 講義では、その日の内容について小試験を実施し、採点后、解答用紙と模範解答を返却している。この事により、予習および復習をするようにしている。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 食品の分類、食料の需給							
	② 植物性食品—穀類							
	③ いも類、甘味料							
	④ 豆類、種実類							
	⑤ 野菜類							
	⑥ 果実類							
	⑦ きのこと類、藻類							
	⑧ 動物性食品—魚介類							
	⑨ 肉類							
	⑩ 卵類							
	⑪ 乳類							
	⑫ 各種食品—食用油脂、菓子類							
	⑬ 嗜好飲料、酒類							
	⑭ 調味料および香辛料類							
	⑮ 調理加工食品類、保健機能食品と健康用食品等							
	⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(70%) 小試験成績(15%) 受講態度15%) 筆記試験は90分で実施							
参考文献等	教科書：【わかりやすい食物と健康② 食品の分類と特性】 吉田 勉 監修、三共出版							
	参考文献：「食べ物と健康I 食品と成分」知地英征 編著 三共出版 五訂食品成分表 香川芳子 監修 女子栄養大学出版部							
備考								
	オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00						

科目番号	418	授業科目	食品加工学 (Food Processing)				担当者	吉元 誠
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 急速に変化する社会環境は食生活にも大きな影響を与え、加工食品の種類や消費量が急増している。このような状況下での食糧資源の有効利用と健全な食生活を維持・管理するために、加工原料となる食品の特性や食品成分の変化および加工法や貯蔵法ならびに青果物の鮮度保持法について理解させる。							
	2. 到達目標 (1)加工時における食品成分の変化について理解する (2)食品の貯蔵法について理解する (3)食品の加工法について理解する							
	3. 事前事後学習 講義では、その日の内容について小試験を実施し、採点后、解答用紙と模範解答を返却している。この事により、予習および復習をするようにしている。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	食品保蔵・加工の目的、食品と微生物						
	②	水分活性、乾燥、塩蔵と糖蔵						
	③	酸貯蔵、燻煙						
	④	低温、加熱、品質保持剤						
	⑤	CA貯蔵とMA貯蔵、放射線照射						
	⑥	食品加工の原理と操作―物理的操作						
	⑦	化学的操作、生物的操作						
	⑧	食品の包装、食品加工の新技術						
	⑨	食品加工と成分変化						
	⑩	食品加工と安全性、保健機能食品、加工食品の規格基準と品質表示						
	⑪	植物性食品の加工						
	⑫	動物性食品の加工						
	⑬	水産加工品、発酵食品						
	⑭	調味料・嗜好食品						
	⑮	インスタント食品、食用油脂、コピー食品						
	⑯	筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(70%) 小試験の成績(15%) 受講態度(15%)※筆記試験は90分で実施							
参考 文 献 等	教 科 書 : ブックス「食品加工学(第2版)」菅原龍幸 編著 建帛社							
	参 考 文 献 : 「食べ物と健康Ⅲ 食品と加工・流通」鮫島邦彦編 著 三共出版 「食べ物と健康Ⅰ 食品と成分」知地英征 編著 三共出版							
備 考								
	オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00						

科目番号	419	授業科目	食品衛生学実験 (Experiments of Food Hygienics)			担当者	村山恵美子
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し、消毒・滅菌の意義を理解することによって衛生観念を高める。化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解することを目的とする。						
	2. 到達目標 1. 消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める。 2. 衛生上の問題点を認識する。 3. 安全な食生活とは何かを理解する。						
	3. 事前事後学習 授業の前に実験書に目を通し、実験内容を理解する。実験後は実験内容をまとめ、レポートとして提出する。						
授業計画	4. 各回の授業内容						
	① 微生物実験の基礎知識						
	② 手指の汚染度検査、空中落下菌、空中浮遊菌の測定						
	③ 水洗法によるふきんの一般細菌数、大腸菌群数(最確数法)の測定						
	④ 洗浄・殺菌法の比較検査						
	⑤ 黄色ぶどう球菌、サルモネラ試験法						
	⑥ 細菌の形態観察						
	⑦ 防腐剤の抗菌力試験、薬剤感受性試験						
	⑧ 耐熱性、紫外線抵抗性試験						
	⑨ 保存料試験						
	⑩ 重金属(スズ)の検出						
	⑪ 食品の腐敗・変質試験(揮発性塩基窒素、ヒスタミン)						
	⑫ 発色剤試験、漂白剤試験						
	⑬ 水質試験						
	⑭ 環境衛生試験						
	⑮ 総括						
	⑯ レポートの提出、筆記試験						
成績評価	レポートの提出状況・受講態度(60%)、筆記試験(60分で実施、40%)						
参考文献等	教科書:藤田修三、山田恭正「食品環境実験 50」医歯薬出版(株)プリント						
備考							
考	オフィスアワー	水・金 9, 10限					

科目番号	420	授業科目	栄養学総論 (Nutrition Science)			担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養生化学Ⅰで学んだことを基にして、人間が生命を維持し、健康的に生きるための栄養の意義について理解する。人間にとって、生命を維持するために欠かすことのできないのが、バランスよく栄養素を摂取することである。そこで、栄養素の種類や、栄養素がどのように消化・吸収されて、どのように代謝され、機能しているのか、1日どのぐらいの栄養素の量が必要なのか、欠乏するとどうなるのか、過剰摂取するとどうなるのか、栄養状態はどのように評価するのか等について学ぶ。						
	2. 到達目標 ① 人間が健康に生きていくために必要な栄養素について理解する。 ② バランスよく栄養素を摂取するための、基礎的な栄養学の知識を修得する。						
	3. 事前事後学習 ① 授業開始時に毎回小テストを行い、前回の授業内容の復習を促す。 ② 授業の最後に、次回の授業範囲・内容について告知を行うとともに、資料を配布し、授業開始時に行う小テストでは、当日授業で行う範囲からも出題することにより、授業の予習を促す。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	糖質の消化吸收					
	②	血糖とその調節、糖質のエネルギー源としての利用					
	③	脂質の消化吸收					
	④	脂質の栄養、タンパク質の消化吸收					
	⑤	タンパク質の消化吸收、タンパク質の栄養					
	⑥	タンパク質の栄養					
	⑦	ビタミンの栄養(1)					
	⑧	ビタミンの栄養(2)					
	⑨	ビタミンの栄養(3)					
	⑩	ビタミンの栄養(4)					
	⑪	無機質(ミネラル)の栄養(1)					
	⑫	無機質(ミネラル)の栄養(2)					
	⑬	無機質(ミネラル)の栄養(3)					
	⑭	水・電解質の代謝					
	⑮	エネルギー代謝、及び摂食行動					
	⑯	筆記試験					
成績 評価	毎回の授業で行う小テスト(30%) ※出席点を含む 学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施						
参考 文献 等	テキスト :エスカベリック「基礎栄養学」 同文書院、プリント配布 参考文献: 健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学」改訂第3版 南江堂 図解入門 メディカルサイエンスシリーズ「よくわかる栄養学の基本としくみ」 秀和システム 「ビタミンの新栄養学」 講談社						
備	パワーポイント使用						
考	オフィスアワー	月曜日、金曜日・16時15分以降(研究室)					

科目番号	421	授業科目	応用栄養学 (Applied Nutrition)				担当者	寺師 睦美	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人の各ライフステージにおける健全な心身の発育・発達のための健康保持および増進に必要な栄養管理を理解する。								
	2. 到達目標 ①人の各ライフステージにおける身体と生理機能の特徴と適切な栄養管理について理解する。 ②生活環境や労作、運動などに対応する適切な栄養管理について理解する。								
	3. 事前事後学習 栄養学総論や関連科目を復習し、「応用栄養学実習」と関連付けて学習する。 適宜、小テストを行う。								
授 業 計 画	4. 各回の授業内容								
	①	栄養マネジメントの基礎							
	②	栄養必要量の科学的根拠							
	③	ライフステージと栄養 妊娠期							
	④	ライフステージと栄養 授乳期							
	⑤	新生児期							
	⑥	幼児期							
	⑦	学童期							
	⑧	思春期							
	⑨	成人期							
	⑩	閉経期							
	⑪	高齢期							
	⑫	労作栄養							
	⑬	運動 スポーツと栄養							
	⑭	環境と栄養							
	⑮	総括							
	成績評価	出席・受講態度 10%、小テスト 20%、定期試験(60分) 70%による総合評価							
参考文献等	テキスト：「マネジメント応用栄養学」 東條仁美・上西一弘 編著 建帛社 参考文献：「日本人の食事摂取基準(2010年版)」 第一出版 配布資料								
備考									
考	オフィスアワー	月曜日13:00～18:00(研究室、事前に連絡すること)							

科目番号	422	授業科目	応用栄養学実習 (Practice of Applied Nutrition)				担当者	寺師 睦美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 各ライフステージの食事摂取基準に基づいた献立作成や調理を学び、望ましい栄養管理の方法を習得する。							
	2. 到達目標 ①各ライフステージの特徴を理解し、適切な栄養量に基づいた献立作成や調理技術を習得する。 ②給食管理実習を効果的に学ぶための基礎知識や実績的な方法を習得する。							
	3. 事前事後学習 各ライフステージの実習内容を予習し、理解した上で授業に臨む。 実習後は、実習内容をまとめてレポートを提出する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	応用栄養学実習の意義・目的						
	②	乳児期栄養(調乳)						
	③	離乳期栄養(授乳・離乳支援ガイド)						
	④	幼児期栄養(保育園給食)						
	⑤	幼児期栄養(保育園の間食)						
	⑥	幼児期・成人期栄養(幼児及び女子短大生の弁当)						
	⑦	学童期の栄養(学校給食)						
	⑧	学童期の栄養(学校給食)						
	⑨	高齢期の栄養 (3世代家族の食事)						
	⑩	〃 (食材別調理の工夫)						
	⑪	〃 (高齢者施設の給食)						
	⑫	高齢者補助食品						
	⑬	高齢期の栄養 (行事食バイキング)						
	⑭	食教育の実践(発表会)						
	⑮	実習の総括						
	成績評価	出席 10%、レポート・献立評価 50%、定期試験(60分) 40%による総合評価						
参考 文 献 等	テ キ ス ト：「応用栄養学実習書」柳沢幸江・板垣裕 他編 建帛社							
	参 考 文 献：「一品料理500選治療食への展開」宗像伸子 編著 医歯薬出版株式会社 五訂増補食品成分表 女子栄養大学出版部 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 厚生労働省策定 第一出版							
備	視聴覚教材(ビデオ・DVD・PC)							
考	オフィスアワー	月曜日13:00～18:00(研究室、事前に連絡すること)						

科目番号	423	授業科目	臨床栄養学総論 (General remarks of ClinicalNutrition)				担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 臨床の現場で栄養管理を実施するために、栄養学的な診断および治療の具体的なシステムや方法を学ぶ。							
	2. 到達目標 1.栄養アセスメントの流れを理解し、臨床的意義を知る。 2.栄養アセスメントにより栄養状態を的確に評価・判定することができる。 3.栄養法の種類を知り、目的に応じた栄養法を選択することができる。							
	3. 事前事後学習 事前学習: 次回の項目を予習しておく。事後学習: 授業で学んだ項目をまとめておく。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 臨床栄養学の基礎							
	② 傷病者の栄養アセスメント＜臨床診査、身体計測＞							
	③ 傷病者の栄養アセスメント＜臨床検査＞							
	④ 傷病者の栄養アセスメント＜食事摂取調査、栄養必要量の算定＞							
	⑤ 栄養ケア＜ケアマネジメントの流れ＞							
	⑥ 栄養ケア＜スクリーニング、アセスメント、目標設定＞							
	⑦ 栄養ケア＜計画作成、モニタリング、再評価＞							
	⑧ 栄養管理記録＜POSにおける栄養管理記録＞							
	⑨ 疾患治療の種類および方法と特徴							
	⑩ 栄養法＜食事療法と栄養補給法＞							
	⑪ 栄養法＜経口栄養補給法＞							
	⑫ 栄養法＜経腸栄養補給法＞							
	⑬ 栄養法＜静脈栄養補給法＞							
	⑭ 各疾患ごとの栄養管理							
	⑮ 総括							
	⑯ 筆記試験							
成績 評価	学期末試験の成績(60%)※筆記試験は60分で実施 小テスト(20%) 受講態度(20%)※出席点を含む							
参考 文 献 等	わかりやすい臨床栄養学(三共出版:吉田勉 他) エッセンシャル臨床栄養学＜第2版＞(医歯薬出版株式会社:佐藤和人 他)							
備 考								
	オフィスアワー	金曜日 9時～12時						

科目番号	424	授業科目	栄養指導論Ⅱ (Nutritional Guidance Ⅱ)			担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養指導論Ⅰで学んだ基礎知識・技法を基に、ライフステージ・ライフスタイル別の生活習慣の実態と問題点を把握し、対象者の状況に応じた具体的な栄養指導の手法を習得することが目的である。						
	2. 到達目標 1.食事摂取基準が理解できる。 2.ライフステージ・ライフスタイル別の栄養指導の要点と問題点を把握し、科学的根拠に基づいた栄養指導計画を立てることができる。また、必要な教材・媒体を選択することができる。 3.対象者の健全な成長・発育、健康寿命の延伸および生活の質(QOL)の向上を目指した栄養教育・栄養指導の知識・技法を習得する。						
	3. 事前事後学習 事前学習: 次回の内容についてテキストを読んでおくこと。事後学習: 授業の内容を理解し、ノートをまとめておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 栄養指導に必要な基礎知識＜日本人の食事摂取基準＞						
	② ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜妊娠・授乳期＞						
	③ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜乳幼児期＞						
	④ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜学童期＞						
	⑤ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜思春期＞						
	⑥ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜成人期＞						
	⑦ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜スポーツ栄養＞						
	⑧ ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導＜高齢期＞＜傷病者および障害者＞						
	⑨ 健康障害と栄養指導＜糖尿病・肥満症・脂質異常症等:エネルギーコントロール食＞						
	⑩ 健康障害と栄養指導＜高血圧症・心臓病等:塩分コントロール食＞						
	⑪ 健康障害と栄養指導＜脂質コントロール食、たんぱく質・塩分コントロール食＞						
	⑫ 食育基本計画の推進と栄養教育						
	⑬ 食事バランスガイドを用いた栄養指導						
	⑭ 栄養指導関連の諸施策＜食生活指針、運動指針、休養指針＞						
	⑮ 総括						
⑯ 筆記試験およびレポート提出							
成績 評価	学期末試験の成績(50%)※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)※出席点を含む						
参考 文 献 等	・イラスト栄養教育・栄養指導論＜第3版＞(東京教学社:城田知子 他) ・栄養士のための栄養指導論＜第2版＞(学建書院:芦川修貳 他) ・日本人の食事摂取基準＜2010年版＞厚生労働省(第一出版) ・日本栄養士会監修 食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル(第一出版) ・糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂:日本糖尿病協会)						
備 考	オフィスアワー 金曜日 9時～12時						

科目番号	425	授業科目	公衆栄養学 (Public health nutrition)			担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 集団の健康問題が栄養管理上どのような因子に基づくのか、そしてその問題解決に栄養はどうあるべきかについて学ぶ。						
	2. 到達目標 1.公衆栄養学の概念を理解する。 2.わが国の栄養政策を理解する。 3.栄養疫学を理解する。						
	3. 事前事後学習 事前学習: 次回の項目を読んでおく。事後学習: 授業で学んだ項目をまとめておく。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 公衆栄養学の概念＜公衆栄養の意義と目的＞						
	② 公衆栄養活動＜公衆栄養活動の歴史＞						
	③ わが国の健康・栄養問題の現状と課題＜食事、食生活、食環境の変化＞						
	④ わが国の健康・栄養問題の現状と課題＜社会環境、健康状態の変化＞						
	⑤ 栄養政策＜公衆栄養関連法規(地域保健法、健康増進法、食育基本法)＞						
	⑥ 栄養政策＜管理栄養士、栄養士養成制度＞						
	⑦ 栄養政策＜国民健康・栄養調査＞						
	⑧ 栄養政策＜健康日本21、食生活指針、食事バランスガイド、特定健康診査・特定保健指導＞						
	⑨ 栄養政策＜諸外国の健康・栄養政策＞						
	⑩ 栄養疫学＜概要、指標、方法＞						
	⑪ 栄養疫学＜食事調査法の種類＞						
	⑫ 日本人の食事摂取基準						
	⑬ 公衆栄養マネジメント＜公衆栄養におけるマネジメントサイクル＞						
	⑭ 公衆栄養マネジメント＜公衆栄養プログラム＞						
	⑮ 公衆栄養マネジメント＜公衆栄養プログラムの展開＞						
⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(60%)※筆記試験は60分で実施 小テスト(20%) 受講態度(20%)※出席点を含む						
参考文献等	「公衆栄養学」講談社サイエンティフィク 山本茂 酒井徹也編 NEW公衆栄養学 (同文書院:大谷八峯 他) 公衆栄養学＜第4版＞(南江堂:田中平三 他) 国民衛生の動向 国民健康・栄養調査結果の概要						
備考							
考	オフィスアワー	金曜日 9時～12時					

科目番号	426	授業科目	調理学実験・実習 (Experiment and Training of Cooking)				担当者	山崎歌織 堂園直子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	実験・実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 調理学の理論や基礎調理をふまえ、調理操作を科学的に裏付けるために、調理過程で食品の調理特性を実践的に扱い、調理の要点を体得する。これらを調理技術面にいかし、再現性良くおいしく作ることを学ぶ。さらに、食味評価により、食事計画(献立作成)への基礎資料とする。							
	2. 到達目標 1. 調理学実験上の心得を意識して実験を行う 2. 実験結果について科学的裏付けについてレポートにまとめられるようにする 3. 行事食や郷土料理を調理し、考察の機会とする							
	3. 事前事後学習 事前配布資料を基に実験方法をフローチャート化し予習を行う。事後にはレポートをまとめる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 調理学実験の心得と諸注意,味覚検査							
	② ～味の好みと適量～ ①塩味							
	③ ②甘味							
	④ ③酸味							
	⑤ ④旨味							
	⑥ なま							
	⑦ 茹でる							
	⑧ 煮る							
	⑨ 蒸す							
	⑩ 寄せる							
	⑪ 正月料理 (山崎・堂園)							
	⑫ 焼く							
	⑬ 混合・攪拌, 混捏・伸展, 浸漬・抽出							
	⑭ 魚料理講習会 (山崎・堂園)							
⑮ 総括								
成績 評価	実験および課題レポート(70%) 受講態度(20%) 実技試験(10%)							
	参考文献等 ○テキスト・・・操作別調理学実習・中野,外西,二木,池田・同文書院 ○参考文献・・・調理と理論・山崎清子,島田キミエ・同文書院 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実験・実習配布プリント							
	備考	オフィスアワー						

科目番号	427	授業科目	学校栄養教育論 (Nutrition Education in School)			担当者	竹原 小菊
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ教職員として、学校給食を実際的な面に即した教材として活用した指導を理論と実践の両面から教育の現場で生かすことができる栄養教諭を目指す。						
	2. 到達目標 1)栄養教諭の役割及び職務内容を理解する。 2)児童生徒の栄養に関する諸課題を把握する。 3)食に関する指導の方法を理解し実践力に繋げる。						
	3. 事前事後学習 1)前期に2年生との栄養教育実習交流会を実施する。2)授業計画表を配布し教科書での予習を促す。 3)毎年1月に開催される栄養教諭等主催の学校給食展に参加させる。 4)2月には観察参加実習(鴨池小)を実施し、引き続き、グループによる模擬授業を実施する。						
授 業 計 画 画	4. 各回の授業内容						
	① 栄養教諭の制度と役割(生きた教材)						
	② 「食に関する指導」の目標と内容(食育基本法)						
	③ 学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけ(学校給食法)						
	④ 学校給食の歴史と食文化の変遷						
	⑤ 子どもの発達と食生活						
	⑥ 「食に関する指導」の全体計画						
	⑦ 各教科等における「食に関する指導」の展開						
	⑧ 給食の時間におけるにおける「食に関する指導」						
	⑨ 体育科における「食に関する指導」 (大村先生)						
	⑩ 家庭科における「食に関する指導」						
	⑪ 特別活動における「食に関する指導」(学級活動)						
	⑫ 家庭・地域と連携した「食に関する指導」						
	⑬ 学校給食における個別対応の進め方(食物アレルギー)						
	⑭ 個別的栄養相談指導のあり方(肥満・やせ・スポーツ栄養等)						
⑮ 総括「よりよい栄養教諭を目指して」							
成績評価	学期末試験の成績(60%) ※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(35%) 受講態度(5%)※出席点を含む						
参考文献等	テキスト : 三訂「栄養教諭論」ー理論と実際ー 金田雅代 編著 建帛社 :「食に関する指導の手引き」第一次改訂版 文部科学省 参考文献 :「食に関する指導の実際」編集代表 金田雅代 小学館 :かんたん!CDーROMですぐできるあなたの学習指導案!〜かごしまの食育実践事例集〜 :「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 :「学習指導要領」(総則・家庭・体育・特別活動) 文部科学省 視聴覚機器 :ビデオ・パワーポイント						
備考	オフィスアワー 月・金曜日(13時～18時)、給食管理研究室(南館104)						

科目番号	428	授業科目	教育心理学 (Educational Psychology)			担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修 ピアヘルパー受験資格必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 教育心理学とは、教育に関する様々な事象を、心理学の方法を用いて研究している学問です。本講義では、人の発達や適応、学習のメカニズムといった事柄に関する基礎的な心理学の用語及びその内容の理解を深め、学習支援や人間関係における適応の支援といった教育活動に活かす基礎を学ぶことを目標とします。						
	2. 到達目標 1.学習、適応、発達などに関する心理学用語を理解する 2.実証的なデータに基づき考える事ができる 3.教育活動と理論を統合させる						
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① オリエンテーション / 教育心理学とは						
	② 発達過程 ①（発達とは何か）						
	③ 発達過程 ②（知的発達）						
	④ 発達過程 ③（社会的発達）						
	⑤ 個人差への対応 ①（個人差の理解）						
	⑥ 個人差への対応 ②（適応とカウンセリング）						
	⑦ 個人差への対応 ③（特別支援教育のシステム）						
	⑧ 学習過程 ①（動機付けと学習）						
	⑨ 学習過程 ②（学習の原理）						
	⑩ 学習過程 ③（知識、スキルの獲得）						
	⑪ 支援の手立て ①（学力と教育評価）						
	⑫ 支援の手立て ②（個に応じた学習指導）						
	⑬ 支援の手立て ③（主体的学びの授業）						
	⑭ 人間関係の理解 ①（学習集団）						
	⑮ 人間関係の理解 ②（教師－生徒関係）						
	⑯ 筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 受講態度およびレポートの提出状況(20点)						
参考文献等	テキスト:杉江修治(編著)「教師教育テキストシリーズ④ 教育心理学」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。						
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。						
	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05（研究室）					

科目番号	429	授業科目	教育方法の研究 (Research in Methodology of Education)			担当者	篠原 祝子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	1年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本科目は、栄養教諭における「食に関する指導」の教育方法の観点から、子どもの心身の発達を担う栄養教諭の役割と学校教育における「食に関する指導」の意義について理解することを目的とする。さらに学校教育における「食に関する指導」の実践的展開(学習指導案の計画や授業の設計)に向けた栄養教諭としての指導力・実践力・理解力を養うことを目的とする。						
	2. 到達目標 (1)学校教育における「食に関する指導」の意義について理解する (2)「食に関する指導」の全体計画の必要性について理解する (3)「食に関する指導」の授業設計ができる						
	3. 事前事後学習 理解を深めるとともに課題等の解決を図るために参考文献や配布資料を基に予習や復習に取り組むこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 学校教育における栄養教諭の役割						
	② 「食に関する指導」の目標と内容						
	③ 「食に関する指導」と学校教育の全体計画(年間指導計画)との関わり						
	④ 「食に関する指導」と「学習指導案」との関わり						
	⑤ 「食に関する指導」計画の原理(「学習指導案」との関わりにおいて)						
	⑥ 「食に関する指導」計画の方法論(「学習指導案」との関わりにおいて)						
	⑦ 「食に関する指導」の実践的展開1～「学習指導案」の計画・作成						
	⑧ 「食に関する指導」の実践的展開2～「学習指導案」の計画・作成・模擬授業						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績評価	受講態度(60%)レポート等の提出状況(40%)					
参考文献等	参考文献 『栄養教諭～理論と実際～(改訂版)』 金田雅代編著、建白社、2008年 『食に関する指導参考資料』 文部科学省編、東山書房、2000年 『小学校学習指導要領』文部科学省、財務省印刷局、1998年 『中学校学習指導要領』文部科学省、財務省印刷局、1998年 『教育の方法と技術(改訂版)』多田敏文編著、学芸図書、2003年 『学びのポリフォニー』山住勝広他著、学文社、1997年 視聴覚機器 Microsoft office Power Point						
備考							
考	オフィスアワー	授業日の授業前および授業後					

科目番号	430	授業科目	公衆衛生学Ⅱ (Public Health Ⅱ)				担当者	安藤 哲夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 WHO(世界保健機構)が掲げる身体的・精神的・社会的に無理なく対応できる健康状態を下に、人々との共生社会を持続させるために必要な衛生・環境・保健・医療・福祉などの知識を習得する。							
	2. 到達目標 1.公衆衛生学における健康に共通性と個別性の認識 2.健康獲得・維持・増進のための知識について学習する 3.健康獲得・維持・増進のための方法について学習する							
	3. 事前事後学習 事前学習内容については各回の講義終了後に課題を告げます。事後学習についても具体的に確認すべき内容を指摘します。							
授 業 計 画 画	4. 各回の授業内容							
	①	公衆衛生学序論						
	②	保健統計						
	③	疫学						
	④	疫学						
	⑤	疾病予防と健康管理						
	⑥	主な疾病の予防						
	⑦	主な疾病の予防						
	⑧	環境保健						
	⑨	環境保健						
	⑩	地域保健・母子保健						
	⑪	地域保健・老人保健・老人福祉						
	⑫	学校保健						
	⑬	産業保健						
	⑭	精神保健						
	⑮	総括						
成績 評価	筆記試験 日常的学習(ミニレポート)30%筆記試験70%を総合して評価する。							
参 考 文 献 等	シンプル衛生 公衆衛生学 編集 小山 洋 南江堂							
備								
考	オフィスアワー	講義終了後、tetsumiando@gmail.com への質問であれば、曜日・時刻に制限はありません。						

科目番号	431	授業科目	社会福祉概論 (Study of Social welfare)				担当者	久永 繁夫
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養士として必要な社会福祉の基礎知識を学ぶ。特に、少子・高齢化社会のなかで社会福祉とそのサービスはどのような変化をしているかについて注目しながら、栄養士と社会福祉のかかわりについての理解を深める。また、社会福祉援助技術について基礎的な理解を深めて、栄養指導等の際に活用できる能力を身につける。							
	2. 到達目標 (1) 社会福祉の現代的意義 (2) 社会福祉の法体系と行財政 (3) 低所得者、高齢障害者福祉制度と社会福祉援助技術							
	3. 事前事後学習 テキストを読み返すこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	社会福祉の現代的意義			(社会福祉の意義と概念)			
	②	社会福祉の現代的意義			(社会福祉の歴史)			
	③	社会福祉の法体系と行政			(社会福祉の法制)			
	④	低所得者対策と生活保護			(社会福祉の法制)			
	⑤	高齢者福祉			(老人福祉法と老人福祉サービス)			
	⑥	高齢者福祉			(介護保険制度)			
	⑦	障害者福祉			(障害者福祉の全体像)			
	⑧	障害者福祉			(身体障害者・知的障害者の福祉)			
	⑨	児童福祉			(少子化対策と児童福祉)			
	⑩	児童福祉			(児童福祉法と児童福祉サービス)			
	⑪	その他の福祉			(高齢者虐待等の権利擁護制度)			
	⑫	社会福祉援助技術			(対人援助の考え方)			
	⑬	社会福祉援助技術			(個別援助技術の原則)			
	⑭	社会福祉の動向と今後の展望						
	⑮	総括(社会福祉と栄養士)						
成績 評価	筆記試験(100点) 60分のテストと小テスト 小テストは社会福祉の法体系に関する基礎的知識について行う。							
参考 文 献 等	テ キ ス ト：片山義弘／李木明德／編著「社会福祉」保育ライブラリー 北大路書房 社会福祉六法 ミネルヴァ書房 そ の 他：適宜ビデオとプロジェクターを使用する。 社会福祉の動向については、新聞記事を使用する。							
備 考								
	オフィスアワー	火・水曜日の午後 研究室						

科目番号	432	授業科目	解剖生理学実験 (Experiments of Anatomy and Physiology)				担当者	竹中 正巳
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得することを目的とする。							
	2. 到達目標 ・循環器系, 感覚器系の理解 ・骨格系, 筋肉系の理解 ・神経系, 呼吸器系の理解							
	3. 事前事後学習 実験の手順を記したプリント, 参考図書をよく読んで実験に臨むこと。実験後は、得られたデータをもとに考察を深め、レポートを作成すること。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① オリエンテーション							
	② 循環に関する実験（血圧[循環器系の形態と機能、血圧とその調節]、運動機能検査）							
	③ 感覚に関する実験Ⅰ（味覚）							
	④ 感覚に関する実験Ⅱ（錯視）							
	⑤ 骨格に関する実習Ⅰ（人体構造の立体的位置関係の把握）							
	⑥ 骨格に関する実習Ⅱ（人体構造の立体的位置関係の把握）							
	⑦ 歯に関する実習Ⅰ（乳歯、永久歯の形態の観察）							
	⑧ 歯に関する実習Ⅱ（永久歯列と無歯顎）							
	⑨ 循環に関する実験（心電図、運動機能検査）							
	⑩ 体温に関する実験（身体各部の皮膚温、体温とその調節機構）							
	⑪ 神経疲労に関する実験(フリッカー試験、疲労とは、視環境・音環境による人体機能の変化)							
	⑫ 疲労とその予防(疲労とは、疲労の原因、疲労の分類、疲労の経過、疲労の測定、疲労の予防、疲労の回復、運動機能検査(健康測定)、体重測定)							
	⑬ 呼吸に関する実験（スパイロメーターを用いた実験、肺機能検査、労働時の呼吸量）							
	⑭ 組織標本の観察							
	⑮ 組織標本の観察							
成績評価	実験ごとのレポート（60点）、筆記試験（30点）、実験態度（10点）							
参考文献等	プリント等を適宜、配布する。 参考図書　：川村一男編 解剖生理学実験 建昌社 1,785円 ：系統看護学講座1 解剖生理学 医学書院 3,990円 ：井上貴央監訳「カラー人体解剖学—構造と機能:マクロからミクロまで」西村書店 8,190円 ：新衛生管理上第1種用 中央労働災害防止協会 1,890円							
備考								
	オフィスアワー	木曜日 12:00 ～ 12:50（研究室）						

科目番号	433	授業科目	生化学実験 (Biochemical Experiment)				担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 実験を通して血液生化学的検査値の読み方、考え方を理解するため、血糖値、血清総タンパク(TP)、尿素窒素などを測定する。また、透析の意義、消化酵素の作用や性質、DNAの性質や利用などについても理解する。							
	2. 到達目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として生化学や栄養学の講義で学んだことを、実験を通して確認し、確かなものにして身につける。 ② 各々の実験の結果を科学的に分析し、考察できるようになる。							
	3. 事前事後学習 実験計画を事前に配布し、事前に学習してこなければ時間内に実験が終了しないことを伝える。また、実験のレポート提出により、事後学習は必須となる。							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	①	検量線とは？(1)検量線を引いてみよう						
	②	検量線とは？(2)検量線を使って定量してみよう						
	③	血糖(グルコース)とタンパク質の定量、透析について						
	④	透析と尿素窒素の測定(1)						
	⑤	透析と尿素窒素の測定(2)						
	⑥	唾液アミラーゼによるデンプンの加水分解						
	⑦	酵素反応の温度依存性						
	⑧	酵素反応のpH依存性(ペプシンとトリプシンによるカゼインの加水分解)						
	⑨	コメ DNA の抽出						
	⑩	DNA の定量と純度検定、およびPCRによる増幅						
	⑪	DNA の電気泳動						
	⑫	犯人は誰だ？(制限酵素によるDNAの切断)						
	⑬	筆記試験						
	⑭							
	⑮							
成績評価	レポートの提出状況(60%) 学期末試験の成績(40%) ※筆記試験は60分で実施							
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「はじめてみよう生化学実験」三共出版							
備 考	パワーポイント使用							
考	オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日・16時15分以降(研究室)						

科目番号	434	授業科目	臨床栄養学各論 (Clinical Nutrition Detailed Exposition)				担当者	寺師 睦美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 傷病者の病態や栄養状態の特徴を学び、適切な栄養管理や疾病予防を理解する。チーム医療における治療の知識や手法を習得する。							
	2. 到達目標 ①各疾患の定義、病因や症状、治療および栄養食事療法について理解する。 ②臨床現場における診断および治療システム、専門用語を学ぶ。							
	3. 事前事後学習 解剖生理学や関連科目を復習し、「臨床栄養学実習」と関連付けて学習する。 適宜、小テストを行う。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 臨床栄養学の基礎							
	② 栄養法							
	③ 消化器疾患の栄養管理 1							
	④ 消化器疾患の栄養管理 2							
	⑤ 循環器疾患の栄養管理							
	⑥ 代謝・内分泌疾患の栄養管理 1							
	⑦ 代謝・内分泌疾患の栄養管理 2							
	⑧ 肝疾患の栄養管理							
	⑨ 膵疾患・胆石症の栄養管理							
	⑩ 腎疾患の栄養管理 1							
	⑪ 腎疾患の栄養管理 2							
	⑫ 呼吸器疾患の栄養管理							
	⑬ 血液・免疫疾患の栄養管理							
	⑭ ライフステージ別疾患の栄養管理							
	⑮ 総括							
	成績評価	出席・受講態度 10%、小テスト 20%、定期試験(60分) 70%による総合評価						
参考文献等	テキスト：「臨床栄養学」 佐藤和人・本間健・小松龍史編 医歯薬出版株式会社 社)全国栄養士養成施設協議会 (社)日本栄養士会 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 日本糖尿病協会 「糖尿病治療ガイド2010」 文光堂 日本糖尿病学会 ・配付資料 ・スライド							
備考								
考	オフィスアワー	月曜日13:00～18:00(研究室、事前に連絡すること)						

科目番号	435	授業科目	臨床栄養学実習 (Practice of Clinical Nutrition)				担当者	寺師 睦美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実験	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 傷病者の栄養管理に必要な食品の選択、調理方法を理解し、病態に対応した献立作成や調理技術を習得する。							
	2. 到達目標 ①各疾患に対応した治療食の特徴と献立作成、調理方法を理解する。 ②各疾患に応じた治療食を作り、比較・評価する。							
	3. 事前事後学習 各疾患の実習内容を予習し、理解した上で授業に臨む。 実習後は、実習内容をまとめてレポートを提出する。							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	①	臨床栄養の基礎(食事計画の作成:常食)				実習書、計算機、成分表		献立①
	②	常食(献立実施)				白衣、包丁、計算機		レポート1
	③	易消化食(食事計画作成)				実習書、計算機、成分表		献立②
	④	易消化食(献立実施)				白衣、包丁、計算機		レポート2
	⑤	食塩制限食(食事計画作成)				実習書、計算機、成分表		献立③
	⑥	食塩制限食(献立実施)				白衣、包丁、計算機		レポート3
	⑦	エネルギーコントロール食(食事計画作成①)				実習書、計算機、DM交換表		
	⑧	エネルギーコントロール食(食事計画作成②)				実習書、計算機、DM交換表		献立④
	⑨	エネルギーコントロール食(献立実施)				白衣、包丁		レポート4
	⑩	たんぱく質コントロール食(食事計画作成①)				実習書、計算機、腎交換表		
	⑪	たんぱく質コントロール食(食事計画作成②)				実習書、計算機、腎交換表		献立⑤
	⑫	たんぱく質コントロール食(献立実施)				白衣、包丁、腎交換表		レポート5
	⑬	脂質コントロール食(食事計画作成①)				実習書、計算機、成分表		
	⑭	脂質コントロール食(食事計画作成②)				実習書、計算機、成分表		献立⑥
	⑮	脂質コントロール食(献立実施)				白衣、包丁、成分表		レポート6
成績評価	出席 10%、レポート・献立評価 50%、定期試験(60分) 40%による総合評価							
参考文献等	テキスト:「臨床栄養学実習書」医歯薬出版 玉川和子・口羽章子・木戸詔子 編著 「糖尿病食事療法のための食品交換表」:文光堂 日本糖尿病学会編 「腎臓病食品交換表」:医歯薬出版 黒川清 監修 「一品料理500選治療食への展開」 宗像伸子 編著 医歯薬出版株式会社							
備考								
	オフィスアワー	月曜日13:00～18:00(研究室、事前に連絡すること)						

科目番号	436	授業科目	栄養指導実習Ⅰ (Practice of Nutrition EducationⅠ)				担当者	改元 香
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養指導論Ⅰ・Ⅱで得られた知識や技術を土台にして、健康・栄養状態、食行動、食習慣の評価・判定に基づき、栄養教育および栄養指導の指導案を作成し、教育することを実習を通して習得する。							
	2. 到達目標 1.個人の栄養状態、健康状態を把握することができる。 2.栄養アセスメントが出来る。 3.栄養指導の指導案を作成し、教育することができる。							
	3. 事前事後学習 事前学習:栄養指導論Ⅰ・Ⅱに関連する項目を予習しておく。事後学習:実習で学んだことをまとめる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 栄養教育・栄養指導の基礎知識＜食事摂取基準＞							
	② 栄養教育・栄養指導の基礎知識＜食品構成の作成＞							
	③ 栄養教育・栄養指導の基礎知識＜食品構成表の作成および献立作成＞							
	④ 栄養教育・栄養指導の基礎知識＜食品構成の作成および献立作成(ソフト使用)＞							
	⑤ 実態把握の方法＜栄養・食事調査＞							
	⑥ 実態把握の方法＜生活調査＞							
	⑦ 実態把握の方法＜身体状況調査＞							
	⑧ 食生活に関する情報の収集＜文献検索＞							
	⑨ 栄養教育法＜個人を対象とした教育、集団を対象とした教育、カウンセリング＞							
	⑩ 栄養教育法＜栄養教育指導案の作成＞							
	⑪ 栄養教育法＜栄養教育における媒体作成＞							
	⑫ 栄養教育法＜プレゼンテーションの技術＞							
	⑬ 傷病者のための栄養指導＜症例に基づいた栄養教育・栄養指導＞							
	⑭ 傷病者のための栄養指導＜症例に基づいた栄養教育・栄養指導＞							
	⑮ 栄養教育・栄養指導と統計学							
⑯ 筆記試験								
成績評価	学期末試験の成績(50%)※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)※出席点を含む							
参考文献等	・演習栄養教育・栄養指導＜第5版＞(医歯薬出版株式会社 大里進子 他) ・日本人の食事摂取基準＜2010年版＞厚生労働省(第一出版) ・日本栄養士会監修 食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル(第一出版) ・糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂:日本糖尿病協会) ・NEXT 栄養教育論実習(講談社サイエンティフィク: 片井加奈子 他)							
備考	栄養指導資料作成ソフトを使用する (メディアカロリーの使用料3,500円を徴収します)							
	オフィスアワー							

科目番号	437	授業科目	食事環境の設計 (Planning of Kitchen and Dining room)			担当者	古川 恵子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年 ・ 前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 「給食経営管理」の施設・設備管理についての理解と、在宅ケアが進められる中で住宅の食空間に関しても高齢者や障がい者自らが調理・食事することを視野に入れ、施設・住宅の計画・管理に必要な基礎知識を習得することを目的とする。						
	2. 到達目標 1. 給食施設(厨房・食堂)・設備管理を理解する。 2. 厨房の設計図の読み方、内装仕上げ材の理解。作業内容と厨房計画の関連性を理解する。 3. 高齢者・障がい者に配慮した調理・食事空間を理解する。						
	3. 事前事後学習 テキストを読んで講義に臨み、復習をしてわからないことは質問等で解決すること。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 給食施設・設備管理の概要、関連法規、調理室の位置、面積、形態						
	② 調理室の内装、語句の説明						
	③ 調理室の関連設備－給排水、給湯、排水設備、ガス、電気、照明						
	④ 調理室の関連設備－空調設備、換気設備(換気の種類)、防火						
	⑤ 調理室内の機械・器具、レイアウト・図面－建築図面の見方、作業動線と機器の配置						
	⑥ レイアウトの具体例－事例に見る厨房計画						
	⑦ 日常の保守管理、高齢者・障害者の調理空間、食事空間計画						
	⑧ 高齢者・障害者に配慮した調理空間、食事空間計画(福祉施設を含む)						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	・筆記試験(100%)による。 ※60分で実施。						
参考文献等	・テキスト:『給食管理』のテキスト使用 ・プリント資料(厨房計画) ・パワーポイント、DVD使用						
備考							
考	オフィスアワー	水曜日を除く月～金曜日の16:10-17:30					

科目番号	438	授業科目	給食実務演習 (Seminar of Food Service Management)				担当者	竹原 小菊
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前後期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 給食管理実習Ⅰは、給食運営の計画・実践・評価の技術を習得することを目標としている実習である。そこで、本演習では、学生がPDCAサイクルを辿りながら、研究的、積極的かつ円滑に学内実習の準備、本番実習、事後の反省・評価の内容とプロセスを習得することを目的とする。							
	2. 到達目標 1) 給食運営に関するPDCAサイクルを理解する。 2) 学内実習の事前準備、本番実習、事後の評価の内容をを理解する。 3) 2)のプロセスを習得し実践に繋ぐ。							
	3. 事前事後学習 1) 1年後期終了後等に時間を確保し、2年の学内実習に向け準備をする。 ①1月～4月(春休み中、前期開講前まで)の計画を提示②課題(献立作成・試作・一言アドバイス等)の提示 ③給食管理実習Ⅰの実施献立の決定及び試作(1回目) 2) 本番の実習終了後、実習記録の記入(各自)及び帳票類の整理(各班)							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	栄養管理	： 給与栄養目標量の算定、食品構成表の作成					
	②	〃	： 献立作成(予定)					
	③	〃	： 試作、試食					
	④	〃	： 献立表作成(実施)					
	⑤	衛生管理	： 人・食品材料・施設設備・調理機器・食器等					
	⑥	〃	： 調理工程における衛生管理					
	⑦	食材料管理	： 食材料の購入計画・発注方法					
	⑧	〃	： 食材料の検収・保管					
	⑨	生産管理	： 大量調理の特性					
	⑩	〃	： 作業工程表の作成					
	⑪	事務管理	： 書類の整備・保管					
	⑫	原価管理	： 予算、決算、金銭出納					
	⑬	栄養教育	： 食教育パネル、一言アドバイス、食事バランスガイド、献立説明原稿作成					
	⑭	反省・評価	： 栄養・食事の評価(残菜調査・栄養出納)・衛生の評価・作業の評価					
	⑮	総括	： 品質評価(嗜好調査)会計評価・原価評価					
成績評価	学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(20%) 受講態度(10%)※出席点を含む							
参考文献等	テキスト：給食マネジメント実習 編集 齋藤 貴美子 (株)学建書院 改訂新版「大量調理～品質管理と調理の実際～」 殿塚 婦美子 編集 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 参考文献：エスカペーシック「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 食品成分表 女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準(2010年版)」厚生労働省策定検討委員会報告書 第一出版 視聴覚機器 :ビデオ・パワーポイント							
備考								
	オフィスアワー	前期【火・木曜日(15時～18時)】、後期【水・金(15時～18時)】給食管理研究室						

科目番号	439	授業科目	給食管理実習Ⅰ(学内実習) (Practice of Service ManagementⅠ)				担当者	竹原 小菊
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・前後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 この実習は、給食管理、応用栄養学実習、調理学及び実験・実習、栄養学総論、食品学各論、食品衛生学実験等の講義や実習で学んだ基礎的知識を生かし、実際に学生を対象とした給食(大量調理)を実施し、給食運営の計画、実践、評価の方法・技術を習得し、特定給食施設の栄養士の業務を身に付ける。							
	2. 到達目標 1) 給食管理・調理学実習等で学んだ知識・技術を生かす。 2) 給食運営の計画・実践・評価の方法・技術を習得する。 3) 学生を対象にした給食を実施する技能を習得する。							
	3. 事前事後学習 ①1月～4月(春休み中、前期開講前まで)の計画を提示 ②課題(献立作成・試作・一言アドバイス等)の提示 ③給食管理実習Ⅰの実施献立の決定及び試作(1回目) ④本番の実習終了後反省会(時間外)の実施(各班3回) ⑤「給食マネジメント実習」帳票の記帳による自己評価							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画	①	オリエンテーション						
	②	献立作成(1回目)						
	③	試作・検討						
	④	食材料管理(発注書作成)、作業管理(作業役割表、作業工程表作成等)					1回	
	⑤	衛生管理実習(実習班の衛生管理チェックの方法の検討・チェック・評価・提言)						
	⑥	実習打合せ(衛生管理・大量調理・調理工程等)、食教育(食育パネル、一言アドバイス、献立説明)						
	⑦	大量調理実習(検収・保管・調理作業・配食・供食・食事環境の整備・食教育)						
	⑧	実習反省会及び帳票整理(報告書作成)						
	⑨	献立作成(2回目)※②～⑧までを繰り返す						
	⑩	試作・検討						
	⑪	食材料管理(発注書作成)、作業管理(作業役割表、作業工程表作成等)						
	⑫	衛生管理実習(実習班の衛生管理チェックの方法の検討・チェック・評価・提言)					2回	
	⑬	実習打合せ(衛生管理・大量調理・調理工程等)、食教育(食育パネル、一言アドバイス、献立説明、食事バランスガイド)						
	⑭	大量調理実習(検収・保管・調理作業・配食・供食・食事環境の整備・食教育)						
	⑮	実習反省会及び帳票整理(報告書作成)						
成績評価	実習態度(50%)[4回の本番実習は必須] 実習ノート・レポート・実習記録表の提出(40%) 受講態度(10%) ※出席点を含む							
参考文献等	テキスト：給食マネジメント実習 編集 齋藤貴美子 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 改訂「大量調理一品質管理と調理の実際」編集 殿塚婦美子 学建書院 参考文献：エスカベリック「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 食品成分表 女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準[2010版]」厚生労働省策定検討会報告書 第一出版 一品料理 500選～治療食への展開～ 医歯薬出版株式会社 視聴覚機器：パワーポイント・ビデオ等							
備考	オフィスアワー 前期【火・木曜日(15時～18時)】、後期【水・金(15時～18時)】給食管理研究室							

科目番号	440	授業科目	給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導 (Guidance for Practice of Food Service Management Ⅱ・Ⅲ)				担当者	竹原 小菊 寺師 睦美
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 6月に実施される給食管理実習Ⅱを履修するに当たって必要な知識・技能・態度を養う。							
	2. 到達目標 1) 実習の意義・目的を正しく理解し、相応しい態度で実習に臨めるようにする。 2) 栄養士に必要な献立作成能力や調理技術等基礎的な技能を培う。3) 実習の成果を今後の進路に生かそうとする態度を養う。							
	3. 事前事後学習 1) 実習施設の概要等、情報収集を行い施設の内容、特徴を調べておく。 2) 何を学びたいか、計画的な目的・目標を持つ。 3) 実習施設での実習内容を予め把握し、予習や予備練習を行う。 4) 実習施設から提示された課題について取り組む(献立作成、試作、食育指導案等) 5) 学外実習交流会にて1年生を指導する。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	給食管理実習(学外実習)事前オリエンテーション(実習施設への事前訪問等について) (竹 原)						
	②	実習の目的と内容(保育所)・「実習に当たっての抱負と課題」の作成完了・献立作成等 (竹 原)						
	③	実習の目的と内容(高齢者施設等)・「実習に当たっての抱負と課題」の作成完了・献立作成等 (竹 原)						
	④	実習目的と内容(学校給食)・「実習に当たっての抱負と課題」の作成完了・献立作成等 (竹 原)						
	⑤	卒業生による保育所、高齢者施設、学校等の栄養士の業務内容や実習生心得 (竹原 寺師) について事前指導を行う。						
	⑥	給食管理実習(学外実習)心得及び実習先の課題(献立作成、食育指導案等)完了 (竹 原)						
	⑦	給食管理実習Ⅱ体験発表 (竹 原)						
	⑧	実習Ⅲの意義と目的、心得と注意点の説明 (寺 師)						
	⑨	実習関係書類について (寺 師)						
	⑩	実習先施設の特徴と栄養士業務の理解 1 (寺 師)						
	⑪	実習先施設の特徴と栄養士業務の理解 2 (寺 師)						
	⑫	施設別課題演習 1 (寺 師)						
	⑬	施設別課題演習 2 (寺 師)						
	⑭	総括 (寺 師)						
成績評価	課題提出状況(70%)、発表等(20%)、受講態度(10%)※出席点を含む							
参考文献等	テキスト：「給食管理実習Ⅱ記録」「給食管理実習Ⅲ記録」 参考文献：エスカパーシク「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)、同文書院 管理栄養士・栄養士必携 (社)日本栄養士会編 第一出版 給食マネジメント演習 編集齋藤貴美子 学建書院 改訂新版「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚 婦美子 編集 学建書院 「衛生管理&調理技術マニュアル」文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 応用栄養学実習書・食品成分表・臨床栄養学実習書 「食品交換表」：日本糖尿病学会編 文光堂 「腎臓病食品交換表」：中尾俊之他編 医歯薬出版株式会社							
備考	オフィスアワー	【月曜日(13時～18時)火・木曜日(15時～18時)】給食管理研究室					(竹 原)	
		【月曜日(13時～18時)研究室					(寺 師)	

科目番号	441	授業科目	給食管理実習Ⅱ(学外実習) (Practice of Food Service Management Ⅱ)				担当者	竹原 小菊
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学外実習先で給食運営に必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を 現職の栄養士の下経験し栄養士として具備すべき知識、技能、態度及び考え方を習得する。							
	2. 到達目標 1)各特定給食施設の給食について理解する。 2)各特定給食施設の栄養士の役割について理解する。 3)給食サービス提供に関する専門的スキルを身に付ける。							
	3. 事前事後学習 1)実習先に提出する「実習に当たっての抱負と課題」について考えをまとめる。 2)実習先の給食運営に関する情報を収集する。 3)実習先の課題(試作を含む献立作成、教材を含む食育指導案等)に取り組む。 4)実習後、チェックリスト等に基づき自己評価をする。							
	4. 各回の授業内容							
授 業 計 画 画	①	学外の実習施設により指示される実習日程に従って実習を行う。 実習先に事前訪問をし実習概要、実習日程、課題設定、諸注意などについて指導を受ける。						
	②	どのような法律に基づいて給食が提供されているのかを学ぶ。						
	③	献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務に必要な知識を学ぶ。						
	④	大量調理の特性と留意点を知り、生産(調理)作業にどのように反映されているのかを学ぶ。						
	⑤	衛生管理が給食の現場で具体的にどのように実施されているのかを学習し、体験する。						
	⑥	給食運営を行うための施設・設備管理、作業管理、作業領域について学ぶ。						
	⑦							
	⑧							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
成績 評価	学外実習先の評価及び、出席、実習記録等による総合評価 ※評価の観点 給食管理の理解、献立作成立、現場技術、 実習記録、実習態度、食に関する指導等、							
参考 文献 等	テキスト:「給食管理実習Ⅱ記録」 参考文献:「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)同文書院 管理栄養士・栄養士必携(社)日本栄養士会編 第一出版 「給食マネジメント演習」学建書院、「大量調理～品質管理と調理の実際」学建書院 「衛生管理&大量調理マニュアル」、「応用栄養学実習書」、「食品成分表」、栄養管理ソフト「メディ							
備 考	・ 実習の記録は実習ノート(給食管理実習Ⅱ記録)を使用する。 ・ 実習希望施設への挨拶等は学生自身が行う。							
	オフィスアワー	金曜日(13:00～18:00)給食管理研究室(南104)						

科目番号	442	授業科目	給食管理実習Ⅲ(学外実習) (Practice of Food Service Management Ⅲ)				担当者	改元 香
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学外実習先で給食運営に必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を現職の栄養士の下経験し、栄養士として具備すべき知識、技能、態度及び考え方を給食管理実習Ⅱをふまえて習得することで、より実践的なスキルを身につける。							
	2. 到達目標 1) 各給食施設の給食について理解する。 2) 各給食施設の栄養士の役割について理解する。 3) 給食サービス提供に関する専門的技能を身に付ける。							
	3. 事前事後学習 1) 実習先に提出する「実習に当たっての抱負と課題」について考えをまとめる。 2) 実習先の給食運営に関する情報を収集する。 3) 実習先の課題(試作を含む献立作成、教材を含む食育指導案等)に取り組む。 4) 実習後、チェックリスト等に基づき自己評価をする。							
授 業 計 画	3. 授業計画							
	①	学外の実習施設により指示される実習日程に従って実習を行う。						
	②	実習先に事前訪問をし実習概要、実習日程、課題設定、諸注意などについて指導を受ける。						
	③	どのような法律に基づいて給食が提供されているのかを学ぶ。						
	④	献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務に必要な知識を学ぶ。						
	⑤	大量調理の特性と留意点を知り、生産(調理)作業にどのように反映されているのかを学ぶ。						
	⑥	衛生管理が給食の現場で具体的にどのように実施されているのかを学習し、体験する。						
	⑦	給食運営を行うための施設・設備管理、作業管理、作業領域について学ぶ。						
	⑧	総 括						
成績 評価	学外実習先の評価及び、出席、実習記録等による総合評価 ※評価の観点 栄養管理と給食管理の理解、献立作成立、現場技術、 実習記録、実習態度、食に関する指導等、							
参考 文献 等	テキスト：「給食管理実習Ⅲ記録」 糖尿病治療ガイド(文光堂:日本糖尿病学会編)							
	参考文献:「給食の運営」計画と実務、芦川修貳(編著)同文書院 管理栄養士・栄養士必携(社)日本栄養士会編 第一出版 「給食マネジメント演習」学建書院、「大量調理～品質管理と調理の実際」学建書院 「衛生管理&大量調理マニュアル」、「応用栄養学実習書」、「食品成分表」、栄養管理ソフト「メディカロリー」 「腎臓病食品交換表」:中尾俊之他編 医歯薬出版株式会社 「腎臓病食品交換表」:中尾俊之他編 医歯薬出版株式会社							
備 考	・実習の記録は実習ノート(給食管理実習Ⅲ記録)を使用する。 ・実習希望施設への挨拶等は学生自身が行う。							
	オフィスアワー	6月の実習前までは随時(給食管理実習室)						

科目番号	443	授業科目	調理学実習Ⅱ (Cooking Practice Ⅱ)				担当者	馬場 慎子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	選択	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修 フードスペシャリスト資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 食はいのちにつながるものを基本とし、調理学実習Ⅰの基礎をふまえ、調理を科学的・文化的にとらえる。楽しい食卓作りのために伝統的な和食、郷土料理の価値を再認識し、異なる国の食文化の様式、健康法、マナーを理解し、総合的に調理する。それにより、ライフステージの中で幅広い料理を主体的に提供できるようになることを目的とする。							
	2. 到達目標 ① 食材に関する基礎的知識を身につける。 ② 調理の基本動作と技術、実習の心得えを身につける。 ③ 和食を中心に、異なる国の食文化の料理法と健康法を理解し、調理する。							
	3. 事前事後学習 調理実習前には、レシピをフローチャートに展開し、調理手順、使用する調理器具、食器などを想定してみる。実習後は、その料理について、各自考察しフローチャートを完成させる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	食事計画、調理基本動作、実習の心得(段取り、下処理、調味率、器具の取り扱い)、フローチャートの書き方、ライフステージによる日常食の検証、食の文化遺産について						
	②	日本料理						
	③	郷土料理						
	④	日本料理(おたのしみ弁当)						
	⑤	朝食献立(和・洋)						
	⑥	西洋料理						
	⑦	製菓と軽食(イングリッシュ・ティーパーティ)						
	⑧	中国料理						
	⑨	中国料理						
	⑩	イタリア料理・地中海式ダイエット料理						
	⑪	エスニック料理(ハーブ・スパイスを用いた料理)						
	⑫	防災食・総括						
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績 評価	受講態度(40%)、レポート(30%)、試験(30%)							
参 考 文 献 等	・操作別調理学実習(同文書院)松元文子、外西壽鶴子 ・「調理」鹿児島調理研究会 佐藤ミキ子、福司山エツ子 ・調理と理論(同文書院)山崎清子、渋谷祥子 ・必要に応じて、資料配布							
備 考	オフィスアワー							

科目番号	444	授業科目	食品加工学実習 (Food Processing Practice)				担当者	吉元 誠
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 食生活における加工食品の占める比率は近年著しく増加している。この実習は食品学、食品加工学等の講義をふまえて、食品成分とその変化、食材の物性や栄養価、食品の保蔵性や安全性などを理解しながら加工技術を習得し、広く食糧資源の確保と有効利用に役立てることを目標とする。							
	2. 到達目標 穀類(米、小麦粉)、豆類(大豆、小豆)、いも類、果実、野菜、肉、牛乳、卵、海藻類等を材料にして、パン、うどん、漬物、マーマレード、まんじゅう等の加工品を毎日1～2種類製造する。							
	3. 事前事後学習 実習終了時には、実習に関連する課題と実験のレポート提出を義務づけ、翌週の実習開始までに提出させる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	植物性食品(米－大福もち、小麦粉－バターロール、うどん、ビスケット、カボチャ馒头等)の加工						
	②							
	③							
	④							
	⑤	植物性食品(いも－大学芋、いきなり団子、大豆－豆腐、種実－ピーナツクリーム等)の加工						
	⑥							
	⑦							
	⑧	植物性食品(果実－梅漬け、マーマレード等)の加工						
	⑨							
	⑩							
	⑪	植物性食品(漬物等)						
	⑫							
	⑬							
	⑭	動物性食品の加工(豚味噌)						
	⑮							
⑯								
⑰	海産物の利用(ところてん、佃煮)							
⑱								
⑲								
⑳	微生物利用食品(ヨーグルト、納豆、ミソ等)の製造							
㉑								
㉒								
成績評価	受講態度(50%) レポート(50%)							
参考文献等	参考文献： 「食品加工実習」 徳満 巖ら 共著							
備考	加工原料は収穫時期が変動するものがあるため、予定表は実習開始日に配布する。							
考	オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00						

科目番号	445	授業科目	くらしとお茶B (Life and Tea)			担当者	村山恵美子・山崎歌織 松崎康弘・大城光高・中禮雅治 住澤知之・有馬恵子	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年 ・ 前期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	日本茶アドバイザー受験資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法、品質検査や鑑定法等、日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけるとともに、茶文化の発展と普及に寄与する人材となることを目指す。							
	2. 到達目標 1.日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する。 2.茶に関する知識と理解を深める。							
	3. 事前事後学習 事前に教科書を読み、授業の概要を把握する。授業後は学習した内容を実際の生活の中で実行する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	日本茶アドバイザーの概要					(村山)	
	②	日本茶の歴史、鹿児島茶の歴史					(松崎)	
	③	茶と食育					(山崎)	
	④	茶業のあらまし					(大城)	
	⑤	茶の栽培と製造					(大城)	
	⑥	茶の利用					(大城)	
	⑦	茶のサイエンス					(村山)	
	⑧	茶の効能・効果					(住澤)	
	⑨	茶の品質検査、鑑定法					(中禮)	
	⑩	〃					(中禮)	
	⑪	インストラクション技術(服装、話し方、接客)					(有馬)	
	⑫	インストラクション技術(茶の入れ方)					(中禮)	
	⑬	〃					(中禮)	
	⑭	〃					(中禮)	
	⑮	〃					(中禮)	
⑯	筆記試験							
成績評価	小テスト70%、試験等30%							
参考文献等	教科書： 日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ/NPO法人日本茶インストラクター協会							
備考								
	オフィスアワー	各講義終了後						

科目番号	446	授業科目	教育課程の研究 (Teaching Method)			担当者	横峯 孝昭
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校における体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする(学習指導要領総則1の3)。健康に関する指導を実践するために、学校の教育計画である教育課程、さらには、その基準となる学習指導要領について十分理解する。						
	2. 到達目標 (1)教育課程編成の基準となる法律について理解する。 (2)教育課程編成の基準となる学習指導要領について理解する。						
	3. 事前事後学習 学習指導要領の総則を具体的に読み解いていく。実際に学習指導要領を全部読むことを講義中に行なわないため、前もって目を通しておくこと、講義後はどの場所を今回読み解いていったのかという観点で目を通しておくこと。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	①	教育課程と学習指導要領					
	②	教育課程の基準と法令					
	③	教育課程編成の原則及び一般方針					
	④	各教科の目標と内容の取扱い					
	⑤	授業時数及び指導計画の作成					
	⑥	道徳・特別活動・総合的な学習の時間					
	⑦	学校保健・安全に関すること					
	⑧	人権・同和教育に関すること					
	⑨	筆記試験					
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
成績評価	筆記試験(70%)、受講態度(30%)						
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省 中学校学習指導要領 文部科学省						
備考							
	オフィスアワー	火・木・金の講義のない時間					

科目番号	447	授業科目	栄養教育実習事前事後指導 (Nutrition Education in school)				担当者	山崎 歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養教育実習の意義・目標を理解し、教育実習生としての心得や栄養教育実習に必要な知識と技術を習得し、実習を実り多き内容にする。							
	2. 到達目標 1. 栄養教育実習の意義・目的を理解する 2. 学習指導案および関係資料を作成できるようにする 3. 実習後には今後の課題を明確にする							
	3. 事前事後学習 提出物の期限を守れるよう事前準備を行い、事後には資料の整理をする。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 栄養教育実習事前オリエンテーション							
	② 栄養教育実習の流れ							
	③ 実習記録等の記録及び提出について							
	④ 学習指導案の作成(実態把握・計画・展開・評価) 1							
	⑤ 学習指導案の作成(実態把握・計画・展開・評価) 2							
	⑥ 「食に関する指導」(個別指導・集団指導・教材作成)							
	⑦ 栄養教育実習心得							
	⑧ 栄養教育実習体験発表							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績 評価	課題提出(60%) 受講態度(40%)							
	参考文献： 「食に関する指導の手引き」 文部科学省 三訂 栄養教諭論 理論と実際 金田雅代 編著 建帛社 かんたん！CD-ROMですぐできるあなたの学習指導案！～かごしまの食育実践事例集～鹿児島県 小学生・中学生向け「食事バランスガイド」活用事例集 農林水産省 「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 「学習指導要領」文部科学省 鹿児島市食育推進計画							
備								
考	オフィスアワー		金曜日午後(研究室)					

科目番号	448	授業科目	栄養教育実習 (Practice Nutrition Teacher in school)				担当者	山崎 歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・前期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 栄養教諭の職務や学校での役割り等を理解した上で、児童生徒への指導方法を学ぶ。							
	2. 到達目標 1. 栄養教諭の職務を理解し、体験する 2. 児童生徒への授業の実際を学び実践する 3. 教職員として責任ある教育活動を営みうる実践力を養う							
	3. 事前事後学習 実習課題を行い、各実習校で十分に学習できるように事前準備を怠らない。事後には資料の整理をし、実習記録ほか提出物を提出する。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 学校経営・校務分掌・教員の服務等の指導講話							
	② 「食に関する指導」の年間計画の説明							
	③ 給食時間における給食放送指導、配膳、後片付け指導の参観・補助							
	④ 「食に関する指導」「学級活動」等児童生徒への教科・特別活動等における授業の参観・教材研究・実施・授業研究等							
	⑤ 「食に関する指導」の家庭、地域との連携、調整の参観・補助							
	⑥ 児童生徒への個別的(肥満・ダイエット・食物アレルギー等)な相談、指導の場の参観・補助							
成績 評価	最終的な評価は、実習校の評価を中心に「栄養教育事前事後指導」(講義)の成果を含めて総合的に行う。 実習の態度:積極的な取り組み、謙虚な態度、責任ある行動 実習の実践:児童生徒との触れ合い、「食に関する指導」の教材研究、教科指導、学習指導案等の立案作成 実習の記録:実習日誌、その他の提出物							
参考 文 献 等	参考文献: 「食に関する指導の手引き」 文部科学省 三訂 栄養教諭論 理論と実際 金田雅代 編著 建帛社 かんたん! CD-ROMですぐできるあなたの学習指導案! 〜かごしまの食育実践事例集〜鹿児島県 小学生・中学生向け「食事バランスガイド」活用事例集 農林水産省 「食生活指針」文部科学省、厚生労働省、農林水産省 「学習指導要領」文部科学省 鹿児島市食育推進計画							
備 考	実習参加要件: 本学学外実習委員会による教育実習参加資格審査会において、 資格審査に合格し、教授会の審議を経て参加が認められる。(学生便覧参照)							
	オフィスアワー	金曜日午後(研究室)						

科目番号	449	授業科目	運動生理学 (Sports Physiology)				担当者	大村一光
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体 の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するかを明らかにする。学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、これらの諸器官の働き、変化をウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して解説することで理解を深められるようにする。							
	2. 到達目標 (1) 人体各種機能の理解 (2) 運動に伴う機能の変容 (3) 指導場面への応用							
	3. 事前事後学習 生理学等での学習内容の事前理解をはかる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)						
	②	運動と骨格筋(収縮メカニズムと筋肉のタイプ、運動による筋肉の適応)						
	③	運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動の種類、その効果)						
	④	運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動の種類、その効果)						
	⑤	運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)						
	⑥	運動と循環(運動による循環系への適応、スポーツ心臓)						
	⑦	運動と神経(運動と技能の上達、神経系の役割)						
	⑧	運動と骨(骨粗しょう症、運動の効果)						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績 評価	筆記試験(60%)、レポート提出、受講態度等(40%)						
参考 文献 等	テキストは使用しない(毎回、印刷資料を配布する) パワーポイントを使用 石井喜八 他:運動生理学概論、大修館							
備 考								
	オフィスアワー	金曜日10:30～12:00, 13:00～16:00						

科目番号	450	授業科目	病態生化学 (Pathologic biochemistry)				担当者	住澤 知之
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 体内での代謝異常、遺伝病、免疫の働きとその破たんによる疾患、種々ホルモンの働きによる恒常性の維持について学ぶ。栄養士になるために、疾患、治療の基本的な考え方をよく理解するとともに、栄養士実力認定試験に必要な基礎知識を修得する。							
	2. 到達目標 ① 栄養士に必要な基礎知識として、疾患、治療の基本的な考え方を理解する。 ② 生体における恒常性の維持について理解する。							
	3. 事前事後学習 ① 1年次の授業内容を踏まえた上での授業であることを強調することにより、復習を促す。 ② 授業の最後に、次回の授業範囲・内容について告知を行うとともに、資料を配布し、授業開始時に小テストを毎回行い、授業の予習を促す。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	タンパク質生合成						
	②	免疫と生体防御(1)						
	③	免疫と生体防御(2)						
	④	免疫と生体防御(3)						
	⑤	内分泌系(1)						
	⑥	内分泌系(2)						
	⑦	内分泌系(3)						
	⑧	総括						
	⑨	筆記試験						
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	毎回の授業で行う小テスト(20%) ※出席点を含む 学期末試験の成績(80%) ※筆記試験は30分で実施							
参考文献等	テキストは使用しない。プリント配布 参考文献:「ヴォート 基礎生化学」 第3版 東京化学同人 「ストライヤー 基礎生化学」 東京化学同人 「栄養科学イラストレイティッド 生化学」 羊土社							
備	パワーポイント使用							
考	オフィスアワー	月曜日、金曜日・16時15分以降(研究室)						

科目番号	451	授業科目	栄養指導実習Ⅱ (Practice of Nutrition EducationⅡ)				担当者	改元 香
区分	開講学期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 栄養指導論Ⅰ・Ⅱおよび栄養指導論実習Ⅰで得られた知識や技術を土台にして、具体的な対象者に対する栄養指導案を作成し、栄養指導を行い食行動の変容に導く理論と技術を習得する。							
	2. 到達目標 1. 栄養指導の対象である個人や集団に食生活・栄養改善上の問題がある場合に、計画的に問題を解決することができる。 2. 栄養指導の対象者に応じた栄養指導案を作成し、栄養教育を実施することができる。 3. 栄養指導による行動変容の評価ができ、フィードバックすることでさらなる改善点を見出すことができる。							
	3. 事前事後学習 事前学習: 栄養指導論Ⅰ・Ⅱで学んだ中で関連する項目を予習しておく。事後学習: 実習で学んだことをまとめる。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 集団を対象とした栄養指導・教育<糖尿病教室指導案作成(特定集団)>							
	② 集団を対象とした栄養指導・教育<指導案作成(不特定集団)>							
	③ 集団を対象とした栄養指導・教育<媒体作成(不特定集団)>							
	④ 集団を対象とした栄養指導・教育<指導案作成>							
	⑤ 集団を対象とした栄養指導・教育<媒体作成 ポスター>							
	⑥ 集団を対象とした栄養指導・教育<模擬栄養教育、評価>							
	⑦ 集団を対象とした栄養指導・教育<模擬栄養教育、評価>							
	⑧ 集団を対象とした栄養指導・教育<模擬栄養教育、評価>							
	⑨ 個人を対象とした栄養指導・教育<模擬個人栄養教育>							
	⑩ 個人を対象とした栄養指導・教育<臨床における模擬個人栄養教育(SOAP表の作成)>							
	⑪ 個人を対象とした栄養指導・教育<病室訪問における模擬個人栄養教育>							
	⑫ 個人を対象とした栄養指導・教育<生活習慣病予防の保健指導における模擬個人栄養教育>							
	⑬ 家族への栄養指導資料作成①							
	⑭ 家族への栄養指導資料作成②							
	⑮ 家族への栄養指導資料作成③							
	⑯ 筆記試験およびレポート提出							
成績評価	学期末試験の成績(50%)※筆記試験は60分で実施 レポート等の提出状況(30%) 受講態度(20%)※出席点を含む							
参考文献等	・演習栄養教育・栄養指導<第5版>(医歯薬出版株式会社 大里進子 他) ・「栄養教育演習・実習」(株)みらい 堀田千津子 他 ・日本人の食事摂取基準<2010年版>厚生労働省(第一冊「食品交換表」: 文光堂 日本糖尿病学会編) ・日本栄養士会監修 食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル(第一出版) ・糖尿病食事療法のための食品交換表(文光堂: 日本糖尿病協会) ・NEXT 栄養教育論実習(講談社サイエンティフィク: 片井加奈子 他)							
備考	・栄養指導・資料作成リストを作成する。(メディカロリーの使用料3,500円を徴収します。)							
	オフィスアワー							

科目番号	452	授業科目	調理学実習Ⅲ (Cooking TrainingⅢ)			担当者	山崎歌織
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年 ・ 後期	生活科学 食物栄養学	実習	1	選択	栄養士免許必修 栄養教諭免許必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 健康増進を根底におき、食材の栄養・特性を知り、それを生かす調理技術を基礎から応用へ進めながら、合理的かつ安心・安全で栄養的に望ましい食事作りが出来る力を養う。常に、旬の食材や地域の特性を生かすようにする。ライフステージに応じた食形態に応用できる力を、基礎から応用まで習得する。						
	2. 到達目標 1 調理学実習での心得を意識し、特に段取りができるようにする。 2 和・洋・中国各様式料理を中心に、折衷料理・郷土料理・行事食を作る力を身につける。 3 食卓の演出を体験しながら、食の総合的实践力を養う。						
	3. 事前事後学習 事前配布資料を基に作り方をフローチャート化し予習を行う。 事後にはレポートをまとめ提出する。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 調理学実習心得:基本的な調理操作理論とエコクッキング						
	② 日本料理①						
	③ 日本料理②						
	④ 郷土料理						
	⑤ 西洋料理①						
	⑥ 西洋料理②						
	⑦ 中国料理①						
	⑧ 中国料理②						
	⑨ クリスマス料理						
	⑩ 正月料理						
	⑪ 魚のさばき方講習会						
	⑫ 総括						
	⑬ 実技試験						
	⑭						
	⑮						
成績 評価	実習および課題レポート(70%) 受講態度(20%) 実技試験(10%)						
	テキスト・・・操作別調理学実習・中野,外西,二木,池田・同文書院 参考文献・・・調理と理論・山崎清子,島田キミエ・同文書院 食品成分表・香川芳子監修・女子栄養大学出版部 実習配布プリント						
備 考	オフィスアワー 金曜日午後(研究室)						

科目番号	453	授業科目	食品評価・鑑別実験 (Food Evaluation and Discrimination Experiments)				担当者	吉元 誠	
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考			
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	実験	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修			
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 多種多様な食品が溢れているが、品質や安全性を理解するためには、科学的、物理的、生物的に評価、鑑別する技術を持って対応することが必要である。比較的簡易な鑑別法や高度な分析法によって、身近な食品の品質を評価する技術を実験によって習得する。								
	2. 到達目標 (1) 食品の品質評価技術について理解する。 (2) 食品成分と評価の関係について理解する。								
	3. 事前事後学習 実験については、実験に関連する課題と実験のレポート提出を義務づけ、翌週の実験開始までに提出させる。								
授 業 計 画	4. 各回の授業内容								
	① 食品の評価・鑑別法として								
	② ①嗜好テスト(香気、呈味:酸味、甘味、辛味、苦味、旨味、テクスチャー)								
	③ ②識別テスト(熟度・鮮度:品種による適正サイズ、重量、形態、色調)								
	④ ③成分の化学分析(水分、色素成分、呈味成分、香気成分、水分活性、特殊成分の分離)								
	⑤ ④成分間の反応(酵素的褐変、非酵素的褐変)を行う。								
	⑥								
	⑦ 食品項目に関して								
	⑧ ①米の鑑別(新古米の判別) ②小麦粉の湿麩、乾麩量(種類、等級)								
	⑨ ③パン、麺類、パスタの品質 ④野菜(天然色素およびそれらの変色)								
	⑩ ⑤⑥果実(有機酸、還元糖) ⑦青果物や果汁のビタミンC								
	⑪ ⑧肉、乳類(鮮度、カルシウム) ⑨調味料(塩分)								
	⑫ ⑩嗜好品、海産物(糖アルコール) ⑪食品の灰分、鉄含量								
	⑬ ⑫加工食品の水分活性 ⑬食品のポリフェノール含量								
	⑭ ⑭アミノカルボニル反応 ⑮ポリフェノールの測定								
	⑮								
	成績評価	実習態度(50%)レポート(50%)							
	参考文献等	教科書: プリント							
参考文献: 「基礎食品学実験書」中村カホルら編著 三共出版									
備考									
	オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00							

科目番号	454	授業科目	食料経済 (Food Economics)			担当者	田代正一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養士・栄養教諭免許必修	
授業の 目 標 及 び 内 容	1. 授業の目的 わが国の食生活は成熟段階に達し、いまや飽食の時代とさえ言われている。このような食料消費の成熟化に伴い、農業や漁業のみならず食品産業の役割がますます大きくなっている。この講義では、食料経済に関する基礎理論について学ぶとともに、農業・漁業から食品工業や食品流通業などの食品産業を経て消費者に至るフードシステムの流れと仕組みについて理解を深める。						
	2. 到達目標 1.食生活の変化と自給率の関係を理解する。 2.食料農産物の生産と貿易について理解する。 3.日本と世界の食料経済事情を理解する。						
	3. 事前事後学習 (事前)前回の講義について復習し疑問点を整理する (事後)当日配布するプリントと講義ノートを復習する						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 食糧経済とフードシステム						
	② 食生活の変化と食料自給率						
	③ 農産物貿易の現状						
	④ 経済成長と農業の変貌						
	⑤ 近年の食料消費の動向						
	⑥ 食料・農業・農村基本法						
	⑦ 欧米諸国の食料事情						
	⑧ 世界の食料需給と食料安全保障						
	⑨						
	⑩						
	⑪						
	⑫						
	⑬						
	⑭						
	⑮						
	成績 評価	平常点と期末試験 学期末試験の成績(60%) 筆記試験は60分で実施 受講態度(40%)					
テキストは特に定めない。講義中にプリントを配布する。							
参考文献等							
備 考							
	オフィスアワー						

科目番号	455	授業科目	消費経済論 (Study of Food Consumer Economy)				担当者	田 代 正 一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 国民の食生活パターンの変化は、わが国の経済発展によってもたらされたが、同時に家庭の食生活行動様式の変化 によるものでもある。加えて、食材供給における輸入の増大、食品流通における加工段階の拡大および外食産業の急展開が後押ししたものである。本講義においては、食品の流通・加工から消費に至るまでの全体構造の変化について理解を深める。							
	2. 到達目標 1.食生活の変化とその要因を理解する。 2.食料品の流通過程を理解する。 3.外食と中食を支える産業について理解する。							
	3. 事前事後学習 (事前) 当日講義予定のテキスト部分を予習する (事後) 当日配布するプリントと講義ノートの復習をする							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 食生活の変化とその要因							
	② 食生活とフードマーケティング							
	③ 食料品の中間流通							
	④ 食料品の小売流通							
	⑤ 家庭内食と食品小売業							
	⑥ 外食と外食産業							
	⑦ 中食と中食産業							
	⑧ 食品消費の課題と展望							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
	成績 評価	レポート提出(60%) 受講態度(40%)						
参考文献等 テキスト 日本フードスペシャリスト協会編 『新版食品の消費と流通』 建帛社								
備 考								
	オフィスアワー							

科目番号	456	授業科目	フードスペシャリスト論 (Theory on Food Specialists)				担当者	村山恵美子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 フードスペシャリストとは、食品の開発、流通、小売、外食の分野において、食品の品質判定、広報、食品知識の普及、販売促進、コーディネート、食育活動を目的とする消費者サイドに立った食の専門職である。この講義では、フードスペシャリストの意義とその概要、その役割を理解することを目的とする。							
	2. 到達目標 1. フードスペシャリストの意義、概要、役割を理解する。 2. フードスペシャリストの業務に必要な知識を習得する。							
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① フードスペシャリストとは							
	② 人類と食物							
	③ 世界の食							
	④ 日本の食							
	⑤ 現代日本の食生活							
	⑥ //							
	⑦ 食品産業の役割							
	⑧ 食品の品質規格と表示							
	⑨ //							
	⑩ //							
	⑪ 食情報と消費者保護							
	⑫ 食品の鮮度と熟度							
	⑬ 食品の鑑別検査法							
	⑭ //							
	⑮ 認定試験過去問題解説							
	⑯ 筆記試験							
成績評価	学期末試験の成績(100%) 筆記試験は60分で実施							
参考文献等	教科書: 日本フードスペシャリスト協会編「四訂フードスペシャリスト論」建帛社 参考書: 日本フードスペシャリスト協会編「新版食品の官能評価・鑑別演習第3版」建帛社 日本フードスペシャリスト協会編「改定食品の安全性」建帛社 日本フードスペシャリスト協会編「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」建帛社 パワーポイント、ビデオ、DVD							
備考								
	オフィスアワー	月・金 9, 10限(研究室)						

科目番号	457	授業科目	フードコーディネート論 (Theory of Food Coordinates)				担当者	千葉しのぶ
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 食べることの意義を生理的・栄養的な側面と文化的・社会的側面から理解し、フードコーディネートの基本理念を把握する。現代の「食」の営み環境は、流動的に変化を続けており、そこには常に対応すべき新しい課題が生まれている。このような時代に、フードコーディネートが食生活に果している役割と価値について学ぶ。							
	2. 到達目標 1、フードコーディネートの基本理念の習得 2、食に対する心理的・文化的側面についての教養・感性を磨く 3、食企画の実践 4、テーブルコーディネートの実践							
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① フードコーディネートの基本理念							
	② おいしさの本質							
	③ 現代の食事文化とその課題①							
	④ 現代の食事文化とその課題②							
	⑤ 現代の食事文化とその課題③							
	⑥ テーブルウェアと食卓の演出							
	⑦ 食卓のサービスとマナー							
	⑧ 食空間のコーディネート							
	⑨ フードサービスマネジメント①							
	⑩ フードサービスマネジメント②							
	⑪ 食企画のコーディネート①							
	⑫ 食企画のコーディネート②							
	⑬ 食企画のコーディネート③							
	⑭ 食企画のコーディネート④							
	⑮ 総括							
成績 評価	受講態度75点 学期末試験25点							
参 考 文 献 等	フードコーディネート論 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社							
備 考	プロジェクター							
	オフィスアワー	水7・8限						

科目番号	458	授業科目	フードコーディネート演習 (Practice of Food Coordinates)				担当者	千葉しのぶ
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	演習	1	選択	フードスペシャリスト 資格認定証必修		
授業 の 目 標 及 び 内 容	1. 授業の目的 フードコーディネート論の基礎知識を基に、実践現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するために必要不可欠な基礎スキルの習得を目指す。							
	2. 到達目標 1、食企画の実践 2、テーブルコーディネートの実践							
	3. 事前事後学習 授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	郷土料理とフードコーディネート						
	②	〃						
	③	和食・洋食のTPOに応じたテーブルコーディネート						
	④	〃						
	⑤	食企画の実践 ①						
	⑥	〃						
	⑦	食企画の実践 ②						
	⑧	〃						
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	実技 50点 受講態度50点							
参考文献等	霧島地野菜レシピ集・ 里山レシピ集 NPO法人霧島食育研究会							
備考								
	オフィスアワー	水9・10限						

科目番号	459	授業科目	発達心理学 (Developmental Psychology)			担当者	平嶋 慶子
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考	
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	2	選択	栄養教諭免許必修 ピアヘルパー必修	
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 人は一生涯をかけて成長、変化し発達する存在である。講義を通して、人間と発達に関するさまざまな考え(人間観)を知り、人の心理発達の理解を学ぶ。また、人の一生の中で起こりうる発達の課題を学び、現代社会に生きる自分や他者について洞察を深める。						
	2. 到達目標 ① 発達の概念と発達の原則を学ぶ。 ② 発達理論を理解する。 ③ 人の一生の発達の的変化を学ぶ。						
	3. 事前事後学習 講義後の復習を主とする。テキストと共に配布資料を確認し、次回の講義までに用語や概念を理解しておくことが重要である。						
授 業 計 画	4. 各回の授業内容						
	① 序論：人間と発達						
	② 発達の原則と発達の期定因						
	③ 発達観の変遷①前成説と先決説						
	④ 発達観の変遷②遺伝説と経験説						
	⑤ 発達観の変遷③相互作用説						
	⑥ 発達段階とは						
	⑦ 発達段階とその特徴①発達の始まり～胎児期～新生児期						
	⑧ 発達段階とその特徴②乳幼児期						
	⑨ 発達段階とその特徴③児童期						
	⑩ 発達段階とその特徴④青年期						
	⑪ 発達段階とその特徴⑤成人期～老年期						
	⑫ 各側面の発達：知覚と知能・認知・思考						
	⑬ 各側面の発達：ことばとコミュニケーション						
	⑭ 各側面の発達：情緒と意思・社会性、道徳性とパーソナリティ						
	⑮ 発達のつまづきと援助						
	⑯ 試験						
成績 評価	筆記試験は90分で実施 試験 80% 受講態度 20%						
参考 文 献 等	テキスト： 発達心理学 無藤隆/中坪史典/西山修 編著 ミネルヴァ書房						
備 考	単位互換開放対象科目						
	オフィスアワー	月曜日～金曜日(火曜日を除く)					

科目番号	460	授業科目	教育相談 (Educational Counseling)				担当者	宮里 新之介
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養	講義	2	選択	栄養教諭免許必修 ピアヘルパー受験資格必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 本講義では、カウンセリングと教育相談の理解を深め、様々な問題を抱えた児童・生徒や保護者への支援、他職種(スクールカウンセラーなど)との連携について学ぶことを目標とします。また、仮想事例を用いて、グループワークとしてチーム会議などを疑似的に体験してもらい、学習の理解を深めます。							
	2. 到達目標 1.学校現場での児童・生徒の適応上の諸問題について理解する 2.カウンセリングの基本的知識と技能の習得							
	3. 事前事後学習 授業は授業中に配布するプリントとテキストに沿って進めます。授業では、前回の授業の復習を簡単に行う場合がありますが、その際に理解度を確認するため、数名の学生を指名して質問に回答してもらう場合がありますので、基本的に復習は行って授業に臨むようにして下さい。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	①	オリエンテーション / 教育相談とは						
	②	カウンセリングと教育相談						
	③	スクールカウンセラーの役割ーチームを組んでの取り組みー						
	④	学級経営と教育相談 ① (小学校)						
	⑤	学級経営と教育相談 ② (中学校)						
	⑥	事例 ① (児童・生徒の逸脱・問題行動と教育相談)						
	⑦	事例 ② (不登校、登校拒否と教育相談)						
	⑧	事例 ③ (いじめ問題と教育相談)						
	⑨	事例 ④ (非行、性的問題と教育相談)						
	⑩	障害児教育と教育相談						
	⑪	保護者への援助と教育相談						
	⑫	学校における教育相談システム						
	⑬	地域諸機関との連携						
	⑭	教育相談と教師の研修						
	⑮	総括と質疑						
	⑯	筆記試験						
成績評価	学期末試験の成績(80点) ※筆記試験は60分で実施 受講態度およびレポートの提出状況(20点)							
参考文献等	テキスト:広木克行(編著)「教師教育テキストシリーズ⑭ 教育相談」 学文社 その他、講義中に適宜紹介します。							
備考	是非、授業の内容に疑問を持って質問してください。							
	オフィスアワー	金曜日 10:35～12:05 (研究室)						

科目番号	461	授業科目	道徳教育の研究 (A Study of Moral Education)				担当者	小柳 正司
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養教諭免許必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。							
	2. 到達目標 ①学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する。 ②「道徳の時間」の役割と意義について、理解する。 ③栄養教諭の立場から見た道徳指導の課題について、理解する。							
	3. 事前事後学習 科目の性質と集中講義形式による授業であることにより、特に事前事後の学習は必要とはしないが、講義へは、集中して積極的に参加することが求められる。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 導入							
	② 小学校の道徳授業のビデオを見る。							
	③ 道徳授業の特色について、グループで話し合う。							
	④ 道徳教育がどうおこなわれているか、資料に基づき現状を知る。							
	⑤ 自分たちが受けてきた道徳教育についてグループで話し合い、道徳教育の課題を探る。							
	⑥ 学校における道徳教育の仕組みを、学習指導要領に基づいて、理解する。							
	⑦ 「道徳の時間」の意義について、実践例(ビデオ)を見ながら、グループで考察する。							
	⑧ 道徳授業の展開の特色、特に「価値の内面化」について理解する。							
	⑨ 読み物資料の読み込みと分析を試みる。							
	⑩ いのちの授業の実践をビデオで見る。							
	⑪ 生命尊重の精神を育てるための学校の取組みについて理解する。							
	⑫ 食育の課題について、ビデオを見ながらグループで話し合う。							
	⑬ 栄養教諭の職務と道徳教育との関係について、グループで話し合う。							
	⑭ 小論文作成。							
⑮								
成績評価	グループ討議などの参加・貢献度 (50%) 小論文 (50%)							
参考文献等	参考文献:『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省) ビデオ							
備考								
	オフィスアワー							

科目番号	462	授業科目	特別活動の研究 (To-learn-by-doing-theory)				担当者	山元 有一
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	講義	1	選択	栄養免必修		
授業の 目標 及び 内容	1. 授業の目的 特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長と共に集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要である。本講義では、学習指導要領に常に依拠しながら、子どもの調和的な発達に特別活動がどのように関わり、どのように指導していくかを考える。							
	2. 到達目標 特別活動の全般的理解							
	3. 事前事後学習 既に実習が終わっているので、現場の「特別活動」がどのようなものであったか本人なりにイメージしておくこと。							
授 業 計 画	4. 各回の授業内容							
	① 特別活動とは？－その変遷、概略的内容							
	② 特別活動とは？－特別活動で望まれるもの							
	③ 小中高学校学習指導要領の比較							
	④ 学級活動について－その内容と事例研究							
	⑤ 生徒会活動について－その内容と事例研究							
	⑥ 学校行事について－具体的な学校行事とその事例研究							
	⑦ 特別活動の新しい実践課題と具体策							
	⑧ 総括							
	⑨							
	⑩							
	⑪							
	⑫							
	⑬							
	⑭							
	⑮							
成績評価	レポート(100%)により評価する。							
参考文献等	講義中、適宜紹介する。							
備考								
	オフィスアワー	水・木曜日を除く随時。						

科目番号	463	授業科目	教職実践演習(栄養教諭) (Senior Seminar for Teacher of Nutrition)				担当者	山崎 歌織 竹原 小菊
区分	開 講 学 期	学科・専攻	履修方法	単位数	必修・選択の別	備 考		
	2年・後期	生活科学 食物栄養学	演習	2	選択	栄養教諭免許必修		
授業の目標及び内容	1. 授業の目的 入学以来履修してきた授業、学外での研修、給食管理実習、栄養教育実習等を学生が有機的に関連づけているか、また、これらを通して学生が栄養教諭として必要な資質・能力を身に付けたかを確認し、さらなる資質向上を目指す。							
	2. 到達目標 1 履修カルテを基に自らの課題と目標を見出す 2 演習を基に教員としての使命感・責任感を自覚する 3 社会性や対人関係能力を確認し、資質向上を目指す							
	3. 事前事後学習 事前調査や準備を行った上で演習に参加する。 事後には、演習のまとめを行い、提出する。							
授業計画	4. 各回の授業内容							
	① 「履修カルテ」を用いた学修の振り返りの講義及びグループ討論						(山崎・竹原)	
	② 栄養教諭の役割や職務内容に関するグループ討論						(山崎・竹原)	
	③ 使命感や責任感、教育的愛情等に関する管理職経験者による講義及び事例研究						(竹原・山崎)	
	④ 社会性や対人関係能力についての管理職経験者による講義及びグループ討論						(竹原・山崎)	
	⑤							
	⑥ 地域の農業等関係者との地域連携等に関する講義及び食農体験						(竹原・山崎)	
	⑦							
	⑧ 現職栄養教諭の授業(食に関する指導)の参観及び現職栄養教諭との意見交換						(外部講師)	
	⑨ 学校現場の見学の振り返り:児童生徒の理解の重要性や教員の責任等に関するグループ討論						(外部講師)	
	⑩ 教科の指導力についての講義及び討論						(松崎)	
	⑪ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 1						(山崎・竹原)	
	⑫ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 2						(山崎・竹原)	
	⑬ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 3						(山崎・竹原)	
	⑭ 模擬授業(食に関する指導)での教育指導力の点検 4						(山崎・竹原)	
⑮ 授業の振り返り、自己点検・評価、教員としての資質に関する客観的評価						(山崎・竹原)		
成績評価	受講態度(30%)、提出物(30%)、討論等への参加状況(10%)、模擬授業(指導案・実践)(30%)、							
参考文献等	テキスト…「食に関する指導の手引き」文部科学省							
備考								
考	オフィスアワー	山崎:金曜日午後(研究室) 竹原:月曜日(13時～18時)火・木曜日(15時～18時)(研究室)						

記入例

1) 履修登録

「修得単位記入表」

[illegible]

《卒業に必要な最低必修単位数》

①必修科目

例) キャリアガイダンス(2単位) … 必ず履修登録し単位を修得しなければならない科目

③ 卒業に必要な63単位以上の単位を修得しても、必修科目の単位が取得できていない場合は、卒業はできない

② 選択必修科目

例) 「一般教養科目」… 上記18科目の中から選択し最低「8単位」取得する
「外国語Ⅰ・Ⅱ」… 4語学の中から1語学選択Ⅰ⇒Ⅱを連続して履修する
⑤ 「Ⅰ・Ⅱ」両方の単位が修得できていなければ卒業はできない

《履修登録の際の注意事項》

- ・履修登録をしていない科目は出席しても成績が出ません。「卒業必修科目」の登録もれが無いよう充分に確認してください。
- ・卒業時に単位数が不足しないよう、「選択科目」は余裕をもって履修登録をしてください。

2) 修得した単位を記入する（個人成績表を見ながら）

「修得單位記入表」

[illegible]

《卒業に必要な単位を修得できなかった場合》

必修科目 … 後期もしくは次年度に再履修となります。時間割を見ながら履修時期を調整

選 擇 必 修 科 目

①「一般教養科目」… a) 同じ科目を後期に再履修する
※ 後期開講科目の単位が修得できなかった場合は次年度前期に再履修
b) 別の科目を履修し単位を補う

②「外国語Ⅰ」 … 「○○演習Ⅰ」の単位を修得できなかった場合

a) 後期に「〇〇演習Ⅱ」を履修し、次年度前期に「〇〇演習Ⅰ」を再履修

b) 「〇〇演習Ⅰ」の単位を修得しなければ「〇〇演習Ⅱ」の受講ができない。科目は次年度「〇〇演習Ⅰ・Ⅱ」を前・後期で再履修
「〇〇演習Ⅱ」の単位を修得できなかった場合、次年度後期に再履修

「修得単位記入表」

平成26年度入学		生活科学専攻		生活科学		生活科学専攻	
氏名		(学籍番号 1412)		組		番	
授業科目		単位数		開講学期		専門科目(卒業必修科目)	
キャリアガイダンス	1	2	1	1	1	1	1
W E L O V E 鹿児島！	1	1	1	1	1	1	1
日本語表現の基礎	1	1	1	1	1	1	1
倫理学	1	1	1	1	1	1	1
文学	1	1	1	1	1	1	1
心理学	1	1	1	1	1	1	1
体育講義	2	2	2	2	2	2	2
体育実技	2	2	2	2	2	2	2
社会学	1	1	1	1	1	1	1
国際化と経済	1	1	1	1	1	1	1
日本国憲法	1	1	1	1	1	1	1
歴史学	1	1	1	1	1	1	1
インターネット	1	1	1	1	1	1	1
海外事情	1	1	1	1	1	1	1
数学基礎	1	1	1	1	1	1	1
理科基礎	1	1	1	1	1	1	1
分子からみた生物	1	1	1	1	1	1	1
人間と環境	1	1	1	1	1	1	1
英語演習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1
英語演習Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1
ドイツ語演習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1
ドイツ語演習Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1
中国語演習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1
中国語演習Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1
韓国語演習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1
韓国語演習Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1
社会福祉	2	2	2	2	2	2	2
家族関係論	2	2	2	2	2	2	2
食生活論	1	1	1	1	1	1	1
住生活論	1	1	1	1	1	1	1
現代社会論	1	1	1	1	1	1	1
健康管理概論	2	2	2	2	2	2	2
精神保健	2	2	2	2	2	2	2
公衆衛生学	2	2	2	2	2	2	2
調理実習	2	2	2	2	2	2	2
住環境学	2	2	2	2	2	2	2
人類学	2	2	2	2	2	2	2
情報処理演習	2	2	2	2	2	2	2
秘書実務	2	2	2	2	2	2	2
秘密	2	2	2	2	2	2	2
卒業に必要な最低必修単位数		62		自分の取得した単位数を記入⇒		※ 選択①	
養護教諭免許申請に必要な最低必修単位数		86					
中学校教諭(保健)免許申請に必要な最低必修単位数		89					
医療秘書実務士必修科目							
第一種衛生管理者免許必修科目							
ピアヘルパー資格必修科目							

注1) 養護教諭免許に最低必修単位数は、86単位であるが、実質は、専門科目（選択）の選択①+選択②を取得すると33単位になるため、最低必修単位数は88単位になる。

[illegible]

「修得単位記入表」

氏名		組 番	
平成26年度入学	生活科学科	生活福祉専攻	
授業科目	開講 学期	単位数	自分の取得した単位数を記入⇒
キャリアデザイン	1 前 2 後	1 1	2
W E L O V E 観望会！	1 前	1	1
倫理学	1 前 2 後	1 2	
社会学	1 前 2 後	1 2	
日本国憲法	1 前 2 後	1 2	
数学基礎	1 前 2 後	1 2	
人間と環境	1 前 2 後	1 2	
日本語表現の基礎	1 前 2 後	1 2	
文学	1 前 2 後	1 2	
心理学	1 前 2 後	1 2	
体育講義	2 前 2 後	2 1	
体育実技	2 前 2 後	2 1	
国際化と経済	1 前 2 後	1 2	
歴史学	1 前 2 後	1 2	
インターンシップ	1 前 2 後	1 2	
海外事情	1 前 2 後	1 2	
理科基礎	1 前 2 後	1 2	
分子からみた生物	1 前 2 後	1 2	
英語演習Ⅰ	1 前	1	
英語演習Ⅱ	1 後	1	
ドイツ語演習Ⅰ	1 前	1	
ドイツ語演習Ⅱ	1 後	1	
中国語演習Ⅰ	1 前	1	
中国語演習Ⅱ	1 後	1	
韓国語演習Ⅰ	1 前	1	
韓国語演習Ⅱ	1 後	1	
専門科目（卒業必修科目）	人間と社会	★①	
人間の尊厳と自立	1 前 2 後	1 2	
人間関係とコミュニケーション	1 前 2 後	1 2	
社会と制度の理解	1 前 2 後	1 2	
社会保険制度	1 前 2 後	1 2	
介護の基本Ⅰ	1 前 2 後	1 2	
介護の基本Ⅱ	1 前 2 後	1 2	
介護の基本Ⅲ	1 前 2 後	1 2	
社会福祉援助技術	2 前 2 後	2 2	
リハビリテーション論	2 前 2 後	2 2	
コミュニケーションの基礎	2 前 2 後	2 2	
コミュニケーション演習	2 前 2 後	2 2	
生活支援技術 A	1 前 2 後	1 2	
生活支援技術 B	1 前 2 後	1 2	
生活支援技術 C	1 前 2 後	1 2	
生活支援技術 D	2 前 2 後	2 2	
卒業に必要な最低必修単位数	62	卒業に必要な最低必修単位数	62
介護福祉士資格申請に必要な最低必修単位数	97	介護福祉士資格申請に必要な最低必修単位数	97
レクリエーションストラクター資格必修科目	66	レクリエーションストラクター資格必修科目	66
ピアヘルパー資格必修科目		ピアヘルパー資格必修科目	

注1) 人間と社会 ★印の①+②の科目から8単位以上選択必修

[illegible]

「修得单位記入表」

[illegible][illegible]

目 次 (科目名50音順)

【い】 インターンシップ	26	化学	173
医療事務総論(医療秘書実務含む)	76	解剖生理学	179
医療事務演習Ⅰ	77	解剖生理学実験	196
医療事務演習Ⅱ(実習指導を含む)	95	学校保健	58
医療秘書実務実習	94	学校栄養教育論	191
医療的ケア	122	喀痰吸引	152
【う】 WE LOVE 鹿児島!	50	喀痰吸引演習	163
運動生理学	83	生活 【き】 キャリアガイダンスⅠ	27
運動生理学	213	食 業 キャリアガイダンスⅡ	28
【え】 英語演習Ⅰ	29	救急処置Ⅰ	57
英語演習Ⅰ	30	教 職 概 論	60
英語演習Ⅰ	31	教 育 原 理	61
英語演習Ⅱ	40	救急処置Ⅱ	72
英語演習Ⅱ	41	教育心理学	73
英語演習Ⅱ	42	教育方法の研究	75
栄養学	53	教育制度論	86
栄養指導論Ⅰ	169	教育課程の研究	87
栄養学総論	184	教 育 相 談	89
栄養指導論Ⅱ	188	教育実習(保健)事前事後指導	92
栄養指導実習Ⅰ	200	教育実習(保健)	93
栄養教育実習事前事後指導	211	教職実践演習(養護教諭)	106
栄養教育実習	212	教職実践演習(中・保健)	107
栄養指導実習Ⅱ	215	給食管理	170
栄養生化学Ⅰ	165	教職概論	175
栄養生化学Ⅱ	180	教育原理	177
【お】 応用栄養学	185	教育心理学	192
応用栄養学実習	186	教育方法の研究	193
【か】 韓国語演習Ⅰ	34	給食実務演習	202
海外事情	39	給食管理実習Ⅰ	203
韓国語演習Ⅱ	45	給食管理実習Ⅱ	205
解剖学Ⅰ	54	給食管理実習Ⅲ	206
看護学	56	給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導	204
解剖学Ⅱ	67	教育課程の研究	210
解剖生理学実験	68	教育相談	224
看護実習	71	教職実践演習(栄養教諭)	227
環境衛生学	82	【く】 くらしとお茶A	174
家族関係論	96	くらしとお茶B	209
介護の基本Ⅰ	114	【け】 健康相談活動	65
介護の基本Ⅱ	115	健康管理概論	100
介護過程Ⅰ	118	経管栄養	136
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	119	経管栄養演習	153
介護技術の基礎	121	ケアマネジメント	158
介護の基本Ⅲ	126	現代社会論	63
介護過程Ⅱ	129	【こ】 国際化と経済	23
介護実習Ⅰ	130	公衆衛生学	101
介護実習Ⅱ	131	コミュニケーション演習	127
介護過程Ⅲ	146	高齢者の介護	132
介護総合演習Ⅲ	147	こころとからだのしくみⅠ(医学)	135
介護実習Ⅲ	149	コミュニケーションの基礎	142
介護の基本Ⅳ	156	こころとからだのしくみⅡ(精神)	161
介護過程Ⅳ	157	公衆衛生学Ⅰ	178
介護総合演習Ⅳ	159	公衆栄養学	189
介護実習Ⅳ	160	公衆衛生学Ⅱ	194

目 次 (科目名50音順)

【し】 心理学	21	調理学	171
社会学	22	調理学実習Ⅰ	172
食生活論	51	調理学実験・実習	190
疾病学	81	調理学実習Ⅱ	207
疾患看護学	102	調理学実習Ⅲ	216
障害の理解Ⅰ	134	【と】 特別活動の研究	104 生活
障害の理解Ⅱ	151	特別活動の研究	226 食栄
食品学総論	166	ドイツ語演習Ⅰ	32
食品学実験	167	ドイツ語演習Ⅱ	43
食品衛生学	168	道德教育の研究	103 生活
食品学各論	181	道德教育の研究	225 食栄
食品加工学	182	【に】 日本語表現の基礎	17
食品衛生学実験	183	日本国憲法	24
社会福祉概論	195	人間と環境	38
食事環境の設計	201	人間の尊厳と自立	124
食品加工学実習	208	認知症の理解	133
食品評価・鑑別実験	217	認知症者の介護	150
食料経済	218	人間関係とコミュニケーション	155
消費経済論	219	【は】 発達心理学	74 生活
住生活論	52	発達と老化の理解	120
情報機器演習	62 生活	発達心理学	223 食栄
情報処理演習	79	【ひ】 秘書実務	64
住環境学	97	病理学	66
人類学	99	微生物学	69
情報処理Ⅰ	138	病態生化学	214
住環境と福祉	139	【ふ】 フードスペシャリスト論	220
事例研究(ゼミナール)	145	フードコーディネイト論	221
情報機器演習	176 食栄	フードコーディネイト演習	222
社会福祉	78	文学	19
社会と制度の理解	112	文学	20
社会保障制度	125	分子からみた生物	37
社会福祉援助技術	140	【ほ】 保健科教育法	88
【す】 数学基礎	35	【や】 薬理概論	70
【せ】 生理学	55	養護概説	59
精神保健	80	養護実習事前事後指導	90
生徒指導	105	養護実習	91
生活支援技術A	116	【り】 倫理学	18
生活支援技術(住)	117	理科基礎	36
生活支援技術B	128	臨床看護実習	84
生活支援技術C	143	臨床看護実習指導	85
生活支援技術D(住環境含む)	144	リハビリテーション論	141
生活支援技術(食・衣)	145	臨床栄養学総論	187
生化学実験	197	臨床栄養学各論	198
【た】 体育実技	46 生・福	臨床栄養学実習	199
体育実技	47 食栄	【れ】 歴史学	25
体育講義	48 生・福	レクリエーション概論	113
体育講義	49 食栄	レクリエーション活動援助法Ⅰ	123
ターミナルケア	162	レクリエーション活動援助法Ⅱ	137
【ち】 中国語演習Ⅰ	33	レクリエーションワーク	154
中国語演習Ⅱ	44	【ろ】 労働基準法	108
調理実習	97	労働安全衛生法	109
聴覚障害者の生活支援	164		